

令和5年度  
事業報告書

自 令和 5年 4月 1日  
至 令和 6年 3月31日

学校法人 九州文化学園

## 目 次

### 内容

I. 学校法人の概要.....	1
1. 基本情報.....	1
2. 建学の精神.....	1
3. 学校法人の沿革.....	1
4. 設置する学校・学部・学科等.....	3
5. 学校・学部・学科等の学生数の状況.....	4
6. 収容定員充足率.....	4
7. 役員の概要.....	5
8. 評議員の概要.....	6
9. 教職員の概要.....	6
10. 中期計画における基本方針と重点戦略.....	7
II. 事業の概要.....	8
1. 長崎国際大学.....	8
2. 長崎短期大学.....	29
3. 九州文化学園高等学校.....	42
4. 九州文化学園中学校.....	50
5. 九州文化学園小学校.....	56
6. 認定こども園九州文化学園幼稚園.....	62
7. 九州文化学園調理師専門学校.....	71
8. 九州文化学園歯科衛生士学院.....	80
9. 法人事務局.....	89
10. 学園全体.....	97
11. 法人全体の計画の進捗・達成状況.....	98
III. 財務の概要.....	100
1. 決算の概況.....	100
2. その他.....	105
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策.....	107
IV. 令和5年度 計算書類.....	108
1. 資金収支計算書.....	109
2. 活動区分資金収支計算書.....	110
3. 事業活動収支計算書.....	111
4. 貸借対照表.....	112
5. 財産目録.....	113

## I. 学校法人の概要

### 1. 基本情報

法人の名称	学校法人九州文化学園
主たる事務所の住所等	【学校法人九州文化学園 法人本部】 〒859-3243 長崎県佐世保市ハウステンボス町4番地3 TEL 0956-27-0666 FAX 0956-27-0678
ホームページアドレス	<a href="https://www.kyubun.ed.jp/">https://www.kyubun.ed.jp/</a>

### 2. 建学の精神

この法人は、教育基本法・学校教育法・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育及び保育を行い、九州文化学園創設の精神に則り、高い知性と豊かな教養、優れた徳性と品格、たくましい意志と健康な身体の備わった人間を育成することを目的とする。

(学校法人九州文化学園 寄附行為 第3条「目的」より)

### 3. 学校法人の沿革

年月	事項
昭和 20(1945)年 11 月	財団法人九州文化学院設立申請(校地：大黒町 元海軍工廠工員宿舍)
12 月	財団法人九州文化学院創立(12 月 15 日、創立記念日)
昭和 22(1947)年 2 月	九州女子専門学校認可され、法人設立(2 月 28 日)
昭和 23(1948)年 9 月	校地：矢岳移転
昭和 26(1951)年 2 月	学校法人九州文化学園へ組織変更(2 月 24 日)
3 月	九州文化学園高等学校設置認可(3 月 24 日)
4 月	九州文化学園高等学校開校
昭和 29(1954)年 6 月	九州文化学園幼稚園設置認可(6 月 24 日)
昭和 41(1966)年 3 月	九州文化学園短期大学設置認可(3 月 18 日)
昭和 41(1966)年 4 月	九州文化学園短期大学開学(食物科設置)
昭和 46(1971)年 3 月	九州文化学園調理師専修学校設置認可(3 月 10 日)
昭和 47(1972)年 4 月	九州文化学園短期大学幼児教育学科設置
昭和 50(1975)年 11 月	九州文化学園創立 30 周年記念式典開催
昭和 53(1978)年 1 月	初代理事長(創設者)逝去(1 月 31 日)
昭和 56(1981)年 2 月	九州文化学園歯科衛生士学院設置認可(2 月 26 日)
昭和 60(1985)年 4 月	九州文化学園短期大学を長崎短期大学に名称変更、椎木キャンパスへ移転
平成元(1989)年 4 月	長崎短期大学英語科、幼児教育学科専攻科福祉専攻(後に廃止)設置
平成 7(1995)年 4 月	長崎短期大学英語科専攻科英語専攻設置(後に廃止)
11 月	九州文化学園開設 50 周年記念式典開催・50 周年記念誌発行
平成 8(1996)年 4 月	九州文化学園高等学校衛生看護専攻科開設 長崎短期大学食物科専攻科食物栄養専攻開設(後に廃止)
平成 11(1999)年 12 月	長崎国際大学設置認可(12 月 22 日)
平成 12(2000)年 4 月	長崎国際大学開学(校地：ハウステンボスキャンパス) 人間社会学部国際観光学科・社会福祉学科開設 長崎短期大学幼児教育学科を保育学科に名称変更
平成 14(2002)年 4 月	長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科開設 長崎短期大学を男女共学化
平成 16(2004)年 4 月	長崎国際大学大学院人間社会学研究科観光学専攻・社会福祉学専攻(修士課程)開設
平成 18(2006)年 4 月	長崎国際大学薬学部薬学科(6 年制)、大学院健康管理学研究科健康栄養学専攻(修士課程) および大学院人間社会学研究科地域マネジメント専攻(博士後期課程)開設 九州文化学園高等学校を椎木キャンパス、九州文化学園調理師専修学校と九州文化学園

年月	事項
	歯科衛生士学院を藤原キャンパス、九州文化学園幼稚園を上町キャンパス、法人事務局をハウステンボス町へ各々移転
	九州文化学園高等学校を男女共学化
	九州文化学園歯科衛生士学院を3年制度に変更
平成20(2008)年 4月	長崎短期大学専攻科保育専攻開設
平成22(2010)年 4月	長崎短期大学保育学科保育専攻および介護福祉専攻開設
平成25(2013)年 1月	旧矢岳キャンパス(佐世保中央 IC)記念碑建立
4月	長崎短期大学英語科を国際コミュニケーション学科へ名称変更
平成26(2014)年 4月	長崎国際大学大学院薬学研究科医療薬学専攻(4年制博士課程)開設
平成27(2015)年 4月	九州文化学園幼稚園を認定こども園九州文化学園幼稚園(幼保連携型)に変更開園
11月	九州文化学園創立70周年記念式典・祝賀会 開催
12月	70周年記念誌 発行
平成28(2016)年 4月	九州文化学園調理師専修学校を九州文化学園調理師専門学校に校名変更し、2年専門課程開設
平成30(2018)年 9月	九州文化学園小学校・九州文化学園中学校設置認可(9月10日)
平成31(2019)年 4月	九州文化学園小学校・九州文化学園中学校開設(校地：花園キャンパス)
令和2(2020)年 4月	長崎短期大学国際コミュニケーション学科、食物科、保育学科(2専攻)を改組し、地域共生学科4コース(食物栄養・製菓・介護福祉・国際コミュニケーション)、保育学科へ変更
令和3(2021)年 3月	九州文化学園 SDGs 推進宣言(3月17日)
令和3(2021)年 9月	九州文化学園高等学校に新校舎竣工
令和4(2022)年 3月	第1回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3月17日)
令和4(2022)年 4月	九州文化学園高等学校 普通科をSアカデミー・Sグローバル・総合進学・キャリアデザインの4コース制に変更
令和5(2023)年 3月	第2回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3月17日)
令和5(2023)年 3月	ハウステンボス(大学)キャンパスに多目的グラウンドが竣工
令和5(2023)年 4月	九州文化学園歯科衛生士専門学校を男女共学化
令和6(2024)年 3月	第3回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3月15日)

#### 4.設置する学校・学部・学科等

学校等の名称	住所等	
長崎国際大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間社会学研究科 <ul style="list-style-type: none"> <li>観光学専攻[修士課程]</li> <li>社会福祉学専攻[修士課程]</li> <li>地域マネジメント専攻[博士後期課程]</li> </ul> </li> <li>● 健康管理学研究科 <ul style="list-style-type: none"> <li>健康栄養学専攻[修士課程]</li> </ul> </li> <li>● 薬学研究科 <ul style="list-style-type: none"> <li>医療薬学専攻[4年制博士課程]</li> </ul> </li> <li>● 人間社会学部 <ul style="list-style-type: none"> <li>国際観光学科</li> <li>社会福祉学科</li> </ul> </li> <li>● 健康管理学部 健康栄養学科</li> <li>● 薬学部 薬学科[6年制]</li> </ul>	<p>【ハウステンボスキャンパス】</p> <p>〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825 番地 7 TEL 0956-39-2020 FAX 0956-39-3111 <a href="https://www.niu.ac.jp">https://www.niu.ac.jp</a></p>
長崎短期大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域共生学科 <ul style="list-style-type: none"> <li>食物栄養コース</li> <li>製菓コース</li> <li>介護福祉コース</li> <li>国際コミュニケーションコース</li> </ul> </li> <li>● 保育学科</li> <li>● 専攻科保育専攻</li> </ul>	<p>【椎木キャンパス】</p> <p>〒858-0925 長崎県佐世保市椎木町 600 番 TEL 0956-47-5566 FAX 0956-47-5596 <a href="https://www.njc.ac.jp">https://www.njc.ac.jp</a></p>
九州文化学園高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 普通科 <ul style="list-style-type: none"> <li>S アカデミーコース</li> <li>S グローバスコース</li> <li>総合進学コース</li> <li>キャリアデザインコース</li> </ul> </li> <li>● 食物調理科</li> <li>● 衛生看護科</li> <li>● 保育福祉科 <ul style="list-style-type: none"> <li>保育コース</li> <li>福祉コース</li> </ul> </li> </ul>	<p>【椎木キャンパス】</p> <p>〒858-0925 長崎県佐世保市椎木町 600 番 TEL 0956-26-2323 FAX 0956-26-2211 <a href="https://high-school.kyubun.ed.jp">https://high-school.kyubun.ed.jp</a></p>
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	<p>【椎木キャンパス】</p> <p>〒858-0925 長崎県佐世保市椎木町 600 番 TEL 0956-26-2327 FAX 0956-26-2299 <a href="https://high-school.kyubun.ed.jp/kango-senko/">https://high-school.kyubun.ed.jp/kango-senko/</a></p>	
九州文化学園小学校・九州文化学園中学校	<p>【花園キャンパス】</p> <p>〒857-0024 長崎県佐世保市花園町 10 番 1 号 TEL 0956-37-8100 FAX 0956-37-8200 <a href="https://kyubun-ejhs.ed.jp/">https://kyubun-ejhs.ed.jp/</a></p>	
認定こども園九州文化学園幼稚園	<p>【上町キャンパス】</p> <p>〒857-0058 長崎県佐世保市上町 8 番 35 号 TEL 0956-24-8735 FAX 0956-24-8773 <a href="https://kyubun-yochien.ed.jp">https://kyubun-yochien.ed.jp</a></p>	
九州文化学園調理師専門学校	<p>【藤原キャンパス】</p> <p>〒857-0832 長崎県佐世保市藤原町 7 番 32 号 TEL 0956-26-1280 FAX 0956-26-1285 <a href="https://kyubun-chori.ac.jp">https://kyubun-chori.ac.jp</a></p>	
九州文化学園歯科衛生士学院	<p>【藤原キャンパス】</p> <p>〒857-0832 長崎県佐世保市藤原町 7 番 32 号 TEL 0956-26-1203 FAX 0956-26-1204 <a href="https://kyubun-shika.ac.jp">https://kyubun-shika.ac.jp</a></p>	

## 5.学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和5(2023)年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数	
長崎国際大学	人間社会学部	260人	278人	1,100人	1,121人
	健康管理学部	80人	51人	340人	256人
	薬学部	120人	103人	720人	691人
	人間社会学研究科	23人	6人	49人	27人
	健康管理学研究科	4人	1人	8人	5人
	薬学研究科	3人	2人	12人	8人
長崎短期大学	地域共生学科	135人	139人	270人	296人
	保育学科	100人	81人	200人	167人
	専攻科保育専攻	10人	4人	20人	9人
九州文化学園高等学校	普通科 ※1	120人	133人	330人	330人
	食物調理科	40人	50人	120人	151人
	保育福祉科	80人	78人	240人	229人
	衛生看護科	40人	54人	120人	161人
	衛生看護専攻科	45人	60人	90人	105人
九州文化学園中学校	40人	19人	120人	56人	
九州文化学園小学校 ※2	40人	20人	200人	121人	
認定こども園九州文化学園幼稚園 ※3	—	—	270人	199人	
九州文化学園調理師専門学校	40人	14人	80人	27人	
九州文化学園歯科衛生士学院	40人	39人	120人	93人	

※1 高校普通科の収容定員は、令和4(2022)年度からの定員増(+30人)しており1学年分の学年進行を反映した数値

※2 小学校の収容定員は、学年進行(5学年)までの定員

※3 幼稚園の収容定員は、1号認定、2号認定、3号認定の各利用定員の合計値を記載

## 6.収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度
長崎国際大学	107.5%	107.7%	103.5%	97.8%	95.7%
長崎国際大学大学院	46.4%	50.7%	53.6%	59.4%	58.0%
長崎短期大学	99.0%	97.1%	85.1%	87.2%	98.5%
長崎短期大学専攻科保育専攻	80.0%	55.0%	50.0%	45.0%	45.0%
九州文化学園高等学校	101.0%	100.9%	105.6%	109.7%	107.5%
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	98.9%	106.7%	94.4%	82.2%	116.7%
九州文化学園中学校	50.0%	52.5%	50.8%	50.0%	46.6%
九州文化学園小学校	47.5%	48.8%	55.8%	61.3%	60.5%
認定こども園九州文化学園幼稚園	83.0%	90.7%	85.6%	84.4%	73.7%
九州文化学園調理師専門学校	41.3%	33.8%	31.3%	33.8%	33.8%
九州文化学園歯科衛生士学院	86.7%	78.3%	70.8%	73.3%	77.5%

※ 九州文化学園高校は入学定員を平成30(2018)年度より20人増。以降、各年度の収容定員は進行学年までの定員数の合計を分母として算定。また令和4(2022)年度より30人増。

※ 九州文化学園小学校・中学校は平成31/令和元(2019)年度に開設。令和5(2023)年度時点で、小学校は5学年まで進行中。各年度の収容定員充足率は進行学年までの定員数の合計を分母として算定。

※ 認定こども園九州文化学園幼稚園は利用定員を平成30(2018)年度に12人増、平成31/令和元(2019)年度に6人増。

## 7. 役員 の 概 要

■理事(定数6人以上9人以内 現員8人)

(令和6(2024)年3月28日現在)

役職	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	主な現職等
理事長	安部 直樹	令和2(2020)年4月1日	常勤	学校法人九州文化学園 理事長
常務理事	安部 雅隆	令和4(2022)年9月30日	常勤	学校法人九州文化学園 常務理事・法人本部長
理事	安東 由喜雄	令和4(2022)年4月1日	常勤	学校法人九州文化学園 長崎国際大学学長
	横田 正俊	令和5(2023)年7月1日	常勤	学校法人九州文化学園 九州文化学園高等学校校長
	柿本 雄二	令和5(2023)年7月5日	常勤	学校法人九州文化学園 法人事務局長
	綾部 賢一郎	令和3(2021)年7月5日	常勤	学校法人九州文化学園 長崎国際大学事務局長
	本岡 吉彦	令和4(2022)年2月6日	非常勤	長崎日本語学院 代表取締役社長
	吉澤 俊介	令和4(2022)年6月27日	非常勤	株式会社十八親和銀行 顧問

■監事(定数2人以上3人以内 現員3人)

(令和6(2024)年3月28日現在)

役職	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	主な現職等
監事	平木 博之	令和4(2022)年2月6日	非常勤	元 銀行員
	松瀬 太郎	令和5(2023)年6月1日	非常勤	元 公立高校校長
	川口 博樹	令和4(2022)年2月6日	非常勤	西肥自動車株式会社 顧問

■責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

見出名	規則条項	条文
責任の免除	学校法人九州文化学園寄附行為 第8章 第47条	✓ 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。
責任限定契約	学校法人九州文化学園寄附行為 第8章 第48条	✓ 理事(理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。)又は監事(以下この条において「非業務執行理事等」という。)が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金10万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

契約名称	契約先	対象および契約概要
役員賠償保険	東京海上日動火災保険株式会社 (代理店：有限会社オフィス東海)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 【対象】 理事・監事・評議員、法人(調査費・第三者委員会費用のみ)</li> <li>✓ 【概要】 学校法人役員の任務懈怠による賠償責任(第三者或いは学校法人に対するもの)を補償する。</li> </ul>

## 8.評議員の概要

(定数13人以上19人以内 現員19人)

(令和6(2024)年3月28日現在)

役職	氏名	就任年月日	主な現職等(選任区分)
評議員	安部 直樹	令和5(2023)年7月5日	学校職員
	安部 雅隆	令和5(2023)年7月5日	学校職員
	木村 勝彦	令和5(2023)年7月5日	学校職員
	川原 ゆかり	令和5(2023)年7月5日	学校職員
	金子 圭一	令和5(2023)年7月5日	学校職員
	大坂 良一	令和5(2023)年7月5日	学校職員
	柿本 雄二	令和5(2023)年7月5日	学校職員
	樋口 由美子	令和5(2023)年7月5日	卒業生
	田淵 美紀	令和5(2023)年7月5日	卒業生
	瓜生 陽子	令和5(2023)年7月5日	卒業生
	大久保 美香	令和5(2023)年7月5日	卒業生
	徳吉 由香	令和5(2023)年7月5日	卒業生
	荒巻 桂二郎	令和5(2023)年7月5日	卒業生
	本岡 吉彦	令和5(2023)年7月5日	学識経験者
	久家 謙二	令和5(2023)年7月5日	学識経験者
	口石 長次	令和5(2023)年7月5日	学識経験者
	百津 真人	令和5(2023)年7月5日	学識経験者
	頼原 秀子	令和5(2023)年7月5日	学識経験者

## 9.教職員の概要

(令和5(2023)年5月1日現在)

### ■学長・学校長等

学校名	役職名	氏名
長崎国際大学	学長	安東 由喜雄
長崎短期大学	学長	安部 恵美子
九州文化学園高等学校	校長	横田 正俊
九州文化学園中学校	校長	橋本 信博
九州文化学園小学校	校長	橋本 信博

学校名	役職名	氏名
認定こども園九州文化学園幼稚園	園長	金子 圭一
九州文化学園調理師専門学校	校長	大坂 良一
九州文化学園歯科衛生士学院	学院長	大坂 良一

### ■長崎国際大学

	本務教員							兼務教員数
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	平均年齢	
人間社会学部	15人	13人	17人	3人	1人	49人	50歳	48人
健康管理学部	6人	3人	6人	3人	6人	24人	42歳	
薬学部	24人	9人	12人	5人	2人	52人	48歳	
合計	45人	25人	35人	11人	9人	125人	48歳	

※理事長を人間社会学部の教授、学長を薬学部の教授、副学長を人間社会学部の教授に算入。

### ■長崎短期大学

	本務教員							兼務教員数
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	平均年齢	
地域共生学科	5人	2人	6人	6人	3人	22人	42歳	57人
保育学科	6人	4人	0人	3人	0人	13人	50歳	
合計	11人	6人	6人	9人	3人	35人	45歳	

※学長を保育学科の教授、副学長を保育学科の教授に算入。

### ■高等学校、小中学校、幼稚園

	本務教員					兼務教員数
	教諭	助教諭	講師	合計	平均年齢	
九州文化学園高等学校	43人	15人	0人	58人	45歳	35人
九州文化学園中学校	10人	0人	1人	11人	42歳	
九州文化学園小学校	12人	0人	2人	14人	44歳	
認定こども園九州文化学園幼稚園	22人	0人	10人	32人	35歳	

※ 高等学校長、小中学校長、副校長、教頭、幼稚園園長、養護教諭をそれぞれの教諭に算入。



■専修学校

	本務				兼務 教員数
	教員	講師	合計	平均年齢	
九州文化学園調理師専門学校	4人	0人	4人	41歳	51人
九州文化学園歯科衛生士学院	8人	0人	8人	44歳	143人

※ 校長兼学院長を学院に算入。

■事務職員

	本務		兼務 職員数
	職員数	平均年齢	
長崎国際大学	68人	45歳	10人
長崎短期大学	16人	43歳	6人
九州文化学園高等学校	8人	53歳	1人
九州文化学園中学校	1人	44歳	0人
九州文化学園小学校	4人	45歳	0人
認定こども園九州文化学園幼稚園	4人	49歳	5人
九州文化学園調理師専門学校	0人	—	1人
九州文化学園歯科衛生士学院	0人	—	0人
法人事務局	17人	47歳	0人
合計	118人	46歳	23人

10.中期計画における基本方針と重点戦略

■基本方針

1	成長力の確保	学園や各機関として、現状維持ではなく成長すること、またその原動力を確保することを目指す。
2	教育力の向上	学校として教育の質を向上すること、教育組織や教職員個々の能力を高めることを目指す。
3	約定返済の確実な履行	毎年度の事業収支や自己資金を目標通り確保し、借入金を約定通りに返済することのできる安定した財務体質を形成することを目指す。

■重点戦略

戦略区分		達成目標
戦略Ⅰ	建学の精神・理念に基づく人材養成と内部質保証の担保	① 建学の精神の教職員への浸透と共有、尊重する風土の形成 ② 建学の精神に基づく人的資源の確保・育成 ③ 本学園の教育について内部質保証のできる組織の形成
戦略Ⅱ	成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実	① 継続的に成長・発展できる教育力や成長力の獲得 ② 伸長度合いを確認・検証できる教学や経営情報の見える化 ③ 社会に貢献できる人材を輩出するキャリアデザイン支援の構築
戦略Ⅲ	グローバル化と社会連携の強化、ステークホルダーとの関係強化	① With コロナ、After コロナ下でも実現できるグローバル化の構築 ② 地域と連携・協働した教育・研究・学生等支援体制の強化 ③ 保護者や卒業生、教職員OBとの関係性の強化
戦略Ⅳ	ICT化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上と経営の効率化	① ICTを活用した教育・研究環境の整備と教育改革の実施 ② ICTを活用した業務効率化の推進と利用者の意識改革の実施 ③ ICT環境導入を実現できる資金確保策の実施
戦略Ⅴ	認知度やブランド力の向上と入学定員・収容定員の充足	① 認知度向上やブランドアップを効果的に推進する仕組みの構築 ② 教職員に対するインナーリレーション強化策の実施
戦略Ⅵ	財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化	① 定員確保による学納金収入や補助金・寄付金・外部資金等の獲得による収入の最大化 ② 人件費や経費の効果的な支出と適正水準の維持 ③ 約定返済の確実な履行 ④ 法人本部および各設置校で機動的な組織運営を遂行できる体制の整備

## II. 事業の概要

### 1. 長崎国際大学

#### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	3S、speed、service、scientific に遂行する。
経営目標	様々なメソッドを用い広報活動の強化に努める。 With コロナを念頭に置き安全、安心の中で、合理的経営を図る。

#### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育活動に関しては、建学の理念、教育の目的、3ポリシー等に即した知識・技能を学生が修得できる学修者本位の教育実現のために、教職員一体となった教育支援体制の充実に努めるとともに、離学防止に向けた取り組みに注力した。</li> <li>✓ 学生募集に関しては、入学定員充足を必達目標として、内部進学促進や外国人留学生、社会人といった多様な入学者層獲得に向けた活動を実施した。広報活動に関しては、「広報活動の基本方針」に基づき、本学の催事、教育研究活動、地域連携活動を積極的に発信した。</li> <li>✓ 管理運営に関しては、使命・目的の達成に向けて、「長崎国際大学ガバナンス・コード」等に基づき、法令改正への適切な対応、実効性ある中期計画および年次計画策定と進捗管理を行った。また財務安定化、組織力向上を目指す人事制度構築を推進した。併せて教育機関としての社会への責任を果たす目的で、公共性・信頼性・透明性を担保した大学運営を行った。</li> <li>✓ 今年度も安全・安心を享受できる教育環境を整備すべく、学長が院長を務める NIU 利休庵診療所と協同し、学生・教職員向けに新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザの予防接種も実施した。(11/28～11/30)</li> <li>✓ 施設設備等に関しては、教育・研究・学生生活の充実に必要な案件について優先度と重要度を勘案しながら、計画的な更新に努めた。</li> </ul>
--

#### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ After コロナ時代における Society5.0 の加速、SDGs に対応できるよう、建学の理念、教育の目的、3ポリシー等に基づき、「グローバル化、IT 化を推進できる人材の育成に対する教育・研究」、「地域の拠点大学としての教育・研究活動の推進」、「未来型学生の育成」の3つを柱として、学生一人ひとりの成長にフォーカスした教育・学修支援を推進した。</li> <li>✓ 外国人留学生の受入れをさらに促進すべく、留学生のキャリア支援充実に向け、長崎留学支援センターと留学生就職促進プログラムに着手した。</li> <li>✓ 佐賀県にある西九州大学と定期的に包括的連携協議会を開催し、事務組織の共同運営、SD・FD の共同実施、施設設備の共用化、物品の共同調達等の連携事業を行った。</li> </ul>
2	教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育課程の体系化のために学生の学修状況管理、実践的な学修機会の提供、産業界との連携強化を図った。</li> <li>✓ 教職員の資質向上のための SD (Staff Development) ・FD (Faculty Development) 活動強化に努めた。</li> </ul>
3	約定返済の確実な履行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 経営健全化 WG を中心として、光熱水費の削減、ペーパーレス化の推進を行うことで経費圧縮を達成できた。</li> <li>✓ 私立大学等改革総合事業の4タイプのうち3タイプに選定され、当該補助金額は44,800千円となり、令和4(2022)年度の38,650千円から6,150千円増加した。</li> </ul>

#### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略 I	<p>【国際観光学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会が求める人材育成を実現するため、少人数での専門演習を基礎とし、担当教員の省察、ポートフォリオを活用した学生情報の共有等を通じ、学生の学業進捗状況を学科レベルで把握、指導する体制を維持した。入学定員は確保できており、退職教員の補充と育成が課題である。</li> </ul> <p>【社会福祉学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「社会福祉学科 3 ポリシー」を基盤に、本学科の特色である少人数教育を通じて、建学の精神を体現し、地域社会に貢献しうる福祉人材を育成している。</li> </ul> <p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の精神・理念に基づいた教育・研究を行うため、新任研修会、FD、各種研修会への参加を促した。</li> </ul> <p>【薬学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新カリキュラム(4次カリキュラム)導入4年目が経過し、教育効果の検証を行いながら PDCA サイクルをもとに、建学の理念を身につけた地域社会へ貢献できる薬剤師を養成している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 共用試験・国家試験対策として、外部講習会や総合系演習科目による専門力の醸成を行った。</li> <li>✓ 基礎学力の向上および留年生対策として、薬学教育支援センターを中心に、学修支援体制を強化した。</li> <li>✓ 令和7(2025)年度の薬学教育認証評価受審に向けての体制を構築した。</li> <li>【人間社会学研究科】</li> <li>✓ 建学の精神と理念に基づき、社会が求める高度専門職業人および研究者の育成に対して、観光学・社会福祉学・地域マネジメントの3専攻で講義・研究指導、学位論文中間発表会などの教育活動を実施した。その結果、観光学専攻7人と社会福祉学専攻1人に修士号、地域マネジメント専攻1人に博士号の学位を授与した。</li> <li>【健康管理学研究科】</li> <li>✓ 助手2人が本研究科を修了し、修士(健康管理学)の学位を取得した。</li> <li>【薬学研究科】</li> <li>✓ 建学の理念に基づき、高度医療を担い、生命科学の発展に寄与する人材を養成することを継続目標とした。令和5(2023)年度は新たに2人の大学院生が入学した。</li> <li>✓ 18時30分以降の講義開講や土曜日開講などの対応を行い、社会人学生が受講・研究しやすい環境を整えた。また、遠隔講義も活用し、大学院研究・教育活動を円滑に進めるよう配慮した。</li> </ul>
<p>戦略Ⅱ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【国際観光学科】</li> <li>✓ 早期からの就職意識の醸成を図るため、全学年において進路意識調査を実施し、ゼミなどでのきめ細かな指導につなげることができた。また、学科内キャリア委員会がインターンシップの受け入れ先の開拓に力を入れ、学生の幅広いニーズに応えることができた。</li> <li>✓ 学修意欲の二極分化への対応として、低い学生への基礎力チェックを兼ねた入学前教育を開始した。</li> <li>【社会福祉学科】</li> <li>✓ 社会福祉士養成および精神保健福祉士養成の新カリキュラム導入の完成年度を来年度迎えるにあたり、新カリキュラムに基づいた専門知識の修得および演習・実習等を通しての福祉実践を身につけるような教育の実践を行った。そのため、綿密な打ち合わせの実施、実習受け入れ機関・指導者対象の説明会の開催など、十分な準備をもって臨み、無事に終了させることができた。</li> <li>✓ 地域の福祉人材を育成し、地域貢献を行う観点からは、県内の福祉関連施設・企業を招き、早期(6月)に学科独自の就職説明会(3・4年次生対象)をキャリアセンターと連携しつつ実施し、学生の早い段階からの意識の醸成を図ることができた。</li> <li>【健康栄養学科】</li> <li>✓ 学科専門導入科目「健康栄養入門」において、実務家教員を中心に管理栄養士としての職業倫理・キャリア教育を実施した。</li> <li>✓ 管理栄養士は多様な分野で活躍できる資格であることを理解した上で就職活動に臨むため、3年生を対象に食品会社やドラッグストア等の企業による就職説明会をキャリアセンターと連携を図り開催した。</li> <li>【薬学科】</li> <li>✓ 地域医療の人材育成およびヒューマニズム教育の一環として、近隣地区の高校生を対象とした体験学習型の事業および地域の期待に応える実践活動(OB、OGの講演等)を実施した。</li> <li>✓ 薬剤師を含めた医療関係者や薬学部学生を対象とした生涯教育セミナーを開催した。</li> <li>✓ 低学年の学生も参加できる薬学部就職説明会を開催し、薬剤師としてのキャリア形成を推進した。</li> <li>【人間社会学研究科】</li> <li>✓ 地方創生・地域を支える人材育成を目指し、産業界や地方公共団体と協力したリカレント教育の充実を図り、2人の履修証明プログラム修了者(社会福祉学)の実績を得た。</li> <li>【健康管理学研究科】</li> <li>✓ 長期履修制度の申請を承認し、社会人の研究活動の支援を図った。</li> <li>【薬学研究科】</li> <li>✓ 大学院生1人当たり主研究指導担当1人、副研究指導担当教員2人の指導体制を堅持した。</li> <li>✓ 研究進捗状況発表会等を通じて、大学院担当教員全員が大学院生の研究状況を把握し、建設的な議論・批評を行うことで、引き続き大学院生の研究能力取得と水準向上を進めた。</li> </ul>
<p>戦略Ⅲ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【国際観光学科】</li> <li>✓ 国際観光研究所主催の地域でのセミナーなど産官学の取組みを積極的に推進し、地域貢献を図ると共に本学の地域における存在感を示した。</li> <li>✓ 高度な観光経営人材の育成を目指し、この分野で評価の高い海外先端大学との連携構築を進めた。</li> <li>【社会福祉学科】</li> <li>✓ 国際交流については、中国等の海外の協定機関との連携を通して、留学生受け入れの申し入れがあり、国際交流・留学生支援センターおよび入試・募集センターと連携しながら、令和6(2024)年度以降の受け入れに向けた検討と受け入れ調整を行っている。</li> <li>✓ 協定校(上海大学等)との交流はコロナ禍の影響により実施できなかったものの、令和6(2024)年度に「海外ソーシャルワーク研修」の科目の開講および海外ソーシャルワーク研修の実施に向けて調整を行っ</li> </ul>

	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 包括連携協定先(佐世保市社会福祉協議会、平戸市社会福祉協議会)等と、福祉関連の事業を共同で実施し、地域貢献を果たすことができた。</li> </ul> <p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1～3年生の保護者に対して担当教員より単位取得状況および生活状況についてのコメント、4年生の保護者には学部長より卒業判定に関わる単位取得状況および管理栄養士国家試験模擬試験の成績についての手紙を送付し、保護者と連携した指導を実施した。</li> <li>✓ 本学科の学生が長崎県内の学生と協働し、長崎県の食育推進活動を実施した。</li> </ul> <p>【薬学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各教員において、国内外の大学や製薬企業との共同研究が進められている。</li> <li>✓ QSP入試による入学者を受け入れた。</li> <li>✓ 近隣の2つの医療機関と協定を結び、教員の研修制度や学生の教育支援体制を強化した。</li> <li>✓ 留年生の保護者に対して、面談(遠隔含む)や電話・メールによる相談を受け付けた。</li> <li>✓ 6年生の保護者を対象とした薬学部保護者懇談会を実施した。</li> </ul> <p>【人間社会学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 留学生の多国籍化を推進するためにオンライン入試を実施し、今後も継続する。</li> <li>✓ 本学の訪問研究員制度等を運用した海外学術交流協定校の教員招聘の取り組みを推進した。</li> </ul> <p>【健康管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎県と協働し、県内の保育所・認定こども園等の施設における食物アレルギーに関する研究を行い、研究成果は学会および修士論文で報告した。</li> </ul> <p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 将来国際的に活躍するために、必要な英語能力を修得・向上させる目的で、英語による講義開講を引き続き実施した。</li> </ul>
戦略IV	<p>【国際観光学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ICTを通じた教員間の情報交換、学生情報共有、デジタル活用による教育方法の多様化等を促進し、特にこの分野の研究において先端を行く外国人教員の指導による新任教員への学科内FDを開催するなどして、全体のレベルアップを図ることができた。</li> </ul> <p>【社会福祉学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実習におけるICT活用(日誌等の実習関連書類の電子化)の検討を行い、令和6(2024)年度より2年次配当実習から段階的に導入することとなった。</li> <li>✓ 国家試験対策において、「国家試験追加学修、夏冬の集中講座、月1回のレベルテスト」等を実施した結果、令和5(2023)年度は高水準の合格率を確保することができた。</li> </ul> <p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 反復学習の促進、および学外実習により受講できなかった学生に対する補講のツールとして授業の動画配信を活用し、教育効果の向上を図った。</li> <li>✓ 管理栄養士国家試験対策のリカレント教育において、授業の動画配信やポートフォリオを活用し、本学科卒業生に対して支援を行った。</li> </ul> <p>【薬学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 対面授業と並行して、オンデマンド授業の導入、授業動画の配信などにより、学習効果を向上させた。</li> <li>✓ 文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」により導入した資材を事前学習(4年生対象)に活用し、遠隔診療に対応できる教育体制を構築した。</li> </ul> <p>【人間社会学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 遠隔授業と対面授業を併用した講義・研究指導は、国内外の遠隔地で勤務する社会人の大学院生に対して教育効果を高めた。</li> </ul> <p>【健康管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 非常勤講師や共同研究者との打ち合わせ、学会・研修会への参加等にICTを活用し、研究活動の効率化を図った。</li> </ul> <p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 進捗状況報告会の機会を利用して、大学院担当教員全員が大学院生の発表資料、発表・討議に対する臨み方、受け答え等について助言を行い、プレゼンテーション能力の向上をすすめた。</li> </ul>
戦略V	<p>【国際観光学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自治体が主催する各種審議会、懇話会および企業、協会等との共同研究などにより、学科教員の地域での存在感を示すことができた。</li> </ul> <p>【社会福祉学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和6(2024)年度の入学生においては、定員充足は叶わず、39人(充足率65%)しか確保できなかった。教員個々が出前授業や大学見学等を積極的に受け入れ、その内容にも工夫を凝らしてきたが、次年度以降もこれらの取り組みにおいて更なる工夫と改善をしていく。</li> <li>✓ 国家試験の合格率については、社会福祉士については83.3%、介護福祉士および精神保健福祉士につ</li> </ul>

	<p>いては 100%を確保することができた。綿密なプログラムに基づき、教員が一丸となって取り組んだ成果と考えているが、学生の学修への動機づけなど、一部に課題も残されたため、内容や方法については更なる見直しを行い、目標値(社会福祉士は 83.3%以上、他は 100%)の達成を期したい。</p> <p><b>【健康栄養学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第 38 回管理栄養士国家試験における本学科の合格率は 83.8%であり、国公立を含めた全国の管理栄養士養成施設 151 校中 69 位、九州内 15 校中 7 位であった。</li> <li>✓ 大学公式サイトや SNS を活用し、在学生、卒業生、教員の活動について発信を行った。また、雑誌「ヘルスケア・レストラン」に本学科の教育や取組に関する記事が掲載された。</li> <li>✓ 夏休み科学体験教室および災害食に関する公開講座を開催し、地域貢献や大学・学科の広報に寄与した。</li> </ul> <p><b>【薬学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究成果は、学会発表や学術雑誌への投稿論文として発表し、また、研究成果をもとにした特許申請・取得もされている。</li> <li>✓ 近隣の高校生を対象とした体験型学習を実施し、認知度向上に努めた。</li> <li>✓ 薬剤師国家試験の新卒の合格率は 75.3%であり、目標を達成することができなかったため、補習時間の活用など、国家試験対策の体制を強化する。</li> </ul> <p><b>【人間社会学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学院担当教員の紹介、大学院生の研究活動など、大学ホームページを通じて国内外に発信を行い他大学からの志願者の増加に繋げた。</li> </ul> <p><b>【健康管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学公式サイトや SNS で大学院生および教員の研究活動について発信を行った。</li> </ul> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学院生や教員の各種受賞、論文発表、研究費取得のニュースを適宜リリースし、認知度・ブランドの向上を図った。</li> </ul>
<p>戦略VI</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画令和 3(2021)～7(2025)年度(5 ヶ年)に基づく安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保を目指した結果、施設設備関係の取得による大型財政支出が伴ったものの、基本金組入前当年度収支差額で収入超過を維持することが出来た。</li> <li>✓ 補助金の獲得については、私立大学等改革総合支援事業において 3 タイプを獲得し、戦略的獲得を実現することが出来た。また外部資金獲得のための研究活動推進としては、科研費応募に係る説明会・勉強会を実施し推進を図った結果、次年度採択が当年度比 189%と大幅に増加した。</li> <li>✓ 学納金改定に関し、学則や各種規程の改定等準備を進め令和 6(2024)年度入学生からの改定に向け態勢を整えた。</li> <li>✓ 支出適正化のために、予算主義に基づく予算執行を徹底し管理に努めた。</li> </ul>
<p>学園内の連携促進</p>	<p><b>【国際観光学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高等学校のオープンスクールにおいて、観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコースの教員が高校を見学に来た中学生に対して模擬授業を行った。</li> </ul> <p><b>【社会福祉学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法人本部主催による福祉分野連携会議(大学、短大、高校の福祉領域の担当教員と法人本部職員が参加)への参加を通じて、学園内の連携、情報共有を図ることができた。</li> <li>✓ 九州文化学園高校保育福祉科福祉コース 2 年生を対象とした介護体験学習を本学で実施し、介護担当教員を中心に対応にあたった。大学での福祉の学びを喚起することができ、参加生徒への大学進学相談を気楽にできる環境調整を行うなど、学園内進学の促進に寄与することができた。</li> </ul> <p><b>【健康栄養学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高等学校から 2 人の入学、長崎短期大学から 4 人の編入学があった。</li> <li>✓ 長崎短期大学、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園歯科衛生士学院へ非常勤講師を派遣し、協力を行った。</li> <li>✓ 薬学部および長崎短期大学と共同研究を行い、論文 1 編、学会発表 4 題の成果報告を行った。</li> </ul> <p><b>【薬学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出前講義や内部進学説明会による九州文化学園高校との高大連携の強化、九州文化学園小中学生を対象とした理科系の魅力紹介を推進している。</li> </ul> <p><b>【人間社会学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短期大学および九州文化学園高校の教員の進学を推進したが進学には至らなかった。次年度も継続して募集活動を行う。</li> </ul> <p><b>【健康管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 薬学部および長崎短期大学と共同研究を行い、論文 1 編、学会発表 4 題の成果報告を行った。</li> </ul> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本学ホームページ(学術研究)等を通じて、大学院生等の各種受賞、論文発表、研究費取得のニュースリリースを行い、認知度・ブランドの向上を引き続き進めた。</li> </ul>

付帯計画 と課題	<p><b>【国際観光学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ IR(統合型リゾート)対応の人材育成プログラムについては、長崎県としては採用されなかったが、他の地域に整備されることを想定し、継続検討中である。その内容は、別の形で活かすことも考えたい。</li> <li>✓ 地域と連携し、クラブチーム・総合型地域スポーツクラブ、高齢者事業、佐世保市教育委員会のイベントなどに学生を派遣し、地域創生におけるスポーツ分野への人材供給と運営支援に貢献できた。さらに、イベントの充実化を図っていく。</li> </ul> <p><b>【社会福祉学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 老朽化した備品の更新については、予定通り実施できた。</li> <li>✓ 定員充足率向上のための戦略について、本学を卒業する際に地域の福祉人材育成としては、福祉専門職を目指す学生(70%)、福祉知識を有する一般就職を目指す学生(20%)、日本の福祉を学びに海外からの留学生(5%)、社会人やシニア層などリカレント教育対象者(5%)など具体的な目標を掲げた上で、入試・入学形態について、関係部署に提案・協議を行っていく。</li> </ul> <p><b>【健康栄養学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 5号館の空調設備の取替が行われたが、教育・研究環境のカビ対策については継続課題である。</li> <li>✓ 調理加工実習室の映像・音響機器、調理学実習・給食経営管理実習で使用する食器洗浄機および製氷機が更新された。その他にも耐用年数を超過している機器が多いため、今後更新する必要がある。</li> </ul> <p><b>【薬学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入学定員の充足に向けて、立地条件の悪さをカバーするため、大学に隣接した JR 駅の誘致、通学時間帯のバスの増便、一般男子寮の設置などを要望していく。</li> <li>✓ 大学附属薬局の設置、配信用インフラの整備、講義室や研究スペースの不足についても、引き続き要望していく。</li> <li>✓ 「薬学教育モデルコアカリキュラム令和4年度改訂版」に対応すべく、カリキュラム整備を行い、それに伴う教員採用、施設拡充等を要望していく。</li> <li>✓ 令和7(2025)年度受審の薬学教育認証評価に向けた準備を進める。</li> </ul> <p><b>【人間社会学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 海外学術交流協定校の教員招聘を促進する教育・研究環境整備としての(仮称)人間社会学研究室は実現できなかった。福祉助手室、観光準備室、院生室など既存の施設の整備も課題である。</li> </ul> <p><b>【健康管理学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究機器の導入、老朽化した研究機器・備品の更新、研究環境整備(ラボの設置)は、引き続き課題である。</li> </ul> <p><b>【薬学研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ニュースリリース等を通じて、研究活動を発信することで、薬学研究の魅力を紹介した。さらにニュースリリース数の増加とアピール向上を進めていく。</li> </ul>
-------------	---

## 5) 主要情報

### (1) 卒業・修了者数、学位・資格等に関する実績

#### 【学部卒業者数】

学部	学科	令和5(2023)年度		
		9月秋季	3月春季	合計
人間社会学部	国際観光学科	22人	216人	238人
	社会福祉学科	2人	58人	60人
健康管理学部	健康栄養学科	6人	68人	74人
薬学部	薬学科(6年制)	28人	85人	113人
総計		58人	427人	485人
卒業生数の累計				8,205人

#### 【大学院修了者数】

研究科	学科	令和5(2023)年度		
		9月秋季	3月春季	合計
人間社会学研究科	観光学専攻(修士課程)	2人	5人	7人
	社会福祉学専攻(修士課程)	人	1人	1人
	地域マネジメント専攻(博士後期課程)	人	1人	人
健康管理学研究科	健康栄養学専攻(修士課程)	人	2人	2人
薬学研究科	医療薬学専攻(4年制博士課程)	人	2人	2人
総計		2人	11人	13人
修了者数の累計				213人

#### 【学位および国家資格・免許等の実績】

学位・資格・免許等名	取得者	備考
学位：学士	485人	春季：427人、秋季：58人
学位：修士	10人	春季：8人、秋季：2人
学位：博士	1人	春季：1人
社会福祉士	25人	合格率：83.3%
精神保健福祉士	6人	合格率：100%
介護福祉士	7人	合格率：100%
管理栄養士	57人	合格率：83.8%
薬剤師	64人	合格率：75.3%
教育職員免許状	36人	高等学校：17人 中学校：15人 栄養教諭：4人

## (2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
辞令交付式	4/1(土)	
入学式	4/3(月)	新型コロナウイルス対策で新入生と保護者1人、教職員のみで実施
オリエンテーション	4/4(火)～4/7(金)	
ハイスクール茶会	5/20(土)	
第1回オープンキャンパス	7/23(日)	
第2回オープンキャンパス	8/6(日)	
第3回オープンキャンパス	8/20(日)	
秋季卒業式	9/2(土)	
秋季入学式	9/15(金)	
開国祭	11/3(金)、11/4(土)	テーマ「青春(あおはる)」 新型コロナウイルス感染症拡大前と同様に2日にかけて実施
新型コロナワクチン・インフルエンザワクチン集団接種	11/28(火) ～11/30(木)	接種者数：新型コロナワクチン395人 インフルエンザワクチン538人
春季卒業式	3/9(土)	感染症対策で卒業生、保護者2人、教職員のみで実施
第4回オープンキャンパス	3/17(日)	

### <入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
総合選抜型Ⅰ期	10月21日(土)	
学校推薦型選抜A日程	11月23日(木)	
総合選抜型Ⅱ期	11月23日(木)	
学校推薦型選抜B日程	12月16日(土)	
大学入学共通テスト	1月13日(土) ～1月14日(日)	本学の大学入学共通テスト利用選抜では独自の学力試験は行わない
一般選抜A日程	2月4日(日)～2月5日(月)	
一般選抜B日程	3月4日(月)	

## 6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学部・学科、研究科・専攻の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
人間社会学部国際観光学科	<p>【学部全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国際観光学科は、コロナ禍で激減した外国人留学生の入学数を回復させるために、交流協定校との積極的な交流を促進する。</li> <li>✓ 社会福祉学科の新カリキュラム(4コース制)を機能的に運用して、3福祉国家試験の合格者を増やすことで定員確保に結びつける。</li> </ul> <p>【国際観光学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高校生を対象とした授業を13講義(高校出張および本学開催を含む)実施し(対令和3(2021)年度60%、対令和4(2022)年度100%)、学生募集に成果があった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 観光事業、遺跡発掘、博物館の新設、改修などの歴史、文化事業、地域住民の健康をテーマとしたスポーツ振興事業、地域の国際化に向けた多文化共生事業など、幅広い領域において本学科主導による産官学の取り組みが実施された。</li> <li>✓ 国際観光研究所が実施する外部向けセミナーを2回実施した。佐世保市「MSCベリッシマ」による外部機関からの調査・連携事業を受注することで広報活動を充実させた。</li> <li>✓ 留学生の就職支援を目的とした2つの新科目(令和5(2023)年度から)の設置を確定した。</li> <li>✓ 観光による地域創生を目指し、近隣自治体2町(川棚町、東彼杵町)との包括連携協定の締結に貢献した。</li> <li>✓ 地域のスポーツ振興のため、NIUキッズチャレンジスポーツを9回開催した(217人参加、前年は73人)。また、西海市の部活動指導者派遣事業に応じ学生5人の派遣を行った。地域貢献を目的としたスポーツフェスタを再開し、500人を超える学内外の参加者数であった。</li> <li>✓ 教員の研究活動としては、学科共同研究費を利用した15件の研究が実施された。科学研究費については、新規に5件が採択された。また、自治体などからの助成金と受託事業獲得し、地域社会に貢献する研究を進めた。</li> </ul> <p>&lt;資格等の実績&gt;</p> <table border="1" data-bbox="566 853 1428 1653"> <thead> <tr> <th>資格等名</th> <th>実績</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅行業務取扱管理者</td> <td>9人</td> <td>科目合格4人</td> </tr> <tr> <td>総合旅行業務取扱管理者</td> <td>0人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学芸員</td> <td>30人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>公務員</td> <td>7人</td> <td>市町村行政職5人、自衛隊1人、警察官1人</td> </tr> <tr> <td>日本語教員養成課程修了者</td> <td>7人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本語検定</td> <td>2級1人認定、3級5人認定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>秘書検定</td> <td>2級認定1人、3級認定8人</td> <td>2級受験者延べ9人、1人認定、3人準認定、3級受験者延べ11人、5人認定、1人準認定</td> </tr> <tr> <td>ビジネス文書検定</td> <td>(R5年度受験者なし)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>公認スポーツ指導者</td> <td>11人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>3人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>マリンスポーツ(ダイビング)</td> <td>4人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TOEIC(500点以上)</td> <td>23人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教育職員一種免許状</td> <td>16人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>茶道鎮信流初歩伝</td> <td>20人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>茶道鎮信流初伝</td> <td>9人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホテルビジネス検定</td> <td>5人(2級認定4人・1級認定1人)</td> <td>2級受験者10人・1級受験者6人</td> </tr> </tbody> </table>	資格等名	実績	備考	国内旅行業務取扱管理者	9人	科目合格4人	総合旅行業務取扱管理者	0人		学芸員	30人		公務員	7人	市町村行政職5人、自衛隊1人、警察官1人	日本語教員養成課程修了者	7人		日本語検定	2級1人認定、3級5人認定		秘書検定	2級認定1人、3級認定8人	2級受験者延べ9人、1人認定、3人準認定、3級受験者延べ11人、5人認定、1人準認定	ビジネス文書検定	(R5年度受験者なし)		公認スポーツ指導者	11人		健康運動実践指導者	3人		マリンスポーツ(ダイビング)	4人		TOEIC(500点以上)	23人		教育職員一種免許状	16人		茶道鎮信流初歩伝	20人		茶道鎮信流初伝	9人		ホテルビジネス検定	5人(2級認定4人・1級認定1人)	2級受験者10人・1級受験者6人
資格等名	実績	備考																																																		
国内旅行業務取扱管理者	9人	科目合格4人																																																		
総合旅行業務取扱管理者	0人																																																			
学芸員	30人																																																			
公務員	7人	市町村行政職5人、自衛隊1人、警察官1人																																																		
日本語教員養成課程修了者	7人																																																			
日本語検定	2級1人認定、3級5人認定																																																			
秘書検定	2級認定1人、3級認定8人	2級受験者延べ9人、1人認定、3人準認定、3級受験者延べ11人、5人認定、1人準認定																																																		
ビジネス文書検定	(R5年度受験者なし)																																																			
公認スポーツ指導者	11人																																																			
健康運動実践指導者	3人																																																			
マリンスポーツ(ダイビング)	4人																																																			
TOEIC(500点以上)	23人																																																			
教育職員一種免許状	16人																																																			
茶道鎮信流初歩伝	20人																																																			
茶道鎮信流初伝	9人																																																			
ホテルビジネス検定	5人(2級認定4人・1級認定1人)	2級受験者10人・1級受験者6人																																																		
人間社会学部社会福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新カリキュラム導入4年目を迎え、新カリキュラムの円滑実施のため、各教員が業務を適切に分担・遂行し、学科運営基盤の構築を図ることができた。新カリキュラムには、実施によって新たな課題も見出されているため、その情報共有を図った。今後、新カリキュラム完成年度を目途として、見直しを行っていく。</li> <li>✓ 入学定員の確保に努めたが、令和6(2024)年度は65.0%(前年93.3%)で定員確保に至らなかった。定員確保にむけた改善策を学科内と入試・募集センターなどと協議しながら、今後さらに取り組みを強化していく。</li> <li>✓ 国家試験合格率向上については、一定の成果は得られ、県内1位・九州内の私立大学の内2位という結果であった。学修プログラムの改善と学生の意識向上を図り、新カリキュラムの特性を生かした着実な学修支援をさらに発展させることで国家試験合格率の維持・向上を図っていく。</li> <li>✓ 学科教員数が減となる中で、教員個々の業務量が相対的に増加している。業</li> </ul>																																																			



	<p>務内容や分担を見直し、効率的かつ教員が研究時間を確保できる勤務体制の構築を図っていく。</p> <p>&lt;資格等の実績&gt;</p> <table border="1" data-bbox="587 353 1428 750"> <thead> <tr> <th>資格等名</th> <th>実績</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>合格率 83.3% (30人中 25人合格)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>合格率 100%(7人)</td> <td>内、3人社会福祉士とのダブル合格</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士</td> <td>合格率 100%(6人)</td> <td>全員社会福祉士とのダブル合格</td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカー</td> <td>2人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高等学校教諭一種免許状(福祉)</td> <td>2人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>✓ 福祉心理士</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資格等名	実績	備考	社会福祉士	合格率 83.3% (30人中 25人合格)		介護福祉士	合格率 100%(7人)	内、3人社会福祉士とのダブル合格	精神保健福祉士	合格率 100%(6人)	全員社会福祉士とのダブル合格	スクールソーシャルワーカー	2人		高等学校教諭一種免許状(福祉)	2人		✓ 福祉心理士	1人	
資格等名	実績	備考																				
社会福祉士	合格率 83.3% (30人中 25人合格)																					
介護福祉士	合格率 100%(7人)	内、3人社会福祉士とのダブル合格																				
精神保健福祉士	合格率 100%(6人)	全員社会福祉士とのダブル合格																				
スクールソーシャルワーカー	2人																					
高等学校教諭一種免許状(福祉)	2人																					
✓ 福祉心理士	1人																					
<p>健康管理学部健康栄養学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第38回管理栄養士国家試験の合格率は83.8%であり、全国の管理栄養士養成課程(新卒)の合格率80.4%は上回ったが、前年度と比較して低下した。</li> <li>✓ 入学定員充足率は62.2%であり、入学者の半数を長崎県出身者が占めた。その中で九州文化学園高等学校からの内部進学は2人であった。</li> <li>✓ 保護者と連携した指導体制を継続し離学防止に努めたが、12人が退学した。退学者のうち、10人が1・2年生の早期退学であった。</li> </ul>																					
<p>薬学部薬学科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入学定員の確保に努めたが、令和6(2024)年度は定員確保には至らなかった。定員確保に向けた改善策を入試・募集センターなどと協議している。</li> <li>✓ 入学定員確保に向けて、韓国の日本語学校において学部説明会を行った。</li> <li>✓ 高校生を対象とした体験実験を通して、薬学部の魅力を紹介し、入試募集活動に努めた。出前講義、薬剤師の職業紹介、施設見学、体験実験など、要望があれば、原則として随時受け入れており、今後も継続する。</li> <li>✓ 小中学生を対象とした理科系進学の啓蒙活動を行った。</li> <li>✓ 基礎学力向上・留年生対策のために、薬学教育支援センターを中心に、入学前教育や基礎科目の補習、個別面談を行った。</li> <li>✓ 査読付き学術論文の公表、外部資金獲得、学会発表、共同研究の推進を促し、研究業績は長崎国際大学論叢で公表した。</li> <li>✓ 科学研究費の申請を促し、10件の研究課題が新規に採択された。</li> <li>✓ 就職希望者に対する就職率は100%であり、今後もこの実績を維持する。</li> </ul>																					
<p>人間社会学研究科観光学専攻</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎国際大学国際観光学会第19回研究発表会(令和5(2023)年10月実施)で、院生11人が発表した。</li> <li>✓ 3人体制による論文指導体制は、安定して効果的に実施されている。</li> <li>✓ 履修証明プログラム、社会人入学、自治体との協働研究については実現に至らなかった。今後の課題とする。</li> <li>✓ 観光学専攻教員2人が、科研費を獲得した(令和5(2023)年度獲得1人、令和6(2024)年度獲得1人)。</li> <li>✓ 講義内容の改善に活用するため、授業アンケートを実施した。カリキュラムのさらなる充実のため、令和6(2024)年度に向けた一部見直しを実施した。</li> </ul>																					
<p>人間社会学研究科社会福祉学専攻</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 留学生に対する日本語による論文執筆の指導を通して、グローバルな教育・研究を進めた。今年度1人の留学生が修士論文中間発表を終えた。</li> <li>✓ IR(特定複合観光施設)事業の進展が見られなかったため、IRに関連付けた個人や社会の発展とコンフリクト等の研究領域の開拓に関連する具体的成果はなかった。今後も地域の要請に即応して、地域振興に資する研究領域の開拓を推進していく。</li> <li>✓ 福祉機関との包括連携協定を軸に、学生と共にフィールドワーク研究を推進することで、地域福祉研究のプラットフォームとなるために、令和5(2023)年9月14日(木)に、履修証明プログラム履修者2人と院生4人参加のもと、社会福祉法人「ながよ光彩会」において、施設見学や職員による講義、住民との交流会を実施した。</li> <li>✓ 県内の社会福祉職者のキャリア・アップを目的としたリカレント教育を推進し、現職者のスキルの洗練に取り組んだ。2人の履修証明プログラムの受講応募があり、修了生2人には、令和6(2024)年3月22日(金)に行われた授与式</li> </ul>																					

	<p>において、副学長より履修証明書が授与された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 秋の入学試験を通して定員確保に努めた。秋の入学試験に応募した留学生 1人が入学した。</li> </ul>
人間社会学研究科 地域マネジメント専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域の経済活動の活発化や生活環境・労働環境の改善に、観光学と社会福祉学の視点から地域マネジメントに参画できる、新たな知識・技能を身に付けるための教育を推進した。</li> <li>✓ 博士号の学位は、3年間の教育課程で取得することが最大目標であるが、令和5(2023)年度は1人が学位を取得した。</li> <li>✓ 地域マネジメント専攻の主旨導教員は、博士号の学位を有する専任教員とした。</li> <li>✓ 入学定員3人を確保するために、研究指導の補助教員のうち実績を有する者を観光学および社会福祉学から主旨導教員に昇格させた。</li> </ul>
健康管理学研究科健康栄養学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長期履修制度の申請を承認し、社会人の研究活動の支援を図った。</li> <li>✓ 助手2人が本研究科を修了し、修士(健康管理学)の学位を取得した。</li> <li>✓ 科学研究費の申請を促し、1件の研究課題が新規に採択された。</li> </ul>
薬学研究科医療薬学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会人の入学促進のため、引き続き夜間、土曜日に講義を開講した。その結果本年度は社会人2人が新た入学した。</li> <li>✓ グローバル化への対応として、博士号取得研究者として必要な英語能力を修得させる目的で、英語による講義の開講を継続した。</li> <li>✓ 学生の博士課程レベルの研究能力の修得・向上のため主研究指導担当教員と2人の副研究指導担当教員が責任を持って指導する体制を維持した。</li> <li>✓ 秋季に実施する研究進捗状況発表会に全研究科教員が参加して、研究内容や進捗状況を客観的に評価することで、博士論文の質や水準向上に努めた。</li> <li>✓ あらたに最終年次進捗状況発表会を春季に開催し、大学院生の学位取得を支援する体制を強化した。</li> </ul>

## (2) 教育活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育活動全体としては、学園や大学の建学の精神・理念、教育目標や長崎国際大学の3ポリシーおよび「令和5年度長崎国際大学大学及び大学院の学長方針」に基づき、「ホスピタリティ・ループリック」を活用した学生との面談をとおして教育・学修支援を行った。</li> <li>✓ 令和5(2023)年度の授業体制については、一部の科目を除き全面的に対面による授業を実施した。</li> <li>✓ 2度の定期試験についてもコロナ禍前の体制に戻して実施した。前期定期試験において感染拡大時期と重なってしまったが、追再試験期間延長等の対策を講じ、各学期内に全ての学生の成績を確定することができた。</li> <li>✓ 観光研修やスポーツ実習における学外実習を含む各学科の実習についても予定どおり実施することができた。</li> <li>✓ 大学設置基準改正に伴う本学学則変更に伴い、各種規程の改正および整備を行った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 理念や3ポリシーを通じた教育活動の実質化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 3ポリシーの具現化を図る為、建学の理念であるホスピタリティの獲得を目指し、教員と学生が定期的に面談を行い、「ホスピタリティ・ループリック」をもとに学生の成長過程の確認・助言・指導等を行い、毎学期学修ポートフォリオに記録している。</li> <li>✓ 教務委員会において「ホスピタリティ・ループリック」の入力状況を確認し、未入力の学生については、各学科に指導を依頼し入力率向上に努めた。</li> </ul>
(2) ポリシーに基づく教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの点検については教務委員会や各学科会議において教育課程も含め確認を行い、全学教育会議においても外部評価員による点検を実施した。</li> <li>✓ 令和5(2023)年度においては、全学および各学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの見直しを行い、修正を行った。</li> </ul>
(3) DPの実質化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ シラバスにおいては、ディプロマ・ポリシーにあるホスピタリティを構成する5つの諸能力に対する達成目標を全ての科目において明記した。</li> <li>✓ ループリック評価による学生との面談については、引き続き毎学期教務委員会より各学科に依頼し実施した。</li> <li>✓ 卒業ポートフォリオについては全学科で作成し、単位取得状況や卒業論文要旨と共に外部評価を実施した。これらの外部評価結果については、各学部教授会における卒業判定の要素として活用した。</li> <li>✓ DPの実質化を図るため、全学教育会議において本学のアセスメント・ポリシーに則り各学科の検証結果を確認し、次年度の教育課程に反映させた。</li> </ul>
(4) 教育・学修・履修・支援の	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育基盤センターにおいて、教職協働のもと以下の事項を実施した。</li> </ul>

制度・体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 5月より学内の全てのラーニング・コモンズをコロナ禍以前の体制で運用を開始した。</li> <li>◇ 入学前教育の改善策として、3月に合格者に対する説明会を本学での対面もしくはオンラインで実施した。加えて、年度当初のオリエンテーションの内容についても対面とオンラインを併用し、学生への負担軽減を図った。</li> <li>◇ 指導補助者の導入を見据え、SA・TAの規程を改正した。指導補助者に対する事前研修の充実については、次年度へ向けての課題とした。</li> </ul>
(5) 外国人留学生への日本語教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入学した全ての留学生に対し日本語プレACEMENTテストを実施し、レベル分けを行った上で授業を実施した。</li> <li>✓ 令和6(2024)年度に向けて、国際観光学科において更なる日本語能力のレベル分けを検討し、新たな科目を設置し、支援体制の強化を図った。</li> </ul>
(6) 統合型レポートへの対応教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国際観光学科の専門科目である「MICE論」および「MICE研修」を開講し、MICEの意義や課題等について実質的および実践的な知識を学生に身に付けさせた。</li> </ul>
(7) ICT教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 近年のChat GPTをはじめとする生成系AIの目覚ましい発展を踏まえ、「本学における生成系AI(Chat GPT等)への対応について」を策定し、広く教職員および学生に周知すると共にホームページに公表した。</li> <li>✓ 令和7(2025)年度に文部科学省が実施する「数理・データサイエンス・AIプログラム認定制度(リテラシーレベル)」への申請を目指し、令和6(2024)年度より「データサイエンス導入教育プログラム」を実施する為の体制整備を行った。</li> </ul>

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 政府が推進する「Society5.0 for SDGs」の実現と地域で学んだ人材が地域に還流し、地域の産業振興や教育文化水準向上の原動力となることを企図して、「情報系」・「建築学系」等の新学部を開設する可能性を検討した。今後も産業界との連携を深めながら、新学部の開設について引き続き検討を行う。</li> <li>✓ 収容定員充足率が前年度97.8%から95.7%に低下したが、ポストコロナで海外での現地募集・現地入試が再開したことで外国人留学生募集は一定の成果を残すことができた。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 令和6年度大学・高専機能強化支援事業	支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援を申請した。

### (4) 研究活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本学の教育活動を支えるものが日ごろの研究活動の成果であるとの認識のもと、研究活動の活性化に向け、研究支援の体制づくりを進めている。令和5(2023)年度の外部資金の獲得状況は、105,604千円と1億円を超えたが、前年とほぼ同額で顕著な伸びは見られなかった。ただ、研究体制支援として、令和5(2023)年度に初めてRA(リサーチ・アシスタント)1人の採用をおこなったほか、バイアウト規程を施行して科研費による雇用ができる体制とした。また、これらの活動による具体的な研究成果を大学シーズ集等で地域に発信・公表するとともに、産学連携活動を通じて地域社会への実装を進めた。具体的には本学所有特許や知財を活用して設立した大学発ベンチャー企業(3社)による活動が活発に行われ、うち2社の収益は前年より増加し、その売上の一部は特許の実施許諾契約等により本学への知財使用料として支払われ、研究活動に還元された。また、これらの産学連携活動を拡大するには、学部を超えた研究活動の連携も必要であるとの認識が研究者側にも見られることから、今後はこれらの研究者への支援も強化する考えである。これからも地域に根差した研究機関を目指して支援を進める。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 研究機関としての組織的な強化方針や研究課題活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現状、研究者個人と企業間の研究連携を、大学と企業間の組織的な研究契約の締結に転換して研究活動の拡大を図っていたが、契約数、契約額ともに大幅な増加とはならなかった。しかし、一部の学科からは、無償の共同研究についても契約の必要性について問い合わせがあるなど、組織間の契約の重要性について理解は進んできた。ただ、コロナ禍は収束したが、その影響は今年度も引き続いており、共同研究、委託研究、および寄付金の受け入れ実績は、件数、契約額ともに十分に進展しなかった。今後とも、本学に見合った外部との交流実績の達成を目指し、組織的な研究交流の拡大を目指す。</li> </ul>
(2) 研究者個人の研究活動・学会発表等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 科研費の応募に必要なスキルの勉強会は計画通り実施され、令和6(2024)年度の応募件数は前年比で167%、採択者数は189%と大幅に増加した。ただ、学内で学会を開催する活動の支援については、問い合わせがないこと、また、関連情報を確認することができなかったため、支援の実績は0件であった。その他のTA/RAの採用に関しては、RA1人の採用をおこなった。RAの採用は次年度も同様に進めていく。</li> </ul>
(3) 研究系の外部資金の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 外部資金の獲得に向け、前年同様、学外の助成金情報の収集と学内への発信に努め</li> </ul>

	<p>たほか、共同研究や受託研究の契約締結事務支援を前広に進めて民間部門の実績拡大を目指した。また、科研費獲得に向けた勉強会の開催と関連情報の発信も進めた。この結果、外部資金の獲得は科研費を入れると令和5(2023)年度は105,604千円となった。実績は1億円を超えているが、前年実績((令和4(2022)年度は106,753千円)と比較して98.9%とほぼ同額となった。これは、前年度より受託・共同・寄付金は増加しているが、科研費が減額となっているためである。ただ、1億円の大台は確保しており、今後とも現在の方針で進めていく。</p>
(4) 研究倫理の遵守や不正使用防止の啓発	<p>✓ 近年、研究活動のグローバル化に伴い世界標準の研究倫理等が求められている。そのため、求められる研究倫理に関する規制(研究活動の不正防止、科研費等の使用に係るコンプライアンス、情報や技術の輸出管理、研究活動時等の利益相反マネジメント等)は拡大傾向である。本年も同様であった。そのため、本年も研修(3回/年)、定期の情報発信(3回/年)、および科研費のモニタリング等も実施した。また、来年からは科研費の取扱においても研究インテグリティの確保(外部資金や研究データの状況がいつでも確認できるなどオープンな研究環境の確保)が求められることになったため、今後、この分野の啓発に努め、世界的な研究倫理の確立に貢献できるよう、今後ともきめ細かな学内研修・情報発信を実施していく。</p>
(5) 外部との共同研究・受託研究の推進	<p>✓ 私立大学等改革総合支援事業においては、外部との共同研究・受託研究の実績に関しポイント化が進み、その実績の見える化が進んでいる。しかし、本学の場合、共同研究・受託研究は主に各研究室単位にて進んでいるため、規模拡大が進んでいない。今年度も出来る限り組織間の契約拡大に向け支援を進めたが、契約件数、金額ともに少額にとどまった。今後、利益相反マネジメントの観点からも研究活動に伴う研究契約の締結の推進を進めるとともに、大学と企業などの組織的な研究活動に向け研究者への支援を推進し、契約実績の拡大を目指す。</p>
(6) その他	<p>✓ 地域に密着した研究機関としての認知を高めるため、学内に共通認識の醸成、外部機関への大学シーズ集の配布を進めたが、コロナ禍の制限もあり、徹底できなかった。今後も、一層、研究活動の支援に向けた体制づくりを充実させ、学内外の認知を高めていく。</p> <p>✓ 研究者の育成は大学の重要な任務であるが、各学部の研究者育成においては困難が多い。その中でもすでに本学出身の研究者も出ており、これらを拡大するため、今後も一層、若手研究者への支援体制の整備が進めていく。その支援の一環として、本学も今年度(令和5(2023)年度)よりRA1人を採用し、1年間雇用した。次年度も引き続き採用する予定である。</p>

## (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
	<p>✓ 【学生課・キャリアセンター】それぞれの取組においてコロナ禍での経験を踏まえ、従前のものより充実した内容で実施できた。</p> <p>✓ 【キャリアセンター】卒業時に卒業生全員が自立的に進路を決定できるように各種支援策を積極的に展開し、学生が自発的に参加できる環境を整備した。また、「キャリア開発Ⅱ」や各学科でのガイダンスを通じ、早期化する就職活動支援が実施できた。</p> <p>✓ 【スポーツ支援・振興室】「学修支援・競技力向上支援・地域スポーツ振興活動支援」の3つの柱でスポーツ系学生の支援をすることを目的として、UNIVASや長崎県・佐世保市から情報を得、スポーツサポートセンターおよび強化指定部指導者との連携により進め、スポーツ系学生のサポートを行っている。</p> <p>✓ 【保健室】キャンパスライフ・ヘルス(CH)サポートセンター3室(保健室・学生相談室・学生生活サポート室)で計画した学生および教職員の心身面の健康の保持・増進と学生生活における相談・支援の事業を、新型コロナウイルス感染症に関する規制緩和に合わせた感染防止対策をとりつつ、CHサポートセンター運営委員会構成員による教職協働で実践し、達成することができた。</p>
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 強化指定部へのキャリア教育の強化	<p>✓ 強化指定部指導者との連携をとり、個別の学内企業説明会への参加を促すとともにその中で業界研究、就職についての展望を持つ環境の醸成を行なった。今後、学内企業説明会への参加団体を広げ、必要なプロセスを伝えるセミナーを実施していく。</p>
(2) エクステンション講座の充実	<p>✓ 公務員試験対策講座にて公務員を志望する学生への特別講座を継続実施した。また、日本で就職を希望する留学生に対し、外国人留学生就職支援セミナー&amp;個別相談会や、外国人留学生OB講話&amp;企業説明会、そして日本で就職の決まった留学生に対する、外国人留学生就職目前WEBセミナーを実施した。今後、継続してセミナーの開催を行い学生の可能性を広げていく。</p>
(3) 個別対応の充実	<p>✓ 個別対応のスキル向上のために、職員の国家資格キャリアコンサルタント取得を目</p>

	指し切磋琢磨を行う。今年度1人合格し、現在のキャリアセンター内での有資格者は3人在籍。今後、キャリアセンター内で学生面談のフィードバックを行いスキルアップにつなげる。
(4) 新歓祭、開国際、卒業パーティー	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新歓祭、開国際、秋季・春季卒業パーティーなど、コロナ禍前の実施内容に近いレベルでの開催および運用ができた。</li> <li>✓ 特に春季卒業パーティーは4年ぶりにHTBで実施した。学生の実行委員会、HTB担当および学生課担当もコロナ禍でのブランクがあり計画から実施まで多くの苦労があったが、225人の参加があり大きな実績となった。</li> </ul>
(5) 各種奨学金手続き	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 修学支援新制度(給付奨学金) および貸与奨学金ともに、適切な周知、フォローを実施し安定的な制度運用ができた。</li> <li>✓ 一方、複数回の説明会開催やその準備、申請書類のチェック等業務負荷は大きいので、学生に対してどこまでのフォローレベルが適正なのか、の検証は必要と考える。</li> </ul>
(6) 学生寮チューリップハウス個別空調化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長年の懸案であったチューリップハウスの空調をセントラル方式から個別空調に変更した。これにより、寮生の快適性とセントラル方式で発生していた付帯コスト(冷温水ユニット切替、冷却水処理用薬品、老朽化による修繕費)が削減できた。</li> </ul>
(7) 障がい学生支援のプラットフォーム事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 障がい学生(合理的配慮申請学生含む)の就職支援体制の整備は、キャリアセンターとCHサポートセンター、包括協定締結先の社会福祉法人南高愛隣会との連携により、産学連携の就労移行支援モデルとした「入学時からの就職支援」の就職支援制度は構築でき、学生への就職支援プログラムを実行し、調整を図る段階まで来ている。次年度は完成形を目指す。</li> </ul>
(8) ピア・サポート (NIU ピア・サポート学生組織)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学長裁量経費で採択された「障がい学生支援活動の展開によるSDGsの実現ー目標4・10の達成ー」として、「改訂版学生生活サポートブック」の発行や、ピア・サポーター(学生)を対象に障がい学生支援スキル向上の研修を実践するなど、さまざまな活動に連動した形で、教職員とピア・サポーター(学生)の協働により積極的な活動ができた。</li> <li>✓ 「改訂版学生生活サポートブック」の発行については、最新の社会的動向を踏まえて、障がい学生への理解と対応を可視化した。</li> <li>✓ NIUピア・サポート学生組織執行部を中心に企画・立案した学内研修や、先進校との合同研修や交流会(情報交換)を実施し、事後アンケートから障がい学生支援のスキル向上が認められた。</li> <li>✓ これまでのピア・サポート活動が認められ、令和5(2023)年度の「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣奨励活動表彰を受けた。それに伴い、学内ではNIU賞も受賞した。</li> </ul>
(9) 健康診断・健康相談・保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 平成24(2012)年度から継続した100%の受診率を維持できた(休学者除く)。</li> <li>✓ CHサポートセンター内の3室(保健室・学生相談室・学生生活サポート室)の学生の心身の健康管理および相談に対しても、対面やオンライン対応を組み合わせ、ハイブリット形式で実施するように変更したことで、学生の多様性にも幅広く対応できるようになった。</li> <li>✓ 各自で健康管理できる力を養うことを目的とし、熱中症対策やAED講習会、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターだより発行等による心身の健康に関わる情報発信を行った。</li> </ul>
(10) With コロナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 5月8日から新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置付けが5類への移行されたことに伴い、健康チェックの提出方法をはじめ、感染防止体制を変更した。</li> <li>✓ 感染者に対しての、早期発見、早期受診(処置)などの対応は維持し、NIU利休庵診療所やNIU疾患検査センターと連携を取りながら、感染拡大を防止した。</li> <li>✓ 学生および教職員の希望者対象の新型コロナワクチン接種を学内集団接種として実施した。</li> </ul>
(11) 学長 Café	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 7月5日と2月13日に実施。ここ数年は参加学生からの意見・要望に対し、予算上の制限から対応できていない課題が多く、同じ内容の意見・要望が出されている。</li> <li>✓ 参加学生の満足度は高いが、学内における認知度は低い。</li> </ul>
(12) 強化指定部ガイダンス およびスポーツ系学生学修支援プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 【強化指定部ガイダンス】7/26強化指定部1年生ガイダンス 同ガイダンスにおいて、「強化指定部としての心構え、今後の『大学スポーツ』について(キャリア系、単位取得他)、安全安心マニュアルを説明した。 <a href="https://sports.niu.ac.jp/news/info/2023/231">https://sports.niu.ac.jp/news/info/2023/231</a></li> <li>✓ 【スポーツ系学生学修支援プログラム】11/1(水)~1/19(金)毎週水・金曜日：8:20~8:50にて計17回実施した。担当はスポーツサポートセンター、スポーツ支援・振興室、強化指定部指導者とした。テーマはスポーツ系学生のキャリアについて、単位取得の重要性他とした。</li> </ul>

(13) 大学スポーツにおける安全安心認証制度「UNIVAS SSC」認証	✓ 10/1 付で一般社団法人大学スポーツ協会(以下、UNIVAS)における「安全安心認証制度：UNIVAS SSC」を認証した。 <a href="https://sports.niu.ac.jp/news/info/2023/235">https://sports.niu.ac.jp/news/info/2023/235</a>
---------------------------------------	--

《進路決定状況》(令和6(2024)年5月1日現在)

《進路決定に関する概況》
✓ 令和6(2024)年3月卒の大卒求人倍率は1.71倍であった。令和5(2023)年3月卒の1.58倍から0.13ポイント上昇し、コロナ禍直前の水準に近付き、企業の採用意欲が高まっている。また、昨年は採用拡大に慎重であった中小企業も採用意欲が回復した。そのような環境の中、本学では航空運輸業や旅行・宿泊業といった観光関連企業への就職もコロナ禍前の水準に近付きつつある一方、昨年達成した卒業生に対する就職率85%を維持することができなかった。要因として、薬学科の国家試験合格率の低下や、留学生を中心に売り手市場を背景に卒業までに進路を決定せず、希望の企業への就職活動を継続する学生が増加したことなどが挙げられる。

<令和5(2023)年度卒業生> (令和5(2023)年9月・令和6(2024)年3月卒業生合計)

学科名	卒業生数	就職希望者数	就職者数	進学者数	就職率		
					対卒業生	対希望者	
国際観光学科	日本人	178	168	159	5	91.9%	94.6%
	留学生	60	30	24	9	47.1%	80.0%
社会福祉学科	60	53	48	4	85.7%	90.6%	
健康栄養学科	74	72	70	0	94.6%	97.2%	
薬学科	113	86	85	1	75.9%	98.8%	
計	485	409	386	19	82.8%	94.4%	

<令和5(2023)年9月卒業生>

学科名	卒業生数	就職希望者数	就職者数	進学者数	就職率		
					対卒業生	対希望者	
国際観光学科	日本人	3	2	2	0	66.7%	100.0%
	留学生	19	8	7	2	41.2%	87.5%
社会福祉学科	2	2	1	0	50.0%	50.0%	
健康栄養学科	6	6	6	0	100.0%	100.0%	
薬学科	28	16	15	0	53.6%	93.8%	
計	58	34	31	2	55.4%	91.2%	

<令和6(2024)年3月卒業生>

学科名	卒業生数	就職希望者数	就職者数	進学者数	就職率		
					対卒業生	対希望者	
国際観光学科	日本人	175	166	157	5	92.4%	94.6%
	留学生	41	22	17	7	50.0%	77.3%
社会福祉学科	58	51	47	4	87.0%	92.2%	
健康栄養学科	68	66	64	0	94.1%	97.0%	
薬学科	85	70	70	1	83.3%	100.0%	
計	427	375	355	17	86.6%	94.7%	

《制度別減免奨学費実績》令和6(2024)年3月31日時点(休学者含む)

制度	人数	積算額(単位：円)		
		入学金	授業料	合計
特待生制度	490	10,500,000	203,622,500	214,122,500
九文減免	41	1,500,000	2,840,000	4,340,000
九文特待	55	2,750,000	23,912,500	26,662,500
九文一般	2	250,000		250,000
特別奨学生	9	1,000,000	5,850,000	6,850,000
英語資格特待	53		24,700,000	24,700,000
災害救助法適用地域減免	0			
私費外国人留学生授業料減免制度	163		28,957,500	28,957,500
外国人留学生(入学金減免)	25	6,250,000		6,250,000
長崎短期大学(入学金免除・留学生を含む)	4	1,000,000		1,000,000
長崎短期大学減免	7	1,000,000	461,000	1,461,000
合計	849	24,250,000	290,343,500	314,593,500

《制度別給付奨学金実績》

制度	人数	積算額(単位:円)		
		入学金	授業料	合計
兄弟姉妹在籍奨学金制度	21		1,919,000	1,919,000
同窓会特別奨励金	20		2,000,000	2,000,000
合計	41		3,919,000	3,919,000

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
<p>✓ 令和5(2023)年度には、中国、韓国、台湾からの留学生に加えて、新たにミャンマーとスリランカからの留学生も受け入れた。秋季入学を含む新入生は、1年次に38人(前年度は12人)、2・3年次編入生は22人(前年度は28人)である。</p> <p>✓ 令和5(2023)年度の派遣交換留学では、20人が協定大学に留学した。また、コロナ感染症の拡大により長期間中止されていた海外短期留学が再開され、29人がカナダの協定大学で4週間の留学を行った。さらに、令和6(2024)年度のJASSO海外留学支援制度(協定派遣)に新規採択された。</p> <p>✓ グローバル人材の育成を目指して、留学生と日本人学生との国際交流や、グローバルトークなどのイベントを積極的に実施した。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 留学生募集強化	<p>✓ 韓国および中国での募集活動を再開し、薬学部への韓国人入学者は昨年度の3人から増加し、5人の留学生が入学した。さらに、中国、韓国、台湾以外の地域(例:スリランカやミャンマー)での入試制度を導入し、留学生の志願者が増加した。秋季入学を含む入学者は、昨年度の40人から60人に増加した。</p>
(2) 留学生在籍管理の徹底	<p>✓ 前期には、担当教員による留学生の在籍管理とアルバイト状況調査面談はオンラインシステムを通じて実施した。後期には、職員が対面で面談を行った。</p>
(3) スポーツ系留学プログラム	<p>✓ 令和5(2023)年度にカナダ・トンプソンリバーズ大学とのスポーツ系留学プログラムの構築に向けた打ち合わせを関係部署および国際観光教員で数回行った。今後も検討を継続する。</p>
(4) グローカルトークの定期的開催	<p>✓ 令和5(2023)年度は、6月、7月、11月、12月の計4回のグローバルトークを開催し、留学生10人と日本人学生21人が参加した。次年度以降は、開催時期を早めに告知し、参加者を増やす取り組みを行う。</p>
(5) 留学生と地域社会との交流促進	<p>✓ 令和5(2023)年度は、感染症対策を講じながら、留学生と地域の人々との交流活動を行った。また、佐世保地域留学生支援交流推進協議会事務局として、スポーツ交流やモニターツアーを実施した。さらに、長崎県主催の交流事業や佐世保基地内の家族との交流にも本学の留学生と日本人学生が積極的に参加し、地域の国際化に貢献した。今後も地域の国際化に向けた取り組みを継続していく。</p>
(6) 教職員の職能開発	<p>✓ 海外留学派遣業務や入管手続きに関する研修会へ積極的に参加した。</p>

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
<p>✓ 令和6(2024)年度春季は、488人(令和5(2023)年度比+23人)の入学者で、春季入学定員比94.8%、1年次入学定員比97.8%となり、定員充足には至らなかった。学科別の1年次入学定員比は、国際観光学科126.7%(前年113.8%)、社会福祉学科65.0%(前年93.3%)、健康栄養学科86.3%(前年63.8%)、薬学科75.0%(前年85.8%)であり、国際観光学科は前年比+25人、健康栄養学科が前年比+18人と増加した一方で、社会福祉学科は前年比△17人、薬学科は△13と減少した。国際観光学科の邦人志願者は対前年比71%と低下したものの、留学生84人の入学により入学定員を充足した。健康栄養学科の志願者は前年比111%と増加、社会福祉学科は志願者対前年比63%で大幅に低下、薬学科は志願者対前年比91%の状況の中、総合型・推薦型志願者の歩留まり率は向上したが、一般・共通テスト利用志願者の歩留まり率が過去5年間で最低となり前年入学者を上回れなかった。本学への志望順位度を高めるために広報手段の拡充など対策を講じて次年度は定員充足を目指す。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 定員確保	<p>✓ 入学定員と入学者数は下記の《学生募集の計画値と実績》の通りである。全学部1年生、編入学生、大学院の入学定員充足による安定した収容定員の維持を目指しての学生募集活動であったが、総数では前年度から増加したものの入学定員充足に至らなかった。</p>
(2) アドミッション・ポリシーの対応	<p>✓ 入試改革内容と現アドミッション・ポリシーとの整合性の確認を行っている。本年一部改訂し、令和7(2025)年度の入学者受け入れ方針とした。今後も必要に応じて変更内容を検討し、見直し後の検証を入試・募集委員会で行う。</p>
(3) 学部学生の募集	<p>✓ 進学説明会については、過去に実施した高校内説明会、会場説明会の状況について検証し、継続・不参加・新規参加するものを編成し、高校内116件、会場122件</p>

	<p>に参加し、延べ2,555人に説明を行った。次年度も計画的かつ積極的に参画することとした。</p> <p>✓ 高校訪問については、志願者入学者実績をベースに、訪問校リストを再編し、年1～4回の訪問校を設定した。新型コロナウイルス感染症の影響による訪問不可や玄関先での対応は解除され324校442回の実績。次年度も情報伝達・収集を行い志願者獲得に繋げたい。</p>
(4) 大学院生の募集	<p>✓ 大学院生募集については、学部在学生を中心に各研究科長・専攻長が責任を持って定員確保に向けて取り組んでいる。令和6(2024)年春季は18人(前年9人)の入学者であった。</p>
(5) 外国人留学生の募集	<p>✓ 国際交流・留学生支援センターを中心として、国内・海外における計画的な募集活動を実施している。人間社会学部の1年次入学者は、88人(前年度20人)の入学。3年次編入学生については14人(前年9人)と増加。また薬学科の1年次では韓国からの志願者が、令和元(2019)年度の17人をピークに、前年度は3人と減少傾向であったが令和6(2024)年度は5人の入学者で微増。引き続き国際観光学科の秋季入学をはじめとして収容定員確保を図って行く。</p>
(6) 社会人学生の募集	<p>✓ 社会人学生の募集としてはホームページやパンフレットで案内し、特別選抜区分の中で社会人入試を11月と12月に設定。2人の志願者(前年5人)があり2人入学(国際観光学科1人、社会福祉学科1人)。</p>
(7) 高校との連携・協力	<p>✓ 高校から依頼される出張講義に可能な限り参加することとし、33件実施した。学科別では、国際観光学科5件、社会福祉学科2件、健康栄養学科9件、薬学科15件。また、九州文化学園高校からの入学者は33人(前年36人)と減少したが、健康栄養学科が前年の2人から13人と増加、薬学科が前年0人から4人と増加した。引き続き次年度も情報交換や説明会により学園内部進学者の安定的な入学を図って行く。また、他校においても高大連携の強化に努める。</p>
(8) 既存入試制度の実施・改善	<p>✓ 一般選抜A日程において区分を3教科型と英語4技能型に変更し学力検査科目と得点配分の見直しを行い実施した。受験者層拡大のために、社会福祉学科に介護福祉士スキルアップ入試、健康栄養学科に特別奨学生制度入試を新規導入し、健康栄養学科ではこの入試区分で5人が入学した。また一部の入試区分を除き、新たに学力の三要素に基づく多面的・総合的な評価のための自己申告書を出願時提出書類とし、評価・点数化する事とした。その他の入試区分においては実施に向け順次準備を整え実施した。</p> <p>✓ 地域創生支援リーダー育成入試ではアドミッション・オフィサーとしてQSPコーディネーターも書類審査に加わり実施し、出願者5人全員が合格した(国際観光2人、健康栄養学科1人、薬学科2人)。</p>
(9) 入試制度の妥当性検証	<p>✓ アドミッション・オフィサーを中心とし、入試募集委員会を中心に検証を行い、次年度以降も実施する。</p>
(10) その他	<p>✓ オープンキャンパスにおいては、7月・8月に計3回実施し867組1,381人の実績。昨年の795組1,314人から増加。コロナ禍前令和元(2019)年の1,128組1,794人には至らないが、参加希望者数は改善傾向にある。3月開催においては、高校生243人と149人の同伴参加があり、令和3(2021)年3月の高校生数211人を上回り過去最高値であった。進路選択活動の早期化により高校1・2年生の参加者が増加しており、参加後から次年度へのフォローにも重点を置いて対応していく。</p>
(11) 高校生夏休み薬学研究体験・長崎県立猶興館高等学校薬学体験学習【薬学事務室】	<p>✓ 毎年参加高校生から本学への入学者が出ており高校からの認知度、人気も高まっている講座。本年度も定員30人程度に対し、長崎県内8校25人、佐賀県内4校6人、計12校31人の応募があった。当日は、台風により8/10-11の2日間を、1日間(8/11)に変更して実施。12校29人が参加した。内容も1日分に集約、ほぼ予定した実験等を実施し、参加した高校生へのアンケートでは、全員が「満足した」、「また参加したい」と回答している。</p> <p>✓ また、8/24～8/25の2日間、猶興館高校薬学体験学習を実施。理数科2年生19人が参加した。夏休み薬学研究体験と同様の内容であるが、高校生も実験や考察それを基にした研究発表等熱心に取組み、実験の楽しさや有意性への理解も深まり目的の一つである理科への興味・関心が一層高まったものとする。アンケートでは、全員が「満足」と回答しており高評価であった。</p>

《学生募集の計画値と実績》

項目	令和6(2024)年度入試	令和5(2023)	前年度
----	---------------	-----------	-----



			計画 設定値	実績（春季）	年度 入試実績	比較	
留学生入学者の目標人数（編入学生含む）			70人	107人	32人	+75人	
入学者数			530人	488人	465人	+23人	
入学者数	学部	国際観光学科	入学者数	200人	247人	222人	+25人
			編入学者数	30人	14人	14人	±0人
		社会福祉学科	入学者数	60人	39人	56人	△17人
			編入学者数	0人	4人	1人	+3人
		健康栄養学科	入学者数	80人	69人	51人	+18人
			編入学者数	10人	6人	5人	+1人
	薬学科	入学者数	120人	90人	103人	△13人	
		編入学者数	0人	1人	4人	△3人	
	計			500人	470人	456人	+14人
	大学院	観光学専攻	10人	9人	3人	+6人	
		社会福祉学専攻	10人	6人	1人	+5人	
地域マネジメント専攻		3人	2人	2人	±0人		
健康栄養学専攻		4人	0人	1人	△1人		
医療薬学専攻		3人	1人	2人	△1人		
計			30人	18人	9人	+9人	

## (8) 教職員の人材開発

取組の総括	
<p>✓ 本学の SD・FD 活動は、自己点検・評価委員会において、全学的取組みと各部局等で実施する取組みの調整を図り、組織的且つ計画的に実施できるよう、実施計画を策定し目標達成に努めた。</p> <p>✓ 全学 SD・FD 活動として、授業アンケートの実施、公開授業の推進、教育向上研究会(各種講演会等)、大学間連携の SD・FD として、QSP の連携 SD・FD、西九州大学との包括的連携協議会(合同 SD 研修会)、別府大学、別府大学短期大学部、西九州大学、西九州大学短期大学部、長崎短期大学の 6 機関合同研修会を実施した。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) SD・FD の計画および調整	<p>✓ 令和 5(2023)年度 SD・FD 実施計画は、第 1 回自己点検・評価委員会において審議し、実施した。</p>
(2) 新着任研修	<p>✓ 新着任 FD および授業研修会を、自己点検・評価委員会および教育基盤センター運営委員会との共催で実施した。</p> <p>4月1日(対面) 「新着任教員対象 SD・FD」</p> <p>4月3日(対面) 「第 1 回授業研修会」</p> <p>4月17日(対面) 「ICT活用による教育内容向上に関する研修会」</p> <p>7月10日(対面) 「第 2 回授業研修会」</p> <p>9月6日～9月14日(WEB) 「第 3 回授業研修会」</p> <p>12月11日～12月22日(WEB) 「第 4 回授業研修会」</p>
(3) SD 活動	<p>✓ 大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組として、一部 FD と共催で、以下を実施した。</p> <p>4月26日～5月10日(WEB) 「修学上の配慮が必要な学生に関する SD・FD」</p> <p>4月26日～5月19日(WEB) 「ハラスメント防止に関する SD・FD 研修」</p> <p>6月6日～6月29日(対面) 「令和 5(2023)年度 新着任職員研修」</p> <p>7月12日～7月24日(WEB) 「コンプライアンス研修」</p> <p>7月26日(対面) 「大学の財務状況に関して」</p> <p>9月6日(WEB) 「自己点検評価を通じた教職課程の質保証」</p> <p>9月20日～9月29日(WEB) 「学生支援 FD・SD」</p> <p>12月20日(WEB) 「薬物乱用防止講演会」</p> <p>2月27日～3月13日(WEB) 「大学における DX 化の推進について ～事務作業の効率化を目指して～」</p>
(4) FD 活動(教育改善、教育向上)	<p>✓ 教育内容・方法等の改善の工夫・開発と、効果的な実施のため、一部 SD と共催で、以下の取組を実施した。</p> <p><b>【1. 授業アンケートの実施】</b></p> <p>前期・後期それぞれ、全教員（非常勤を含む）を対象に、WEB 方式を併用した授業アンケートを実施した。その結果により各学部で学部長面談を実施し改善向上に努めた。全ての専任教員は、授業アンケートの結果に対して「アクションプランシート」で課題抽出と改善策を自己点検・評価委員会に報告した。</p>

	<p><b>【2.公開授業の推進】</b> 前期・後期に全ての学部で授業公開を実施すると共に、授業公開終了後に各学部において報告会を開催し、公開授業に対する課題共有等の意見交換会を行い、その内容は自己点検・評価委員会に報告した。</p> <p><b>【3.教育向上研究会(各種公演等)】</b> 4月26日～5月10日(WEB) 「修学上の配慮が必要な学生に関するFD・SD」 4月26日～5月19日(WEB) 「2023年度ハラスメント防止に関するSD・FD研修会」 5月15日～5月29日(WEB) 「研究倫理研修」 7月12日～7月24日(WEB) 「公的研究費コンプライアンス研修」 7月26日(対面) 「大学の財務状況に関して」 9月4日～9月18日(WEB) 「安全保障輸出管理に関する研修会」 9月6日(WEB) 「自己点検評価を通じた教職課程の質保証」 9月16日～9月25日(対面) 「実務家教員に対するFD」 9月20日～9月29日(対面) 「学生支援FD・SD」 12月20日(WEB) 「薬物乱用防止講演会」</p>
(5)SD・FDの大学間連携	<p>✓ 他大学との連携事業として、QSPにおける合同SD・FDを実施した。また、別府大学、別府大学短期大学部、西九州大学、西九州大学短期大学部、長崎短期大学の6機関合同で、IR(Institutional Research)機能強化に繋げる研修を実施した。</p>

### (9)ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
<p>✓ <b>【地域連携室(QSP含)、スポーツ支援・振興室】</b>ステークホルダーとの連携強化については、特に「知の拠点」である本学と初等・中等教育機関と連携、本学園・本学との包括連携協定締結団体との連携を深化することで、本学園・本学のステークホルダー増に繋がると想定する。</p> <p>✓ <b>【学生課】</b>4回/年開催される早岐警察署協議会に参加しており、関係性を構築している。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1)産官学(地域・企業・高校・大学等)連携事業	<p>✓ <b>【佐世保市】</b>令和5年度次世代創業者育成プログラム(佐世保市、長崎県立大学、佐世保高専、本学)共同研究：70千円</p> <p>✓ <b>【長崎県若者定着課】</b>県内大学等による地域人材育成・定着支援補助金:500千円</p> <p>✓ 令和5(2023)年度STARTUP99 西九州させば広域都市圏ビジネスプランコンテスト：1/20(土)同コンテスト最終審査会1組進出。</p> <p>✓ <b>【平戸市連携事業】</b>アルベルゴ・ディフーズタウン(ADT)構想</p> <p>✓ 3/5(火)令和5(2023)年度第1回地域連携連絡会議 計12団体 本学園・本学と包括連携協定締結団体との情報交換会</p>
(2)公開講座・寄付講座関連事業	<p>✓ 公開講座：○12/9(土)誰でもわかるDXの基礎と現状 参加者約30人 ○2/17(土)無料で使えるAdobeExpressを使って誰でもデザイン 参加者約50人</p> <p>✓ 寄付講座:野村證券株式会社佐世保支店 後期開講科目「資産管理とライフプラン」</p> <p>✓ 寄付講座：回生薬局 科目「ホスピタリティ演習Ⅱ」</p>
(3)催事関連事業	<p>✓ 10/22(日)第10回地域の期待に応える実践活動 対象：薬学部4年生97人 協力団体・個人：団体15、個人9</p>
(4)QSP事業	<p>✓ QSP事業は、令和5(2023)年度から私学14校のうち5校が退会したため、私学9校、全17機関体制で、QSP第2期中期計画を策定しスタート。新しいWGを組成し、タイプ3申請に向けて新たな企画も実施している。</p> <p>✓ 具体的には、共同入試、リケジョ事業、リカレント教育、健康ウォーキング、波佐見町の地場産業支援、幼児教育・保育現場における家庭支援に関する共同研究、留学生と地域との国際交流(異文化理解教室・英語イマージョンキャンプなど)等に取り組んでいる。また、共同での業務として、IR、SD・FD、人事交流、QSP人材リストの活用、施設設備の共同利用などにも引き続き実績を挙げている。</p> <p>✓ 特に共同入試(地域創生支援リーダー育成入試)では、令和3(2021)年度創設以来初めて令和6(2024)年度合格者5人が入学した。全員本学合格者で、国際観光学科2人、健康栄養学科1人、薬学部2人。今後QSP参画校、および就職委員会・キャリアセンターと連携し、地元就職に係る就活プログラムを実施する。</p> <p>✓ 私立大学等改革総合支援事業タイプ3申請に当たっては、調査票得点率92%と高得点を獲得、自己評価もAとして令和6(2024)年2月に採択され、13,800千円の補助金を獲得した。</p> <p>✓ 共同入試の実施に伴い、長崎県未来人材課より、県内大学等による地域人材育成・</p>

	<p>定着補助金を271千円受領した。</p> <p>✓ 令和4(2022)年度の活動実績、自己評価を取りまとめ、QSP外部評価委員会による外部評価を受けた。</p>
(5)ハイスクール茶会事業	<p>✓ 5/20(土)開催令和5(2023)年度第10回参加高校：15 高校、高校生参加者：143人</p>
(6)NIU キッズキャンパス事業	<p>✓ 11/11(土)開催「NIU キッズキャンパス」15 講座：557人</p> <p>✓ 参画団体：学内9、学外6</p>
(7)初等・中等教育機関連携事業	<p>✓ 5/13、6/10、7/8、9/30、10/14、11/18、12/9、1/20、2/17 開催「NIU キッズチャレンジスポーツ」9 回実施、参加者：217人</p> <p>✓ 6/23(金)佐世保東翔高校「探求型学習における交流事業」同校生徒4人</p> <p>✓ 7/13(木)佐世保北中学校研究所訪問4学科対応 参加者：生徒40人、引率者2人</p> <p>✓ 12/9(土)開催「NIU スポーツフェスタ 2023」参加者：約500人</p> <p>✓ 12/9(土)佐世保北高校野球部保護者会(部員、保護者)「スポーツ栄養学：健康栄養学科小田先生」、「チームビルディング：スポーツ支援・振興室：徳吉」について</p>
(8)「大学スポーツ振興」事業	<p>✓ 令和5(2023)年度長崎県競技力向上対策本部：【国体強化指定クラブ】女子バレーボール部、アーチェリー部、テニス部</p> <p>✓ 令和5(2023)年度長崎県競技力向上対策本部委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉</p> <p>✓ 令和5(2023)年度公益財団法人長崎県スポーツ協会評議員兼競技力委員会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉</p> <p>✓ 令和5(2023)年度長崎県スポーツ推進審議会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉</p> <p>✓ 令和5(2023)年度東彼杵町部活動在り方検討委員会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉</p> <p>✓ UNIVAS 総合推進委員会 Data Library 検討部会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉</p> <p>✓ 第3回 Sport in Life アワード2023 賞受賞(2年連続)</p> <p>✓ UNIVAS AWARDS2023-24：スポーツ統括部局/SA 賞入賞(5期連続)</p> <p>✓ 鹿児島国体 長崎県代表選手：13人、指導者：4人</p> <p>✓ 令和5(2023)年度佐世保市教育委員会文化及びスポーツ表彰 スポーツ優秀奨賞：4団体</p> <p>✓ 1/12(金)スポーツサポートセンターと長崎県体育保健課学校体育班久田課長補佐兼部活動地域移行推進リーダーとの情報交換</p>
(9)同窓会	<p>✓ 同窓会バックアップ支援制度、全国大会出場支援：11団体</p>
(10)地域連絡協議会	<p>✓ 会自体の開催はないが、本会会長との協議により大学周辺道路に2つの街灯の設置が決定した。</p>
(11)保護者会	<p>✓ 対面：377組、519人、オンライン：163組201人の参加者で実施。個別面談についてはどちらも99%の高い満足度であり、本会の開催意義を十分に果たせた。</p>
(12)リカレント教育：履修証明プログラム(職業実践力育成プログラム：BP)	<p>✓ 令和5(2023)年度履修証明プログラム履修生、および同プログラム修了生：2人</p> <p>✓ 3/30(木)履修生履修証明書授与式：対象2人</p>
(13)日経グローバル「大学の地域貢献度調査」	<p>✓ 同調査ランキング：長崎国際大学全国53位(全国私大10位、九州地区大学9位、九州地区私大1位)</p>

## (10) 学園内の連携促進

取組の総括	
<p>✓ 各学科・研究科は九州文化高等学校との高大連携事業を中心として、学園内の各学校に講師派遣を行ったり、共同研究を行ったりと緊密な連携を持つように努めた。その成果として、学園内部からの入学、編入学を得ることが出来た。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 国際観光学科の取組	<p>✓ 九州文化学園高等学校から11人の入学、長崎短期大学から6人(聴講生は含まず)の編入学があった。</p> <p>✓ 学園内の各学校に講師を派遣し、協力を行った。</p>
(2) 社会福祉学科の取組	<p>✓ 法人本部主催による福祉分野連携会議(大学、短大、高校の福祉領域の担当教員と法人本部職員が参加)への参加を通じて、学園内の連携、情報共有を図ることができた。</p> <p>✓ 九州文化学園高校保育福祉科福祉コースとの高大連携事業として、福祉コース専門科目の授業内で、本学科教員が当日の授業内容に関するコメントや講話を行う。さらに、福祉コースの生徒対象の大学見学および模擬授業などを実施した。</p> <p>✓ 九州文化学園高校保育福祉科福祉コース2年生を対象とした介護体験学習を本学</p>

	で実施し、介護担当教員を中心に対応にあたった。大学での福祉の学びを喚起することができ、参加生徒への大学進学相談を気楽にできる環境調整を行うなど、学園内進学促進に寄与することができた。
(3) 健康栄養学科の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高等学校から2人の入学、長崎短期大学から4人の編入学があった。</li> <li>✓ 学園内の各学校に講師を派遣し、協力を行った。</li> </ul>
(4) 薬学科の取組	✓ 長崎短期大学、九州文化学園歯科衛生士学院、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園高校衛生看護専攻科へ講師を派遣した。
(5) 人間社会学研究科の取組	✓ 長崎短期大学および九州文化学園高校教員の進学を促したが、進学には至らなかった。今後も学園内の募集の促進に努める。
(6) 健康管理学研究科の取組	✓ 薬学部および長崎短期大学と共同研究を行い、論文や学会発表等で成果を報告した。
(7) 薬学研究科の取組	✓ 学内連携を促進するため、最新の研究成果を学園内に発信した。

## (11) SDGs の推進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和6(2024)年3月15日(土)に実施された【九州文化学園主催】SDGs推進宣言の日記念イベントにおいて、本学におけるSDGsに関する取組を実績報告書にまとめつつ、同イベントでは外部講師による講演、ポスター展示、学生、教職員によるブース出展、ステージ発表を行い、学園内に対しSDGsに関する意識啓発を行った。</li> <li>✓ 九州文化学園主催、SDGs推進宣言の日イベントに向けて、令和5(2023)年度の本学のSDGsに関する取組について、実績報告書にまとめた。また、同イベントにおいて、他部門の担当者とともにイベント運営ならびにブース出展に携わった。</li> <li>✓ コロナ禍において、経済的事情で十分な食料、日用品を購入が難しい学生に対し、「SDGs項目12：持続可能な生産消費形態を確保」への目標達成に向けて配布を行った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」	✓ SDGsやESD活動を顕彰することで、SDGやESDの意欲の向上と、本学SDGsのさらなる推進を図ることを目的として実施をした。8件の応募に対し、8件の取組を採択し、SDGsの推進に貢献した。
(2) 【法人事務局主催】SDGsに関する連絡協議会	✓ 九州文化学園主催、SDGs推進宣言の日イベントに向けて、令和5(2023)年度の本学のSDGsに関する取組について実績報告書にまとめ、他部門の担当者とともにイベント運営ならびにブース出展に携わった。
(3) 地域で考える循環型「食・物」産学官連携協働プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第一生命保険株式会社佐世保営業支社、わくわくふれあい市場、JAながさき西海させば南部地区女性部の協力のもと、不定期であるが、学生に対し、食料、日用品の配布を行った。</li> <li>✓ 本プロジェクトでは「SDGs項目12：持続可能な生産消費形態を確保」に加え、「フードロス・フードドライブ」等の社会課題に対して、 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 「食・物」循環と“もったいない”という精神</li> <li>2. 社会課題に対する行政・団体の取組</li> <li>3. コロナ禍における支援</li> </ul> </li> </ul> <p>以上、3つのテーマのもと実施をした。</p>

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画の達成に向けて、入学者増による収入増と経費圧縮による支出減の相乗効果での収支改善に努めた。</li> <li>✓ 経常費補助金は令和4(2022)年度の481,526千円から令和5(2023)年度は500,008千円と18,482千円の増収となった。また、教員の科研費獲得額も令和4(2022)年度の47,450千円から令和5(2023)年度は49,400千円と増加した。</li> <li>✓ 今年度よりスタートした「経営健全化WG」の取組である光熱水費削減とペーパーレス化は全学的な取組となり一定の効果をあげることができた。</li> <li>✓ 退学・除籍等の離学防止を「離学予備軍の早期発見・対応」「入学後のミスマッチ」「学修支援」の3つのアクションプランにより全学で取り組んだ。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 固定経費の見直し	✓ 清掃、ビル管理業務、構内剪定等既契約を見直し、経費削減を図った。
(2) 省エネの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 経営健全化WGを中心に、授業が行われていない教室の空調や照明などの使用状況を見回るなど、全学的に光熱水費削減に努めた。</li> <li>✓ デマンドコントロールの機能を上げて、節電に努めた。</li> </ul>
(3) ペーパーレス	✓ 経営健全化WGを中心に呼びかけ、ペーパーレス化を推進した。

## (13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
-------	--

<p>✓ 開学から24年が経過し、施設・設備、備品の経年劣化が進行している。教育活動への優先度、重要度を勘案しながら優先順位をつけて対応した。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 放送機器の更新	✓ 非常時に備え、放送機器の更新を行った。
(2) 空調機器の更新	✓ 薬学研究棟2階・3階、5号館、3号館のPC教室の空調機器の更新を行った。
(3) 自動草刈り機の導入	✓ これまで業者に依頼していた草刈りを、自動草刈り機の導入によって、大幅に経費削減を図ることができた。
(4) SINETの導入	✓ 安定したインターネット回線の確保のためにSINETを導入した。
(5) メールサーバーの更新	✓ 安定したメールシステムの運用のためにMicrosoft Exchangeを用いたメールシステム運用に切り替えた。
(6) 中庭ウッドデッキの改修	✓ 木製のウッドデッキの腐食が進んでいたことから、ゴム製に改修し学生の安全を確保することができた。
(7) 大型研究機器・設備の整備【薬学事務室】	<p>✓ 「マイクロカロリーメーター」および「マイクロプレートリーダー」を設置した。</p> <p>✓ 動物実験室関連、IR 実験関連、クリーンルーム関連、その他の空調等設備等予定通り定期点検を実施している。動物実験室関連については、空調制御盤シーケンサーの老朽化が進み、更新整備等の検討が必要である。IR 実験室関連については、実験処理水貯蔵室の排水ポンプ制御盤のシーケンサー修理を行ったが、全体的に老朽化が進み、更新整備等の検討が必要である。また、薬学研究棟1階サーバー室空調の老朽化・不具合に伴う更新整備を行った。</p> <p>✓ 6203教室のドラフトチャンバー6機を老朽化のため新品に交換した。</p>

#### (14) 点検評価

<p>取組の総括</p> <p>✓ 全学的な内部質保証は学長の責任の下、自己点検・評価委員会を中心に推進した。学部・研究科、その他部局の内部質保証は、部局長当該構成員の責任に基づいて、各種調査等からの課題の抽出を行ない、学部学科の改善向上策を検討し、PDCAサイクルを恒常的に循環させ、大学の改善・改革を着実に推進した。</p> <p>✓ 内部質保証の質を維持向上するため、第三者の視点を踏まえた自己点検・評価を実施するにあたっては、授業アンケート、在学生調査、学長カフェ、保護者懇談会(一部WEB対応)、外部評価委員会等の機会を通じて、学生、保護者、外部評価委員などのステークホルダーから意見を収集し、点検・評価を実施した。</p> <p>✓ 学生の「授業アンケート」「卒業生アンケート」等や、教職員に対するSD・FD実施後のアンケート、「自己点検・評価 データ編」、教学データ(科目履修状況、GPA、学生数)等自己点検・評価の基礎となる学内の教育研究情報の適切な把握と分析を行ない、エビデンスに基づく改善・改革が推進されるように情報共有を行った。また、その結果である本学の研究活動や学修実態などの特色や傾向、改善状況を積極的にわかりやすくホームページ等で公開した。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 自己点検評価	<p>✓ 自己点検・評価の実施と、令和5(2023)年度 自己点検・評価 エビデンス集を刊行した。</p> <p>✓ 授業アンケート、在学生調査、授業公開等を適切に実施した。</p> <p>✓ 教育評価の顕彰としてのベストティーチャー賞における「授業アンケート部門」に関しては基準を見直した。また新たに「ベストティーチングイノベーション部門」を創設した。</p> <p>✓ 意思決定支援および点検評価における最適なKPI(Key Performance Indicator)の設定のためIRセンターにて検討を行ない、令和6(2024)年度中に試案を策定し、自己点検・評価委員会へ上程する予定である。</p>
(2) 機関別認証評価	<p>✓ 認証評価受審結果の改善とその改善サイクルの確立のため、自己点検・評価委員会で定期的に改善状況を点検・評価していくことを継続している。</p> <p>✓ 第4クールの機関別認証評価受審を令和7(2025)年度に受審するため、その準備に取り組んでいる。</p>
(3) 分野別評価	<p>✓ 薬学教育評価を令和7(2025)年度に受審することが確認されており、その準備に取り組んでいる。</p>

#### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

<p>取組の総括</p> <p>✓ 部室棟および各種講義棟、第2体育館などの大型スポーツ施設など、キャンパスの魅力と利便性向上として求められる大型案件について、今後も検討を進める。</p> <p>✓ 研究環境の改善・充実については、引き続き優先順位をつけて予算化して実現を図る必要がある。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 「第2体育館」の検討	<p>✓ 令和5(2023)年5月1日現在:『第2体育館』の検討、本学強化指定部9競技13団体:387人+体育会運動部7団体:143人 計530人 学生(2,068人)対比25.7%</p>

	<p>✓ 現状、約 26%の学生が部活動に励んでいる中、トレーニング室も無い総合大学であり、「トレーニング室、戦略室（AV 機器）、バレーボールコート 2 面」が備わった「第 2 体育館」を設置することは、体育会系運動部だけでなく、一般の学生の満足度が向上することも期待されると想定する。今後も本学園、関係部署とも相談し継続して検討する。</p>
--	---

## 2.長崎短期大学

### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	For Community and With Community 地域中核人材育成・地域と成長する日本版コミュニティーカレッジ
経営目標	教職協働による学生支援の充実 ICTを活用した教育環境の高度化 定員充足による財務基盤の安定と国家試験合格率の向上

### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度私立大学等経常費補助金については、申請された全国の私立短大256校中3位の結果であり、教育および研究面から大学改革に教職一体となって取り組んだ。</li> <li>✓ 定員充足については、定員確保ワーキンググループにて募集戦略を立て、学科・コース別に募集エリアを協議し、教職協働による募集活動を昨年度より強化した。また、留学生については、入学前教育の充実、新たなエリアからの志願者を得られ、昨年度並みの入学者数を確保した。</li> <li>✓ 財務については、3年間で約80M収支改善したが、財務基盤の安定のためにはさらなる徹底した経営改善が次年度の課題である。</li> </ul>
---

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ SWOT分析を基に短・中・長期の募集戦略を整理した。経営体質改善として教職員の意識改善は向上しているが、構造改革までには至っていない。</li> </ul>
2	教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ FD・SDに関しては年間15回(学内13回、学外1回、合同1回)実施し、教育の質の向上に努めることができた。</li> <li>✓ 授業アンケートの分析、教員評価(職務報告書の作成と上長との面談)およびピアレビューにより教員個々の能力向上を図った。</li> <li>✓ 茶道教育課程については、教職員が宗家による点前指導を直接受ける機会を設定し、点前(技術)の向上を図り、学生への適切な茶道教育につながった。</li> </ul>
3	約定返済の確実な履行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和6(2024)年度の収容定員確保については94%の定員充足率であった(令和6(2024)年5月1日現在)。奨学金については、ほぼ昨年度と同様であり運用に関して再検討が課題である。</li> </ul>

### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	<p>【食物栄養コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 栄養士実力認定試験対策を推進するため、オンラインで学修できる過去問ドリルを作成し、繰り返し学修ができる環境を整えた。</li> </ul> <p>【製菓コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度製菓衛生師国家試験合格率は100%を達成できた。</li> </ul> <p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ クラスで実施する国家試験対策に加え、成績不振の日本人学生や留学生のグループ指導や個別指導を行ったが、全員の国家試験合格には至らなかった。(合格率約80%)</li> </ul> <p>【国際コミュニケーションコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TOEIC-IPテスト、韓国語検定、中国語検定、その他検定は可能な限り受験を促し、成果を可視化できた。</li> </ul> <p>【保育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全国保育士養成協会九州ブロックセミナーに参加し、保育現場や養成校の問題を他の養成校と共有し、本学の強みや課題について再確認し、自己研鑽およびチーム力向上に努めた。</li> </ul> <p>【入試募集課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高校に対して内部進学促進を目的として、1・2年生を対象に2月・3月に進学イベントを実施した。目標の60人に対して、前年度を超える志願者はあったものの、新卒の入学者は45人となった(辞退者は3人)。</li> <li>✓ 県央地区や西海地区に対して、高校訪問や進学説明会への参加を積極的に試みたが、結果として、目標の35人に対して志願者は32人とどまった。</li> </ul>
戦略Ⅱ	<p>【食物栄養コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 栄養士としての就職率向上を目指したが、令和5(2023)年度は就職希望者34人中19人が栄養士として就職し、栄養士としての就職率は56%であった。栄養士としての就職率が特に低い状況であり、入学当初の栄養士になりたいという学生の意識を維持する取り組みが必要である。</li> <li>✓ 卒業生に対するリカレント教育としてオンラインによる管理栄養士国家試験対策講座を実施した。</li> </ul> <p>【製菓コース】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インターンシップ(長期就業体験)の導入を開始したことにより、例年より早い就活始動につながった。</li> <li>✓ 新たに卒業生による「アイシングクッキー講座」を2回開講した。</li> <li>✓ 「実践文書作成」による教育効果は確認できていない。</li> </ul> <p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国家試験不合格の卒業生に対するフォローアップは、一昨年から合格率が100%であったため実施する必要がなかった。</li> <li>✓ ガイダンスにおいては、1・2年生向けのガイダンスへの参加を促し、介護や福祉の仕事に関する説明を行い、早期の意識づけを図った。</li> <li>✓ オープンキャンパスにおける卒業生の活用は、時間の調整が難しく実施できなかったため、令和6(2024)年度は早期に日程調整し参加を促していく。</li> </ul> <p>【国際コミュニケーションコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 就職率は昨年度より向上したが、就職活動への取組みが遅い学生が少なくなく、さらに支援強化が必要と考える。</li> </ul> <p>【保育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現在の学生の状況を鑑み、クォーター制を導入するカリキュラム改革に着手し、合わせて実習時期の再編にも取り組んだ。また、ボランティア活動への、学生の参加を推奨し現場における実践力の向上を図った。</li> </ul>
戦略Ⅲ	<p>【食物栄養コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域活動として、学内対象9件、学外対象12件、計21件の活動を実施した。</li> <li>✓ コースの公式LINEアカウントを利用し、卒業生や保護者に対する継続した様々な情報提供を行った。</li> </ul> <p>【製菓コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 留学生確保のための新規募集活動は行うことができなかった。</li> </ul> <p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実習指導者連絡協議会を実施し、施設との連携はほぼできた。今後さらなる連携が図れるように連絡協議会の内容の検討が必要である。</li> <li>✓ 保護者会では、特に配慮が必要な学生の保護者は全員参加し、家庭でのフォローも含め充実した内容となった。また、特に配慮が必要な学生の保護者に対しては、短大生活・実習・就職について定期的に連絡を行い、良好な関係性を築くことができた。</li> </ul> <p>【国際コミュニケーションコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新型コロナウイルス感染症の収束により、留学・インターンシップが通常に戻りつつある。保護者会は、希望者対象で、対面またはオンラインでの実施を行い保護者との連携促進を図った。</li> </ul> <p>【保育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保護者会を開催し、特に配慮が必要な学生の支援に向けて家庭との連携を強化した。同窓会は卒業後3年目の学生を対象に企画したが、参加者がいなかったため開催しなかった。次年度は3年目に限定せず開催する予定である。また、佐世保市、波佐見町、東彼杵町の関係団体と連携し、各種イベントへのボランティア派遣や研修を実施した。</li> </ul> <p>【専攻科保育専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インターンシップ園との情報共有を活発に行なった。</li> </ul>
戦略Ⅳ	<p>【食物栄養コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Google Classroom 用い、WEB上で利用できる学修ツールなどを用いることで、教育内容の充実を図った。</li> </ul> <p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 授業や事例発表会準備のために、コンピューターリテラシーの向上に向けた指導を行った。</li> </ul> <p>【国際コミュニケーションコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 非常勤教員を含めたほぼ全ての授業で Google classroom を活用しており、さらに有効活用方法を共有することで授業に活用させたい。</li> </ul> <p>【保育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現場でパソコンを活用した指導案作成などの方法について調査し、その結果を踏まえて、パソコンを活用した指導案作成を一部導入した。また、一部の授業においてパソコンでのレポート作成、提出などを実施したが課題も多く、改善しながら活用方法を検討したい。</li> </ul>
戦略Ⅴ	<p>【食物栄養コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 県央地区からの学生確保に取り組み、定員を充足することができた。</li> </ul> <p>【製菓コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製菓衛生師国家試験合格率は100%を達成できた。</li> <li>✓ コース独自の Instagram のフォロワー数が500を超え、投稿数も増加した。</li> <li>✓ 有限会社 FA ながさきとのコラボ企画でブルーベリーを使った商品をイベント販売することができ、</li> </ul>



	<p>メディアに取り上げられた。</p> <p><b>【介護福祉コース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 昨年、一昨年の介護福祉士国家試験合格率は 100%であったが、今年度は約 80%の合格率であった。日本人の成績不振者が複数名おり留学生の半数以上は日本語能力が低く、通常の国家試験対策に加えて、グループや個別指導を実施したが成果が出せなかった。</li> <li>✓ SDGs に絡めて、授業やイベント等、昨年度より多くのホームページ掲載を行った。(11 件)</li> </ul> <p><b>【国際コミュニケーションコース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コース学生のホームページ(Awesome NJC!)による学びの発信は、記事掲載等が遅れる傾向にあったため、次年度は体制を見直し遅延のないようにしたい。</li> </ul> <p><b>【保育学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ マーチン科目の開設、吹奏楽を通じた地域貢献など音楽教育の充実を図り、学科の魅力発信につなげた。課題として HP、Instagram など SNS を活用した情報発信が少なかったため、次年度は積極的に取り組みたい。</li> </ul> <p><b>【専攻科保育専攻】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究事業の一環として「新井悦子さん絵本イベント」を開催した。</li> </ul> <p><b>【入試募集課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ マスメディアを利用した本学活動の啓発については、入試募集広報委員会の機能を活用し、組織的にリリースするよう情報発信に努めた。</li> <li>✓ 長崎国際大学と連携した進学ガイダンス参加において、直接の出願に結び付かなかったものの、オープンキャンパス参加に繋げることができた。</li> <li>✓ オープンキャンパスは、7・8 月に 3 回、10 月に 1 回、3 月に 1 回実施した。受験対象者 300 人の参加者を目標としていたが、結果として 215 人(実数 172 人)であった。</li> </ul>
戦略VI	<p><b>【製菓コース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高校との連携強化に向け、調理実習への講師派遣を継続した。また、九州文化学園高校の生徒を対象とした試食会の開催を計画したが、感染症の影響で中止となった。</li> </ul> <p><b>【国際コミュニケーションコース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オープンキャンパス、学園祭での学生企画の学修成果発表が軌道に乗り、入学者増加に繋がりがつつある。</li> </ul> <p><b>【専攻科保育専攻】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 専攻科進学希望者への進学ガイダンスの参加者が増えた。</li> </ul> <p><b>【入試募集課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 収支バランスの改善を図るために、計画的に授業料減免の特待生を中心に奨学金の圧縮に努めた。留学生の奨学金圧縮については、継続的に検討する。</li> </ul>
学園内の連携促進	<p><b>【食物栄養コース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高校野球部を対象とした身体測定を行い、結果をフィードバックした。</li> </ul> <p><b>【介護福祉コース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年度は 6 月と 3 月に九州文化学園高校の体験授業を実施し、また本学の説明会も行った。</li> </ul> <p><b>【国際コミュニケーションコース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高校生の検定試験の受験は徐々に増えつつあり、今後、九州文化学園高校での本学学生のプレゼンテーションの機会があれば積極的に参加したい。</li> </ul> <p><b>【保育学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高校との情報交換会では密な情報交換ができ、学生指導に活かすことができた。また、認定こども園九州文化学園幼稚園および三川内保育園と連携し、それぞれの行事に学生がボランティアとして参加した。さらに、幼稚園とは連絡協議会および部会を合計 4 回開催し、ボランティア派遣や相互交流、研修会の開催などについて意見交換を行った。</li> </ul> <p><b>【入試募集課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高校対象のイベント構築については、2 年生向けに 2 月に小規模オープンキャンパスを実施し、1 年生には 3 月に長崎短期大学独自で全生徒に対して説明会を実施した。3 年生については、入学者選抜の合格決定後、2 月にモチベーション向上を目的として「welcomeday」を実施した。</li> <li>✓ 長崎国際大学との共同募集活動については、同大学が参加する長崎県外の会場形式進学説明会(一部高校内形式を含む)を中心に連携を取った。</li> <li>✓ 長崎国際大学からの転入学者はなかった。また、3 年次編入学については、国際観光学科 7 人、健康栄養学科 4 人が受験し入学に至った。</li> </ul>
付帯計画と課題	<p><b>【国際コミュニケーションコース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域の市民公開講座である「万年青大学」から招聘があり、学修成果を相浦地区の住民の方に披露し、好評を得た。</li> </ul>

## 5) 主要情報

### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

#### 【本科卒業生数】

学科名	専攻・コース名	総計	備考
地域共生学科	食物栄養コース	39人	
	製菓コース	14人	
	介護福祉コース	28人	
	国際コミュニケーションコース	60人	
保育学科		78人	
総計		219人	
卒業生の累計		9,886人	

#### 【専攻科修了者数】

学科名	専攻・コース名	総計	備考
専攻科	保育専攻(2年課程)	5人	
総計		5人	
修了者の累計		416人	

#### 【学位および国家資格・免許等の実績】

学位・資格・免許等名	取得者	備考
学位：短期大学士	219人	
学位：学士	5人	専攻科修了者への大学評価・学位授与機構による授与
栄養士	37人	
製菓衛生師	6人	
介護福祉士	18人	
保育士	73人	
幼稚園教諭2種免許状	74人	
幼稚園教諭1種免許状	5人	専攻科修了者

### (2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
入学式	4月5日(水)	保護者の制限なし
オリエンテーション	4月6日(木)・4月7日(金)	
スポーツデー	6月8日(木)：食物栄養コース・国際コミュニケーションコース 6月12日(月)：製菓コース 6月28日(水)：保育学科 9月20日(水)：介護福祉コース	各学科・コース毎に実施
第1回オープンキャンパス	7月22日(水)	
第2回オープンキャンパス	8月11日(金)	
第3回オープンキャンパス	8月20日(日)	
白蝶祭・第4回オープンキャンパス	10月22日(日)	
音楽と動きのつどい	11月21日(火)	アルカス SASEBO で開催
第47回茶道大会	12月10日(日)	学内開催(不文軒等)
創立記念式	12月12日(火)	学内分散開催
卒業式	3月8日(金)	保護者の制限なし
第5回オープンキャンパス	3月23日(土)	

#### <入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
総合型選抜1期	10月14日(土)	
専攻科内部および一般1期	10月28日(土)	
学校推薦型選抜(指定校)	11月11日(土)	
学校推薦型選抜(公募制・内部)	11月18日(土)	
社会人選抜1期	11月18日(土)	

海外留学生入試	11月18日(土)	
総合型選抜2期	12月16日(土)	
海外留学生入試	12月16日(土)	
海外留学生入試	12月27日(水)	
国内留学生入試2期	2月3日(土)	
一般選抜1期	2月4日(日)	
一般選抜2期	3月6日(水)	
社会人選抜3期	3月6日(水)	

## 6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学科・コース・専攻科の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
地域共生学科(全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「新型コロナウイルス感染症」の分類が令和5(2023)年5月に「5類感染症」に変更され、感染症が拡大以来自粛していた地域活動をコースごとに再開した。</li> <li>✓ コース間連携を再スタートさせ、地域共生学科各コースの持ち味を生かした地域活動を実施し、地域や社会に発信することができた。</li> <li>✓ 「地域と職業」の単位を半分(2単位→1単位)に変更し、減らした部分を就職担当者による就職講座として充実させることで就職率の向上につながった。</li> </ul>
食物栄養コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 栄養士実力認定試験対策を推進するため、オンラインで学修できる過去問ドリルを作成し、繰り返し学修ができる環境を整えた。</li> <li>✓ 学修内容の統合や学修成果の披露の場として学内対象9件、学外対象12件、計21件の活動を実施した。</li> <li>✓ 佐世保市内の給食施設に対する栄養士就職割合の増加を目指したが、栄養士としての就職率が低く、学生が栄養士として就職する意欲を持ち続けるための取り組みが必要であることが分かった。</li> <li>✓ 卒業生に対する支援事業として、管理栄養士国家試験対策講座を実施し、20人が受講した。</li> <li>✓ 学生の異文化交流事業として留学生との協働授業や近隣在住の外国人の方を対象とした料理教室を実施した。</li> <li>✓ 協和商工株式会社から提案された食材を使ったレシピコンテストならびに一般社団法人フードバンク協和から提供された食材を用いた安価な昼食の提供を行った。</li> <li>✓ コースの公式LINEアカウントを用い、教員から保護者に対する連絡を継続して行った。</li> <li>✓ 社会人学生の受け入れ促進のための検討を行い、ホームページやInstagramを用いた広報活動を継続して行った。</li> </ul>
製菓コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インターンシップ(長期就業体験)の実施に伴い、新規研修先確保および研修先(ホテル)から求人を得ることができた。</li> <li>✓ 留学生の就職・進学指導はまだ十分ではない。</li> <li>✓ 国家試験合格率は100%を達成することができた。</li> <li>✓ インターンシップの一環として学園内での物品販売を行うことができた。</li> <li>✓ 有限会社FAながさきとのコラボ活動は実施できたが、JAながさきとの連携は地域活動まで実現が出来なかった。</li> <li>✓ Instagramは担当学生を決め、定期的に配信することができた。また学生が制作した動画をオープンキャンパス等で活用することができた。</li> <li>✓ 県内2校の農業高等学校(北松・島原)へ講師を派遣することができた。</li> </ul>
介護福祉コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 通常の状態試験対策に加え、成績不振の日本人学生、留学生に対してグループ指導・個別指導を行ったが、国家試験合格率は約80%であった。</li> <li>✓ 就職に関しては、長期実習前にクラスアドバイザーより就職についての説明を行い、12月中には数名を残し就職先を決定した。</li> <li>✓ 白蝶講座で「負担の少ない介護について」施設と連携を図り、また実習指導者連絡協議会を開催して、実習がスムーズに進行できるよう努めた。さらに、九州文化学園高校については、6月と3月の体験授業や短大の説明会を通して、昨年と比較すると連携は図れた。</li> </ul>
国際コミュニケーションコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 配慮を必要とする多様な学生に対する柔軟な教育支援については概ねでき</li> </ul>

	<p>た。合理的配慮が必要な学生も卒業させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学習の効果を高めるための習熟度別学習の深化については、全ての言語関連の授業において、習熟度別学習を実施し、検定取得率向上などの効果を得ることができた。</li> <li>✓ 効果的なティームティーチングでの指導効果の向上については、一部の授業で授業内容の均一化やきめ細やかな学修支援を行うことができた。</li> </ul>
保育学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学科運営について以下のアクションプランを作成し取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①「音楽教育・活動の充実強化」</li> <li>②「専攻科への入学者促進」</li> <li>③「次世代の保育者発掘プロジェクト」の展開</li> <li>④「配慮が必要な学生への個別支援体制・取り組みの強化」</li> <li>⑤「地域の研修ニーズへの対応」</li> <li>⑥「九州文化学園高校および認定こども園九州文化幼稚園等との連携強化」</li> </ul> このうち、③について中学生を対象とした保育の魅力発信ができていなかったため、今後取り組んでいきたい。 </li> </ul>
専攻科保育専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 幼稚園教諭一種免許状取得率 100%および学位(教育学)取得 100%が維持できた。</li> <li>✓ 県内就職率 80%を達成できた。</li> <li>✓ 定員確保に向け専攻科生を交えたガイダンスの早期実施により進学希望者の増加につなげた。</li> </ul>

## (2) 教育活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教学改革や教育上の課題は、多様な学修成果の可視化の実現と見直し、資格取得要件を満たしつつ高校生の進学を促す魅力ある教育課程の構築、学修習慣が定着していない学生への対応等を挙げていた。また、本学の建学の精神を具現化した茶道教育の充実と地域への情報発信も検討課題としていた。それらの課題解決のため、以下の項目を計画し実行した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 茶道文化教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 茶道の披露は、白蝶祭、オープンキャンパス、茶道大会等で行った。新たな試みとしてクルーズ船内で点前を披露する機会を得、茶道部を中心に外国人に対し日本文化の紹介を行うことができた。認定こども園九州文化幼稚園の園児を対象とした「お茶ごっこ」も実施し伝統文化の継承に努めた。なお、「New Sadou」の検討には至らなかった。</li> </ul>
(2) 教育成果の可視化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学改革・IR 委員会を中心として、エビデンスデータに基づく教育成果の可視化に取り組み、ディプロマ・サプリメントの作成を行い学生に配布した。</li> </ul>
(3) ステークホルダー調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 卒業生・在学生・就職先調査を実施し教学改革に資するデータを修得した。その結果を4月1日の教授会で報告した。</li> <li>✓ ステークホルダー(保護者)の意見を取り入れるため、保護者のメールアドレスを収集する準備を行っている。</li> </ul>
(4) 教育課程の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高校生を意識した内容ではないが、地域共生学科介護福祉コース、国際コミュニケーションコース、保育学科の教育課程の見直しを行った。</li> </ul>
(5) 学修習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 成績不振学生に対しクラスアドバイザー等が面談を行い、学修支援(生活改善含む)等の助言を行った。</li> </ul>
(6) 学修システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Google Education を活用し、学修システムの充実を図っているが、パソコン等を使用する授業がまだ 50%程度であるため、さらなる利用促進を行いたい。</li> </ul>

## (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度の教学組織の新設や募集停止・改組の実施はなかったが、今後の18歳人口の減少の推移、他の私立短期大学における募集停止・改組・定員増減など状況を見ながら、本学の適正な定員管理について検討を継続する。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
なし	

## (4) 研究活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個々の研究活動を主体に、地域や他大学と連携し、連携講座の実施・共同研究事業に取り組む事ができた。</li> </ul>	

✓ 共同研究事業のさらなる発展を目指し、次年度以降も研究活動を進めていく。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学長裁量経費による個人研究支援	✓ 10件の申請があり、学内外での研究や地域との連携活動および高大連携活動の一助となった。
(2) 科研費獲得勉強会の実施	✓ 日本学術振興会開催のオンライン説明会を教職員に向けて広く周知し、学内に会場を設け参加した。
(3) FD・SD研修会の実施	✓ 産学連携コーディネーターと連携し、教職員対象に「コンプライアンス研修」、「科研費支援研修」、「研究倫理研修」を実施した。研修後に確認テスト等を行い、研修の理解度を高め、定着を図った。
(4) QSP事業子ども育成分野の共同研究	✓ 幼児教育・保育現場における家庭支援に関する共同研究を行った。 ✓ 保育現場にアンケート調査を実施して分析を行い、アンケート結果に基づく調査報告書を作成した。
(5) 外部との共同研究・受託研究の推進	✓ 株式会社永石農産の依頼で西九州大学短期大学部と共同でもち麦を使用したレシピを開発し、レシピブックを作成、もち麦の販売促進・需要拡大に寄与した。 ✓ 波佐見町と連携し、子育て・親育ち講座を開催した。(4講座) ✓ 東彼杵町と連携し、食育事業を開催した。 ✓ 協和商工株式会社と連携し、特別授業を開講した。また、メニュー開発事業にも共同で取組んだ。次年度は、弁当メニュー開発に発展させる予定である。

## (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
<p>✓ 学生の支援活動は、学修に関すること、学生生活に関すること、進路に関することに大別できる。</p> <p>✓ 学修に関する支援はオフィスアワーの設定、シラバスの充実、履修指導の徹底、成績不振学生への対応等を実施した。Google Educationを導入しているが教員間の習熟度の差が大きく均一な学修環境の提供には至っていない。また、成績優秀者の満足度が低い傾向にあるため、満足度向上を企図した科目等の開設を検討した。</p> <p>✓ 学生生活に関する支援は、これまでの反省を踏まえ配慮を必要とする学生と教員、実習先、外部機関等との連携を推進した。また、新型コロナウイルスにより活動が制限されていたクラブ活動を含む学生会活動の活性化を図ったが、クラブ活動は低調であった。なお、運営主体が代わった指定寮は年度途中で退寮する学生がいたが概ね順調であった。</p> <p>✓ 進路に関する支援は、就職、進学希望等学生の要望に沿った支援を行うとともに、1年次からキャリアデザインが明確になるような指導を行った。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学修支援	✓ 成績優秀者の満足度向上に資する取り組みとして、地域共生学科食物栄養コースでは「栄養士専門演習」を、保育学科では「保育学特別演習」の開講準備を行った。
(2) 学生生活支援	✓ 合理的配慮に関する研修会を西九州大学短期大学部と合同で実施し、教職員の理解度向上を図ることができた。
(3) 進路支援	✓ 留学生の就職活動を支援する体制は、クラスアドバイザー(学科・コース)と学生支援課が情報共有することで確立できた。
(4) 就職活動の支援	✓ 就職活動支援・キャリア支援の個別相談を充実させるとともに、就職講座の内容を精査して学生の多様なニーズに対応した。その結果、令和5(2023)年度は98.9%の就職率を実現した。
(5) 奨学制度の見直し	✓ 受験生に影響を与えないよう大枠を変更せず、前年度比入学者ベースで120万円の奨学費の圧縮はできたものの、留学生の奨学費圧縮策については継続して検討していく。

## (6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
<p>✓ 令和4(2022)年度に開設した中国・韓国留学サポートセンターを中心として、学科・コースを限定せず留学(短期研修)を促進した結果、韓国、中国、ニュージーランドへ学生を派遣することができた。また、オーストラリア等における有給インターンシップをメインとした語学留学に7人が参加した。</p> <p>✓ 学生に交換留学に関する情報発信を行ったが派遣学生数は0人であった。</p> <p>✓ 留学生の受け入れについては、留学希望者が増加したミャンマー・スリランカへの募集広報活動に重点を置き、入学前教育を継続して実施した。</p> <p>✓ 海外の大学生や高校生とオンラインを活用した交流事業を継続したが、新たな交流先の開拓は行えなかった。また、国際交流推進のため異文化交流パーティー、相浦小学校・佐世保東翔高校で交流授業を実施した。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 海外派遣	✓ 短期研修でニュージーランドへ4人、韓国へ1人、中国へ16人(湖北大学4人、

	<p>浙江理工大学5人、香港7人)の派遣を行った。          ✓ 交換留学生の派遣はなかった。</p>
(2) 外国人留学生受け入れ	<p>✓ 55人の留学生が入学した(内訳はスリランカ16人、ネパール3人、ベトナム1人、ミャンマー31人、韓国1人、中国3人)。なお、ネパールとスリランカは在留審査が長期間におよぶ傾向があるため出願時の審査を慎重に行う必要がある。</p>
(3) 異文化交流	<p>✓ 新しい交流先として韓国の祥明(サンミョン)大学と協定を結び、国際コミュニケーションコースの卒業生1人が3年次編入する予定。異文化交流パーティーを実施し約180人の参加を得た。</p>

## (7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
<p>✓ 全国的に短期大学の志願者数が年々減少傾向にある中、令和6(2024)年度の入学者は本科211人、専攻科7人の計219人であった。例年短期的な学生募集活動で、受験対象者に的を絞った広報を実施していたが、令和5(2023)年度からは高校1・2年生を対象とした中長期的な学生募集・広報活動に努めた。また、今まで学科・コースのPRを主軸としていた広報の在り方から、長崎短期大学全体の認知力向上を意識した募集広報活動を行った。また、令和7(2025)年度入試に向け、総合型選抜・大学入学共通テスト利用選抜の改変を行った。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 入学者の確保	<p>✓ 学科・コースの特性に応じた募集人員を設定し、各選抜試験を実施した結果、昨年度の220人に対し、211人の入学者を迎えた。県央地域(大村・諫早・島原)において、特に大村市内の入学者が昨年度18人の志願に対し、今年度は6人と1/3の結果となった。既に県央地区は中長期的に対策を講じている。</p>
(2) 志願者の確保	<p>✓ 長崎県内を中心に、長崎国際大学と共同運営で九州・沖縄地区の学生募集を実施した。その結果、県外の進学ガイダンスではブースに興味を引きつけることで3月のオープンキャンパスの参加実績ができた。九州文化学園高校からの内部進学目標値60人に対して志願は48人と目標値には届かなかったが前年を上回った。また、1・2年生に注力した進学プログラムを構築し、2月・3月に実施した。</p> <p>✓ WEB(LINE・E-mail)と対面(進学ガイダンス・オープンキャンパス等)の両面から受験対象者にアプローチを行った。動画については、県外対策として、学科・コース紹介動画ではなく、学校紹介動画、施設紹介動画、寮紹介動画を作成し周知を図った。</p> <p>✓ オープンキャンパスを年間5回開催し、268人(延べ数)の受験対象者を動員した。今後は受験対象者だけでなく1・2年生から動員を促し、3年生になっても継続して参加してもらう工夫が必要となる。</p>
(3) 新規リストの獲得	<p>✓ 新規リストの獲得を目的として、新規媒体を予算内で導入した。結果として、1年間で中堅進学校の54人のリストを得ることができ、内3人の受験・入学に繋がった。</p>
(4) 新基準に沿った入試制度の検討	<p>✓ 令和7(2025)年度入試に向け、総合型選抜、大学入学共通テスト利用選抜の在り方を検討し、変更することについて3月のオープンキャンパスで、参加者に予告を行った。</p>
(5) 認知度の向上	<p>✓ 年間50本のプレスリリースの目標に対して、25件と令和4(2022)年度の20件に対して5件増えたものの、目標に到達できていない。入試・募集・広報委員会の機能を活用し、組織的にリリースするよう情報発信に努める。SNSについてはXやInstagramの投稿数を向上させた結果、令和4(2022)年度の63件に対して、令和5(2023)年度は101件となった。今後は学生目線の投稿に注力する。</p>
(6) 専攻科保育専攻	<p>✓ 保育学科を志望する高校生に、進学説明会を通して専攻科の存在・魅力・キャリア形成について説明を行った。特に男子学生については、今後のキャリア形成を踏まえ、進学先のモデルとして専攻科の説明に注力した。</p>

## (8) 教職員の人材開発

取組の総括	
<p>✓ 年度始めに学長FD・SDにて示された方針により全教職員の意識を共有し、各学科・コース、事務局各課にて実施レベルに落とし込み、年度末には総括(振り返り)として報告している。また、年度末には法人事務局長による財務に関するFD・SDを実施しており、本学における財務状況の把握と共に危機感を共有する有効な機会としている。</p> <p>✓ 教育力向上・学生支援力強化に資する研修等の参加については、学長の意向により広く周知を図り、動きを止めることなく促した。</p> <p>✓ 教職員全員が出席する定期的な会議体の中でのFD・SDを開催、新任教職員は個別の研修を実施した。</p> <p>✓ 管理職・監督職のマネジメント力および部下育成の向上に資する機会として、事務組織改編により業務分掌を改め、</p>	

役割分担を刷新した。また、事務局内における部門長会議や各課内協議等により上司・部下間の相互理解を図った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 始めの会・納めの会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 節目に短期大学における環境や本学の現状に対し法人の方針を確認できる機会であり、また、財務に関するFD・SDも丁寧な説明がなされており、情報共有の場、意識統一を図る意味で一定の成果がある。</li> <li>✓ 「学長年度方針」「財務状況」「学科・コース・委員会の取組・課題」等の共有を図ることで教職員の意思統一に繋がった。</li> </ul>
(2) 茶道大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度も新型コロナウイルス感染症に配慮し学内開催となったが、お客様の満足度は高く、本学ならではの茶道大会の在り方を追求し、新たな形へ刷新することを次年度の課題とした。</li> <li>✓ 参加者については、学園関係者、保護者に加え地域、学生の恩師にまで拡げる事ができた。</li> </ul>
(3) 教学に関するFD・SD	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 動画視聴含め合計15回開催している。参加率の平準化が課題である。</li> </ul>
(4) 人事面接、部門長会議、課内ミーティング等の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 業務目標管理シートを基に上司・部下が丁寧なコミュニケーションを図り、自己分析を行った上で次年度の各自の目標設定に繋げている。</li> <li>✓ 部門長会議で各課の業務を把握・情報共有し、また課内ミーティングを実施することで、業務改善や経費削減に寄与することができた。</li> </ul>

## (9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域・地元産業界・他大学と、相互の資源を活用して連携事業を推進した。地域社会へ貢献を果たし、また学生の学びの深化につながり、さらには他大学等と教育力・研究力等を高め合う事ができた。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 市町村との連携	<p>【東彼杵町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 連携協議会を年1回開催し、連携活動について検討した。</li> <li>✓ 食物栄養コースが、食育活動「作って食べよう野菜たっぷり子どもごはん」を企画し、実施の際には、保育学科のボランティア活動の協力も得る事ができた。</li> <li>✓ 製菓コースが、茶園訪問および観光列車開通1周年記念イベントに参加した。</li> </ul> <p>【波佐見町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 波佐見町と連携協議会を2回開催し活動内容の検討および振り返りを行った。今年度は、2日間4講座の「子育て・親育ち講座」を開催した。次年度は、講座数および参加者の増加を目指す。</li> <li>✓ 次年度は、連携協議会を年2回開催し連携活動数の増加を目指す。</li> </ul> <p>【椎木町・相浦地区自治協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 椎木町と九州文化学園高校との連携協議会を開催し、活動について検討した。今年度は、本学主催の異文化交流パーティーへ椎木町住民も参加した。</li> <li>✓ 製菓コースが、椎木町公民館まつりに参加した。(菓子製造販売)</li> <li>✓ 食物栄養コースが、あいあいプラザまつりに参加し、軽食の販売を行った。</li> </ul>
(2) 協和商工株式会社(以下、「協和商工」)ならびに一般社団法人フードバンク協和(以下、「フードバンク協和」)との連携	<p>【食物栄養コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 協和商工とのレシピ開発を発展させ、メーカー企業2社と連携したレシピコンテストを実施した。</li> <li>✓ フードバンク協和より提供を受けた食材を使用し、安価な昼食の提供を行った。</li> </ul>
(3) 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 参加する各大学・短期大学がいずれかのWGの責任校となり、連携活動に取り組んだ。本学は子ども育成WGの責任校として、年に2回の協議会を実施し、活動について活発な意見交換を行った。次年度は、参画校がリレー形式で講師を務める公開講座を開催予定である。</li> </ul>
(4) 短期大学コンソーシアム九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年度は、20周年の記念誌発行に向けての会議が主な活動であった。</li> <li>✓ 次年度は、コロナ禍前に開催していた短大フェスの開催予定が報告されている。</li> </ul>
(5) 市民公開講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「SDGsで創る未来」と題し、年に4回の講座を開催した。介護福祉コース独自事業である「介護の日講演会」を、今年度は、市民公開講座として実施した。社会福祉協議会より2人の講師を招いて、「成年後見制度」について講話を実施した。</li> <li>✓ 食物栄養コースが、市民公開講座プラスとして、佐世保市近郊に在住する小学生対象の食育講座を実施した。</li> <li>✓ 次年度は、委員会主催の市民公開講座を年に4回開催するとともに、各学科・コース主催の講座を公開講座プラスと位置づけ広く市民に周知する。</li> </ul>
(6) 卒業生との連携活動	<p>【食物栄養コース】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎国際大学に編入学した卒業生と編入学を希望している在学生の交流会を実施し、卒業生からの在生に対して情報提供を行った。</li> <li>【製菓コース】</li> <li>✓ 卒業生による本学学生への指導(カフェ学、アイシングクッキー講座)を実施した。</li> <li>【介護福祉コース】</li> <li>✓ 今年度は実施できなかったが、次年度は授業等で卒業生にスーパービジョンをしてもらう予定である。</li> <li>【保育学科】</li> <li>✓ 実習指導において、ゲストスピーカーとして卒業生3人(男性保育者)を招き、学生時代の体験談や実習に向けた心構えなど質疑応答を交えた講話を実施した。</li> </ul>
(7) 保護者との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>【食物栄養コース】</li> <li>✓ 各学年で保護者会を実施し、面談を行った。2年生では給食試食会を実施し、学修成果披露を実施した。</li> <li>✓ 公式ラインアカウントを用い、教員と保護者の連絡を密に行うことで連携を強化した。</li> <li>【製菓コース】</li> <li>✓ 学年ごとの保護者会では、学修成果披露および個別面談を実施した。</li> <li>【介護福祉コース】</li> <li>✓ 保護者会においては、配慮を要する学生の保護者に参加を促し、学業と就職に向けて双方の意思疎通を図り、信頼関係を築いた。また、配慮を要する学生においては、本学での生活・実習の様子・就職などを定期的に保護者の方と情報共有を行った。</li> </ul>
(8) 卒業生との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>【食物栄養コース】</li> <li>✓ 卒業生向けの公式 LINE アカウントを用い、学校行事や就職情報、管理栄養士国家試験対策等の継続した情報提供を行った。</li> <li>【製菓コース】</li> <li>✓ ホームカミング実施および学年ごとの LINE グループ、卒業生限定の Facebookなどを運営し連携を強化した。</li> </ul>

## (10) 学園内の連携促進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教員の異動や退職による教員確保が急務となっている。昨今の教員のなり手不足は公募での適切な教員確保ができない実状と重なり、今後も課題として協議が必要である。その不足を補う意味で、学園内で相互協力し、教員を非常勤として配置することで何とか教育活動を維持できていると、学園内での連携促進の賜物である。しかし、相互の負担が重ならないためにも人材育成や人材発掘のための学園内プロジェクトが必要である。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 【地域共生学科】 教職員の連携・学生向けキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 同敷地内にある九州文化学園高校とは従前より入学前情報交換会を実施してきたが、本学進学者の進路(就職・進学先)や在籍情報について踏み込んだ意見交換を行うことで、学生指導や教育課程の改善に役立てることができた。</li> <li>✓ 九州文化学園中学校の生徒向けのキャリア教育は実現できていないので、次年度の課題として取り組む。</li> </ul>
(2) 【食物栄養コース】 食物分野に関する連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科と協働し、スポーツ栄養に関連した研究活動の実践に向けて取り組んだ。</li> <li>✓ 九州文化学園高校野球部を対象とした身体測定を行い、結果をフィードバックした。</li> </ul>
(3) 【製菓コース】 九州文化学園高校とのコラボ事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食物調理科の調理実習に講師を派遣した。</li> <li>✓ 本学学生による商品開発の試食会を開催した。(1回実施、1回中止)</li> </ul>
(4) 【製菓コース】 九州文化学園小学校とのコラボ事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 小学1年生を対象に本学において「アイシングクッキー講座」を実施した。</li> </ul>
(5) 【介護福祉コース】 九州文化学園高校および長崎国際大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高校、長崎国際大学との連絡協議会を継続し、九州文化学園高校との体験授業等は昨年度より多く実施することができた。しかし、「介護のしごと魅力伝道師講話」等の共同事業は、計画に入れ込むことができず実施できなかった。</li> </ul>
(6) 【国際コミュニケーションコース】 九州文化学園高校へ講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中国語は、本コース2年生が九州文化学園高校の授業へ交流授業を2回、九州文化学園高校の生徒が本学で授業を1回受講した。韓国語は、九州文化学園高校との時間調整ができず実施できなかった。</li> </ul>



(7) 【国際コミュニケーションコース】 高校生への語学検定促進	✓ 九州文化学園高校の生徒に対する韓国語・中国語の検定試験の受験を推進することができた。
(8) 【国際コミュニケーションコース】 九州文化学園高校での学生によるプレゼンテーション	✓ 九州文化学園高校の生徒に対する本コース学生の教育成果のプレゼンテーションおよび交流会については、オープンキャンパス、学園祭で実施することができた。
(9) 【保育学科】 九州文化学園高校(保育コース)との連携強化	✓ 九州文化学園高校との情報交換会では密な情報交換ができ、学生指導に活かすことができた。
(10) 【保育学科】 認定子ども園九州文化学園幼稚園および三川内保育園との連携強化	✓ 認定子ども園九州文化学園幼稚園および三川内保育園と連携し、それぞれの行事に学生がボランティアとして参加した。さらに、同幼稚園とは連絡協議会および部会を合計4回開催し、ボランティア派遣や相互交流、研修会の開催などについて意見交換を行った。
(11) 【専攻科保育専攻】 専攻科インターンシップ	✓ 認定子ども園九州文化学園幼稚園へ専攻科の有給インターンシップ制度の理解をさらに深めていただき、次年度からのインターン生を1人受け入れてもらった
(12) 【入試募集課】 九州文化学園高等学校との連携	✓ 内部進学促進を目的として、中長期的な募集計画の視点から、1・2年生を対象に2月・3月に進学イベントを実施し、早期からの進学への意識付けを行った。進学イベントの内容についても、特に模擬授業はインパクトのある内容を盛り込み、高校生の興味・関心を高めた。 ✓ 入学試験合格者に対して、2月に「welcomeday」を開催し、入学前にモチベーションの向上に努めた。
(13) 【入試募集課】 長崎国際大学との連携	✓ 長崎国際大学との共同開催の進学説明会を長崎県外で実施し、オープンキャンパスの動員に繋げた。 ✓ 長崎国際大学からの転入学については、計画的に情報提供を行ったものの、希望者はいなかった。一方で編入学については、国際観光学科7人、健康栄養学科4人の計11人の編入学となった。

## (11) SDGs の推進

取組の総括	
<p>✓ 今年度の事業計画に基づいて「60活動」を実施できた。しかしながら、「長崎短期大学独自のSDGs宣言の作成」においては活動の集約に終わり、独自の宣言を検討するまでに至らなかった。</p> <p>✓ 「九州文化学園SDGs推進宣言の日」記念イベントへの協力については、法人全体の取り掛かりが早かったため、本学としても余裕をもって対応することができた。本学においても昨年度と同様、本イベントの趣旨である全教職員が一体となって取り組むという趣旨に則った準備ができた。</p> <p>✓ 本学でのSDGsに関する取り組みの集約は、最終的に報告書としてまとめることができたが、事業計画にも挙げている長崎短期大学独自のSDGs宣言の作成は、次年度早めに取り組むことが望まれる。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 創立記念式典	✓ 12月12日(火)に創立記念式典を行い、学生・教職員が共に学ぶ喜びを再認識した。 【目標4および5】
(2) 茶道大会	✓ 12月10日(日)に本学において、茶道教育を通じた資源や環境、道具の大切さ、四季、日本の歴史や文化についての学修成果を発表した。【目標4,6,12および13】
(3) 一般社団法人フードバンク協和からの食品提供を活用した活動	✓ 各企業の過剰在庫、賞味期限切れ間近の食材の提供を受け、フードロスにつながらないように活用した。(例)10/10・17 SDGs 食堂、9/20 九州文化学園小中学校の小学生に対する給食提供など【目標1,3,10および11】
(4) 白蝶祭(学園祭)	✓ 10月22日(日)に、学友会主催でSDGsの視点を取り入れた学園祭プログラムを学生・教職員全体で実施した。 ・学科コースの学修成果の発表(4,5,10) ・端切れをつかったフォトスポット作成展示(7,12) ・SDGsスタンプラリー(すべての目標) ・脱出ゲーム(すべての目標) ・おゆずり市、バザー(7,12) 【目標4,5,7,10,12および16】
(5) 九州文化学園SDGs宣言の日イベントへの参加	✓ 3月15日(金)のイベントにおいて、短大のSDGs活動を紹介し体験できるブースを開設した。 ・地域共生学科食物栄養コース-----フードバンク・フードドライブ活動報告 ・地域共生学科製菓コース-----お菓子生地の再利用

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生学科介護福祉コース-----100歳体操</li> <li>・地域共生学科国際コミュニケーションコース-----地域活動報告</li> <li>・保育学科・専攻科保育専攻-----PEACEぬりえプロジェクト</li> </ul> <p>【すべての目標】</p>
(6)長崎短期大学独自のSDGs宣言の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域活動やイベントに関連するSDGs達成に向けた活動を集約し、HP等で公開することを計画していた(未実施)。【すべての目標】</li> </ul>
(7)専攻科保育専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 海きさら「こどもひろばあまもぼ」におけるお楽しみ会活動に参画した(5/13～1/20の計6回)。【目標4,6】</li> <li>✓ 佐世保市児童福祉週間事業「わんぱくひろば」ステージパフォーマンスへ参画した(5/14)。【目標4】</li> <li>✓ 佐世保市保育会「親子であそぼ」ステージパフォーマンスへ参画した(11/23)。【目標3,4】</li> </ul>

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画、年度事業計画の達成に向けた管理体制の構築のために、中期計画進捗管理表の運用について協議したが、運用までには至っていない。一方で、法人本部案件の重点経営課題、重点教育課題、中期計画基本方針の進捗管理は定期的に報告し確認している。</li> <li>✓ 財務目標の達成を図るため収容定員確保については定員確保ワーキンググループにて協議を重ね費用対効果を意識した募集戦術を展開した。経費の適正化の一助として消耗品を一元管理体制にし、経費制御を図っている。</li> <li>✓ 補助金等外部資金については、昨年度より微増となった。</li> <li>✓ 増収策については、商品開発等を検討したが実施できず、今後の課題としたい。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1)中期計画、事業計画の進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 半期毎に運営会議で確認する体制を整えたが運用までには至っていない。</li> </ul>
(2)部門長のリーダーシップ強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人事面接・部門長会議・運営会議等を通して縦・横のコミュニケーションを図り人材育成に努めた。</li> </ul>
(3)法令順守	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事務局長が新任教職員研修の中で「九州文化学園行動規範」の説明を行った。</li> <li>✓ 全教職員が「研究活動の公正性の確保及び適正な研究費使用の宣誓書」の提出を行った。</li> </ul>
(4)収容定員確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 定員確保ワーキンググループにおいて、さらに細分化されたプロジェクトチーム(内部進学・長崎県内・県外および社会人)を編成し、中長期的な学生募集・広報を行うこととした。</li> </ul>
(5)経費の適正支出	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 消耗品の一括管理による支出抑制を行い1,000千円程度の削減効果となった。</li> </ul>
(6)奨学金の運用見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学納金収入に対する奨学金比率を勘案し、志願に影響がないよう制度設計含め運用を再検討する。</li> </ul>
(7)私立大学等経常費補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 一般補助109,033千円、特別補助42,438千円、計151,471千円で獲得額は申請短期大学の中で3位となった。</li> </ul>
(8)研究費外部資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年度の科研費申請は6人で、内、2人が採択され合計5,595千円獲得した。</li> </ul>
(9)雑収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生通学用駐車場料金を年間3,000円から年間5,000円へ改定した。</li> </ul>

## (13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学内施設整備は、この3年で主要設備(照明・空調・通信等)の更新を実施し、残る電気設備(高圧受電設備)についても着手し目途がたった。しかしながら今後も老朽化による施設補修が必要であり、特に外壁補修や雨漏り対策は急務であるため選択と集中による予算配分により計画的な整備に努める。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1)電気設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高圧受電設備更新に係る工事請負契約書締結、令和6(2024)年12月更新完了予定である。</li> </ul>
(2)建物保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 介護実習室前渡り廊下のガラス屋根改修工事を実施した。</li> <li>✓ 高架水槽用ポンプ2機の更新を実施した。</li> </ul>
(3)照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ カルチャーホールのLED照明化を実施し、学内施設は全てLED照明化が完了した。</li> </ul>
(4)その他備品	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 一部講義室(大講義室・第3合同講義室・第1講義室・第3講義室・体育館)のカーテンおよび音楽室のホワイトボードを新調した。</li> </ul>

### (14) 点検評価

取組の総括	
<p>✓ 自己点検・評価委員会を中心として毎年度自己点検・評価報告書を作成しホームページで公開している。前年度の踏襲となりがちであるが、中期計画との兼ね合いも考慮しながら報告書を作成し、PDCA サイクルを確立している。次の認証評価に向け、新しい基準への適合、新しい評価機関での受審等について検討した結果、令和 7(2025)年度に公益財団法人日本高等教育評価機構で受審することとなった。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 自己点検・評価報告書	<p>✓ 第 4 クールの基準がどのようになるのか情報収集を行いつつ、短期大学基準協会以外の外部評価機関での受審について検討した。</p>

### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
<p>✓ 該当なし</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
	<p>✓</p>

### 3.九州文化学園高等学校

#### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	建学の精神の下、人として大切な徳性と香り高き品格を身につける
経営目標	経営理念に則り、知・情・意のバランスが取れた全人教育を行い、生徒の夢の実現に努める

#### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 昨年度に続き今年度も定員を上回る 315 人の入学生を迎えてのスタートとなった。新課程および、普通科では S アカデミー・S グローバル・総合進学の新しいコースが始動し 2 年目を迎え、それぞれ国公立大および難関私立大への進学・英語教育の充実・内部進学と部活動との両立を目標として、魅力ある教育を展開していくことができた。</li> <li>✓ 今年度の新入生に計画通りタブレット端末を貸与し、授業等において積極的に活用した。職員研修を通して、授業および家庭での効果的な活用方法について検討を重ねた。校務への活用については、下半期を試行期間として、次年度からの本格導入への準備を行った。教室に遮光カーテンの設置を行った。プロジェクターやスクリーンの設置について検討を重ね、次年度には設置ができる運びとなった。結果、ICT 環境の充実および新たな学習機会の提供に繋げることができている。部活動については、水泳部、空手道部が全国の舞台に進むほどの活躍をみせ、吹奏楽部も多くの地域から招かれて演奏を披露するなど、学校関係だけではなく多くの地域の方々と繋がり活躍の場を広げている。</li> <li>✓ 新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行され、教育活動等がコロナ禍以前に戻りつつあり学校にも活気が戻ってきたが、引き続き注意を怠ることなく、安全・安心で心豊かな教育活動を展開したい。4 年ぶりの学園祭は、工夫を凝らしたことで、生徒・保護者そして地域の方々の喜ぶ姿を多く見ることができた。次年度は、「例年通りは後退である。」を合言葉に取り組んでいきたい。</li> </ul>
--

#### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 普通科 S コースについては、それぞれのコースの目的・目標に則した教育活動の展開に努めた。コース開設 2 年目であり、担当教職員は、研修や研究を重ねてコースの方向性を打ち出している。中高大の連携を取りながら、本校普通科の特徴あるコースとして軌道に乗せていきたい。
2	教育力の向上	✓ グループ内での各分野の連携を進めるとともに、先進校視察や教職員の研修を増やし、一定の成果を得た。引き続き、体系的な職員研修を計画し、資質向上に向けて努力する。
3	約定返済の確実な履行	✓ 約定返済額以上のキャッシュフローを確保し確実に履行している。

#### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 次年度に向けた、適切な人数の教科担当者の補充に至らなかった。
戦略Ⅱ	✓ 専門学科を中心に、技術の習得や資格の取得に向けた充実した教育活動を計画し実施した。また、グループ内連携を推進し、他校種からの出前授業等を体験することで、より専門的な知識を身につけ、職業の魅力を発見する活動を行った。
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短期大学にて椎木町連絡協議会が開催された。吹奏楽部が地域の催し物で演奏を披露するなど地域と積極的に関わることができた。学園祭には多くの地域の方に足を運んでいただいた。</li> <li>✓ 4 年ぶりに開催した学園祭では、保護者および周辺地域の方々にも多く来校していただき、各学科コース・部活動・育蝶会(PTA)の特色を活かした様々な企画を楽しんでもらうことができた。</li> <li>✓ 学校評価の結果、学校に対する満足度は、生徒 88.2%、保護者 90.4%であった。</li> </ul>
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年度の新入生に計画通りタブレット端末を貸与し、授業等において積極的に活用した。</li> <li>✓ 職員研修を通して、授業および家庭での効果的な活用方法について検討を重ねた。校務への活用については、下半期を試行期間として、次年度からの本格導入への準備を行った。</li> <li>✓ 教室に遮光カーテンの設置を行った。プロジェクターやスクリーンの設置について検討を重ね、次年度には設置ができる運びとなった。</li> </ul>
戦略Ⅴ	✓ 定員を上回る 315 人の入学生を迎えた。広報誌を通して、入学式や県高総体などの学校行事や学校生活の様子を中学校等に伝えている。また、ホームページや Instagram 等の SNS を利用し、積極的な情報発信に努め、学校生活や部活動の様子を広く知らせることができた。
戦略Ⅵ	✓ 令和 5(2023)年度の経常収支差額は 5,075 万円(4.8%)を確保した(前年と同水準を確保)。
学園内の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 進路指導、生徒募集をはじめとして、食物や福祉関係など各専門学科の担当者同士もよく連絡し合い、積極的に連携をとることができた。</li> <li>✓ 英語科においては、九州文化学園中学校と意見・情報交換を実施し中高連携しての英語教育の充実に向けて議論を深めることができた。</li> <li>✓ 普通科 S アカデミーコースについては、長崎国際大学薬学部から出前講座を実施していただき、生徒たちの学問に対する興味関心を高める。</li> </ul>

付帯計画 と課題	✓ 普通科Sアカデミーコースについては、各対外実力テストの結果を踏まえて、ブロック職員および教科担当者で分析会を実施し、その後の学習指導・進路指導に活かすことができた。
-------------	--

## 5) 主要情報

### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

#### 【本科卒業生数】

学科名	人数	備考
普通科	86人	
食物調理科	47人	
保育福祉科	76人	
衛生看護科	52人	
総計	261人	
卒業生の累計	16,433人	

#### 【専攻科修了者数】

専攻科名	人数	備考
衛生看護専攻科(2年課程)	45人	
総計	45人	
修了者の累計	995人	

#### 【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
調理師	47人	
介護職員初任者研修課程修了	31人	
准看護師	52人	
看護師	41人	

### (2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
新入生オリエンテーション	4月4日(土)	
始業式	4月10日(月)	
入学式	4月11日(火)	
衛生看護専攻科入学式	4月12日(水)	
育蝶会総会および学校説明会	5月13日(土)	
体育祭	5月19日(金)	
長崎県高総体	6月3日(土) ～6月6日(火)	
翔びたて若き翼 北海道総体 2023	7月26日(水) ～8月20日(日)	
第1回オープンスクール	7月25日(火)	
第2回オープンスクール	7月26日(水)	
第3回オープンスクール	8月23日(水)	
学園祭	10月29日(日)	
第78回創立記念式	12月15日(金)	
推薦入試	1月16日(火)	
一次入試	1月23日(火) ～1月24日(水)	
学祖追悼式	2月2日(金)	
卒業証書授与式	2月22日(木)	
衛生看護専攻科卒業証書授与式	2月28日(水)	
修学旅行	3月3日(日) ～3月7日(木)	スキー研修等(新潟県・東京都)
終業式	3月19日(火)	
合格者オリエンテーション	3月21日(水) 3月27日(火)	
二次入試	3月22日(金)	

--	--	--

## 6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学科・コースの基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
普通科Sアカデミーコース	✓ 少人数制の授業展開によりきめ細かい指導を行い成績の向上につながった。企業訪問や国公立大学のオープンキャンパスに参加することで、進学に対する意識を高めることができた。
普通科Sグローバルコース	✓ 英語の外部試験を定期的実施することで、着実に英語力が高まっている。また、ウクライナからの留学生、オーストラリアからの短期留学生とともに学校生活を送ることで、国際理解を深めることができた。
普通科総合進学コース	✓ 学業と部活動の両立を軸に、多様化する入試に対応できる力を育んだ。結果内部進学をはじめ公立大学を含め幅広い進路希望実現に繋がった。
普通科キャリアデザインコース	✓ 各種検定の受検、インターンシップ、中国語や韓国語等の特色ある活動を実施し幅広く豊かな学習活動を展開することができ、進路選択の幅を広げることができた。
食物調理科	✓ 在籍人数に応じ適切な人数のグループを作りながら円滑に調理実習等ができるような工夫を行い実習に励んだ。4年振りの学園祭では、それぞれの学年が工夫を凝らしたメニューを提供し訪れた人たちに満足してもらうことができた。保護者対象のお食事会も実施でき、生徒たちは感謝の気持ちを保護者に伝えていた。専門知識の習得に励み、調理技術とモチベーションの取れた専門人材の育成に努めた。
保育福祉科保育コース	✓ 専門知識の習得に加え、保育技術の錬成に努め、年間を通して生徒自身の専門性を高めることができた。また、実習施設と綿密に打合せを重ね、実習を実施し現場における学びを深めることで、豊かな情操と感性を育んだ。
保育福祉科福祉コース	✓ 専門知識の習得に加え、介護技術等の錬成に努め、年間を通して生徒自身の専門性を高めることができた。また、実習施設等の理解と協力のおかげで実りある実習を行うことができた。課題研究にも積極的に臨み、福祉に携わる人間としての ✓ 資質向上につながっている。
衛生看護科	✓ 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの影響により、病院実習が学内実習等に振り替わることもあったが、昨年度よりは現場での経験を得ることができた。座学にも十分に力を入れることで、准看護師資格試験においては100%の合格を達成できた。
衛生看護専攻科	✓ 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの影響により、病院実習が学内実習等に振り替わることもあったが、コロナ禍の時期よりも病院等での実習が実施できた。看護師国家試験においては91%の合格率であった。

### (2) 教育活動

取組の総括	
✓ 「確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした生きる力の養成」に関して、高校生としての基本的な生活習慣および学びの姿勢が身につくような指導が実施できている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、教育活動も4年ぶりに学園祭を実施できるなど学校にも徐々に活気が戻ってきた。しかし、インフルエンザを含め油断はできない状況は続いており、場合によっては感染予防対策を徹底が必要な場面もあった。専門の教育はこれまでも増して専門性を高めながら行われており、加えてSコースは2年目を迎え、教育の魅力も広がっている。部活動では最近目覚ましい結果を残す部も現れてきており、注目すべき部も増えてきている。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 基本的な生活習慣とマナーの育成	✓ 生徒たちには「気づき 考え 行動する」を常に意識して日々生活するよう指導している。 ✓ 学校内における活動のルールや制服の着こなし等、生徒指導部から担任を通じ日頃より注意喚起を行っている。日常の教育活動を通して、生徒たちが何事も自分事としてとらえるよう継続して指導していくことが必要である。
(2) 長崎国際大学および長崎短期大学との連携推進	✓ 専門の授業や実習など、長崎国際大学および長崎短期大学の先生方の協力を得ながら実施することができた。連携活動もコロナ禍の以前に戻りつつある。 ✓ 今後も積極的に連携を図り、生徒の進路意識の向上や内部進学者の増加、教職員の資質向上に繋げたい。
(3) 教育機会の充実	✓ 講演会、講話、芸術鑑賞等の後には、振り返る機会を設けることで、「聴く まと

	める 書く」力の育成に努めた。 ✓ 校内合唱祭や各科の課題研究発表会等とおして、生徒たちの視野を広げ、思考力を高めることができた。
(4) 人権教育・主権者教育の充実	✓ 人権教育については全学年で映画を視聴することで、人権意識の醸成につとめた。佐世保市選挙管理委員会の協力のもと、3年生を対象に体育館にて実施した。
(5) 部活動の充実	✓ 運動部についてもこれまで通り活発な活動が見られているが、伝統のある部に加え、県上位の結果を残す新しい部も増えてきており、各部が切磋琢磨して学校の雰囲気盛り上げている。 ✓ 吹奏楽については、地域ともよく連携し活動の幅を広げている。弁論部についても入賞に繋がる成果をあげている。また、茶道部など文化部も充実した活動を行っている。

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 衛生看護科の定員増については、地域のニーズや施設等を含め、多面的に検討する必要がある。また、5年一貫制とすることも視野に置いて検討する必要があると考える。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 衛生看護科の定員増	✓ 看護職育成について、地域のニーズや社会の要請など、見直しを持ちながら、引き続き検討を重ねていく。

### (4) 研究活動

取組の総括	
✓ 該当なし	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 「安全で安心な学校環境の構築に努める」に関して、生徒や保護者の不安等を少しでも軽減できるように専門の人材を配置し、適宜支援を行うことができた。調査の実施等も定期的に行い、生徒の困り感を早期に把握し、対応できるように努めた。年々生徒数が増えているが、そのような中でも一人一人を大切に支援していける体制を続けていきたい。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) キャリアガイダンスの充実	✓ 進路指導室には就職指導員を1人配置し、協力をいただきながら職場見学やインターンシップの実施を行うなどし、生徒の職業観の育成に努めた。また、グループ内の学校説明会を行い、進学に関する情報提供も行った。
(2) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置	✓ 2人のSC(およびSSW)を配置し、毎週定期的にカウンセリングに当たっていただいている。その都度担任等との情報共有も行い、生徒支援に繋げている。 ✓ 家庭環境に起因する案件も増えてきており、SSWの常駐が必要と考える。
(3) 特別支援教育、道徳教育の充実	✓ 道徳教育に関しては、各学科コースまたは各教科・科目等における計画を行い、様々な場面でその教育がなされるよう取り組みを進めている。特別支援教育については、校内研修を実施するなどし、教育的ニーズの把握や支援のあり方についての理解向上に努めている。
(4) いじめ・体罰防止の徹底	✓ 各学期に1回ずついじめ悩み調査を行い、年に1回体罰調査を行うなどして、実態の把握および防止の徹底に努めた。早期対応につながっており、今後も続けていきたい。
(5) 課外活動補助	✓ 運動部・文化部における各種大会およびコンクール等の参加補助を行った。さらに大会等への参加補助規定を明確にして、部活動間での平等化を図った。
(6) 学生寮・スクールバスの充実	✓ 若竹寮および野球部寮の運営を学園のグループ会社に業務委託を行い、学校負担の軽減につながった。新たに男子生徒のために「椎木寮」入学者の増加に伴いスクールバス利用者も増え、路線の確保に困窮しつつ本校の契約ドライバーの協力もあり、全ての利用希望者の要望に応えることができた。スクールバスの19時便において「北部便(吉井方面)」、「南部便(早岐方面)」の運行を始め、部活生および補習受講生のニーズに対応できた。

## (6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
<p>✓ 「活動を通し視野を広めるとともに、地域および国際社会の一員という認識を深める」に関して、少ない機会ではあったものの普通科の生徒を対象に留学生との交流の機会を設けることができた。S グローバルコースを中心に国際交流が盛んになればと期待している。また、地域との連携についてはさほどできておらず、しばらくぶりに連携会議を持つことはできたものの、地域の方々も高齢化等が進んでいることもあって、連携した活動に繋げることができなかった。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 普通科 S グローバルコースを中心とした留学の斡旋	<p>✓ 留学費用の高騰(円安、物価高等)により、募集をかけても参加最少人数集まらない状況であった。一人でも参加可能のプログラムの検討等が必要である。</p> <p>✓ オンラインでの留学または日本国内でのネイティブスピーカーを交えたプログラムの利用などの検討も必要である。</p>
(2) 留学生の受け入れ	<p>✓ ウクライナからの留学生、オーストラリアからの短期留学生とともに学校生活を送ることで、生徒たちの国際理解を深めることができた。</p>
(3) 長崎国際大学・長崎短期大学の留学生との交流会	<p>✓ 長崎国際大学との連携行事である「異文化理解教室」を実施し、中国からの留学生2人と交流を深めることができた。留学生の状況もコロナ以前に戻りつつあるかと思うので、次年度はさらに様々な国の留学生と交流できることを期待したい。</p>
(4) 姉妹校および韓国の高校との交流	<p>✓ 韓国インドン高校が来校。コロナ感染者がいた関係で、当初の計画より短時間および規模を縮小しての交流であったが、生徒たちにはよい機会となった。</p>

## (7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
<p>✓ 「本校の魅力を的確に伝えるとともに、安定した定員充足を目指す」に関して、複数の媒体を活用して本校の魅力の発信を定期的に行うことができている。特にホームページに関しては、リニューアルをしてから記事をアップするまでの手間が大きく削減されたこともあり、これまで以上の頻度で情報発信することができていた。オープンスクールをはじめとした募集関係の行事では、これまでも、中学生やその保護者また地域に寄り添った手作りの内容を提供し好評を得てきたので、これからは準備には十分力を注ぎ、さらには生徒も表に立ってアピールしていけるようなものを作っていきたい。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) パンフレットおよびホームページの充実	<p>✓ パンフレットについては、伝わりやすいデザインに加え中身の充実を図り、より情報を得やすいような冊子になるよう工夫した。ホームページについてはリニューアル後、オープンスクール等の大きな行事での活用はもちろん、日頃の学校活動に関するこまめな情報発信を心がけた。専攻科についてはホームページの活用がほとんどできていなかったため、次年度は節目で情報発信ができるように準備を進めていく。</p>
(2) オープンスクール、入試相談会、入試説明会の充実	<p>✓ 今年度は7月、8月にオープンスクールを実施し、多くの参加者を受け入れることができた。内容に関しては日によって少しずつ変化をつけるなど、複数回参加する生徒にもその都度新しい体験をしてもらえるような工夫を凝らした。入試相談会や入試説明会も活発な質問、相談がなされ、生徒募集のヒントとなる情報も多く得られた。</p>
(3) 中学校訪問の強化	<p>✓ オープンスクールの案内やパンフレットの配布のため、本校生徒の出身中学校や受験の実績がある中学校などへ訪問を行った。要請に応じて離島地区などへの訪問にも対応できるよう準備は行っている。</p>
(4) 幼小中高連携・高大連携の推進	<p>✓ 生徒および学生どうしの連携はコロナが予断を許さず計画実施が難しいが、先生方や一部の学生に来ていただくことで、出前授業や学科コースの説明会という形の連携を行うことはできた。</p>
(5) 学業(グループ内特待)・スポーツ特待生の確保強化	<p>✓ それぞれの部の核となって活躍できる生徒について県内外を問わず募集を行い、各部数名ずつ確保することができた。また、学業特待生についても入試結果の芳しい生徒を一定数確保することができている。</p>
(6) 入学試験の検討・分析	<p>✓ 実施日程について、今年度は1月の3~4週目となっていたが、細かい日にちについては私学同士の日程が重なることを回避するよう学校間で連絡し合い調整している。また、普通科 S コースを含めて、今後出願の基準を検討していく必要は残っている。</p>



## (8) 教職員の人材開発

取組の総括	
<p>✓ 新入生および先生方に端末が配布された。「事業計画の充実、達成のため研究活動および研修を実施する」に関して、主に ICT に関する校内研修会等が実施され、先生方の興味関心も増してきているようであった。校務での活用を見据え研修への参加も多かった。次年度も新入生に端末を配布し、校内インフラの整備が進む予定である。また、生徒対応に関わるような研修についても関心は高く、研修の機会自体を貴重なものであると先生方自身が感じているようだ。次年度以降も体系的な研修の実施を計画していきたい。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 校内・校外研修への参加	<p>✓ 生徒指導・教育相談に特化した校内研修を実施した。これまでの指導のあり方を確認するとともに、指導から支援へと生徒への寄り添い方も変化していることを認識する機会となった。</p> <p>✓ 私学九州地区初任研に 1 人、長崎県私学協会主催研修会に 2 人参加した。参加した先生には後日、職員会議にて報告を行ってもらい、研修内容を全職員で共有する機会を設けた。</p>
(2) 他校への授業見学、研修・研究会への参加	<p>✓ 今年度入学生からの一人一台端末の実施に向け、福岡女子商業高校への訪問内容を年度当初の校内研修にて報告を行った。また、オンラインでの研修や研究会は様々な実施されていたため、適宜、該当職員が参加し知見を深め情報共有を行っていた。</p>
(3) 本学園の職員としての意識構築および確認	<p>✓ 年度当初の職員会議において、会議資料に掲載し確認をいただくよう伝達を行った。また、創立記念式や学祖追悼式等の行事において資料を配付し、建学の精神を改めて確認するとともに、生徒に伝える場を設けている。</p>
(4) 長崎短期大学との合同研修会の実施	<p>✓ 専門科目における連携など、現場の先生方の意見交換などは行われているが、研究協議会という名目の具体的な活動には至っていない。今後、テーマの設定等を明確にし、より頻繁な意見交換等がなされることに期待したい。</p>

## (9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
<p>✓ 長崎短期大学にて椎木町連絡協議会が開催された。吹奏楽部が地域の催し物で演奏を披露するなど地域と積極的に関わることができた。学園祭には多くの地域の方に足を運んでいただいた。4年ぶりに開催した学園祭では、保護者および周辺地域の方々にも多く来校していただき、各学科コース・部活動・育蝶会(PTA)の特色を活かした様々な企画を楽しんでもらうことができた。また、ホームページ等を活用し、いろんなツールで開かれた九州文化学園高校でありたい。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 地域との合同協議会および交流会の充実	<p>✓ 長崎短期大学にて椎木町連絡協議会が開催された。交流会については、高齢者も多くコロナ等の感染が心配であることから実施していないが、学園祭の折には、多くの方が足を運んでいただき、楽しんでいただいた。</p>
(2) 地域住民との交流・連携	<p>✓ 吹奏楽部が地域の行事に招かれて演奏する機会が数回あった。地域の方々には大変歓迎された。</p>
(3) 地域清掃活動の実施	<p>✓ 11月1日(土)、3月2日(土)に学校周辺地域の清掃活動を実施した。</p>
(4) 保護者との連携	<p>✓ 育蝶会役員会・総会、私学振興大会など PTA 行事をはじめ、学園祭ではバザーを開いてもらい学校の応援団として積極的に関わってもらった。</p>
(5) 同窓会との連携	<p>✓ 同窓会総会の再開の検討を含めて、役員の方々との連携を継続していく</p>

## (10) 学園内の連携促進

取組の総括	
<p>✓ 九州文化学園グループのさらなる強みを構築するために、「内部進学にかかる委員会やグループ内の一貫教育についての検討委員会等に参加する」に関して、様々な連携会議に参加し率直な意見交換を行うことができてきている。ただ、会議の結果を受けて次の行動に繋げることができているものもあれば、話をするだけにとどまっているものもあるので、会議を行うことが目的にならないように、会議の形はコンパクトに収めて、具体的に次の行動に繋げられるような実効性のある会議のあり方が必要であると感じている。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学園内募集担当者会議	<p>✓ 各部門の状況報告等を行い、部門を越えて協力できることなどが無いか協議を重ねた。昨年度も実施したが、高校から各地域へ出向いての説明会に長崎短期大学の職員も同行して簡単な説明会を行いたいとのことであったので、2地区において高校と短大を合わせた説明会を実施した。</p>
(2) 食物分野に関する連絡協議会	<p>✓ 内部進学率を上げるための、各部門の課題や他部門へ期待することなどの情報共有および各部門とのイベントや合同授業企画等を話し合った。合わせて各部門の活動実施報告(オープンキャンパス等)を行った。</p>

(3) 福祉分野に関する連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 内部進学者数の増加に繋げるための具体的な連携の検討</li> <li>✓ 高大連携授業の実施に向けた具体的な内容の検討</li> <li>✓ 卒業生による講演会の開催に向けた協議</li> <li>✓ 在校生の進路希望調査結果報告卒業生(内部進学者)の状況報告と連絡協議</li> </ul>
(4) 各部門の英語科職員の合同研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各部門の取り組みについて報告</li> <li>✓ 今後の部門間の連携のあり方や、グループ内での英語指導の縦の流れについて検討が必要である。</li> </ul>
(5) SDGs に関する連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 3月のSDGs イベント参加に向けた準備および各部門で進めているSDGsに関する取り組みの進捗報告</li> </ul>

## (11) SDGs の推進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「これまでの活動とSDGsの関連性を知り、これからの活動にSDGsを意識する」に関して、その目標の通りこれまで生徒を第一に行ってきた本校の教育が、今大きく叫ばれているSDGsの目標と繋がりを持っていることを確認することができている。SDGsの目標を達成するために本校の教育を合わせるということでは決していないが、意識ができれば学びの幅が広がることにはなるので、授業の中だけではなく、学校活動の随所にちょっとした配慮も織り交ぜながら、SDGsの広がりとともに本校の活動も魅力を増していけるようにしていきたい。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 地域清掃活動の実施	✓ 11月1日(土)、3月2日(土)に学校周辺地域の清掃活動を実施した。
(2) 食材の有効活用	✓ 3月のグループ内で行われた推進イベントにおいて、食物調理科の生徒が「フードロス削減」をテーマに取り組んだ内容を発表した。
(3) 教育内容および環境の充実	✓ スクールバスや寮を完備し、多方面からの通学を可能として、あらゆる生徒に本校での学びの機会を与えている。また、授業内容に工夫を凝らし、課題等を適切に課すことで、課程でも十分な内容の学習ができるよう指導を行っている。
(4) 健康的な活動の奨励	✓ コロナは5類に移行したが、引き続き、日頃の健康観察を欠かさないように心がけ、集会時には感染予防対策をとりながら教育活動を行った。無理を控え、その分健康であるときには活発に学校活動がなされるよう声かけ等を行った。
(5) ジェンダー平等の実現	✓ 混合名簿の使用や体操服、ジャージを男女統一したデザインに変更し使用するなどしている。
(6) 働きがいのある労働環境の促進	✓ 土曜日には生徒登校日を極力設けず、土曜日に部活動や研修を行えたり、休暇を取りやすくなったりなど、各自の状況に合わせた働き方のできる行事予定等を作成した。

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安定した収入の確保と計画的な支出管理を徹底できている。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 増収策	✓ 定員以上の入学生の確保や、女子寮の値上げを行い増収増を図った。
(2) 健全な財務基盤の構築	✓ 経常収支差額は50百万円を確保した(前年同水準)

## (13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 一部の設備投資は実施できているが、設備の老朽化、更新時期にきており、今後、計画的な設備更新を行っていく必要がある。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 駐車場枠の増設相談	✓ 土地の確保ができず継続課題。
(2) 新入生へのタブレット貸し出し	✓ 新入生315人に貸与。授業等で活用している。
(3) 教員へのタブレット貸与	✓ 全教員に配布。活用方法等、職員研修を実施した。
(4) Wi-Fi環境の整備	✓ ICT教育用のWi-Fi網を整備済
(5) 野球部寮・グラウンド護岸工事	✓ 整備完了済

## (14) 点検評価

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自己評価を、教職員対象に10月と2月、生徒および保護者に2月にそれぞれ実施した。定点観測を目的の一つにしているため、質問項目はこの数年は変更していないが、学校教育の環境変化に応じて質問項目の変更の検討が必</li> </ul>	

要と考える。評価結果は教職員で共通理解を図り、課題となる評価項目については改善を図っていく。また、育蝶会総会で評価結果を説明し、加えてホームページにて公表する。

項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学校評価の実施	✓ 教職員の自己評価については、4段階で平均3.5であった。大項目では、教育環境や組織運営、中項目では生徒指導や心の教育が平均値を下回っており今後の課題であると捉える。生徒・保護者とも「九文高校でよかった」の項目では「4」と「3」にほぼ9割が回答している。さらに、満足度が高くなるようや努力する。

**(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)**

取組の総括	
✓ 該当なし	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
	✓

## 4.九州文化学園中学校

### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する
経営目標	英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する

### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保護者対象の学校教育説明会を初開催し、新年度の教育方針や取組等を年度初めに説明し、理解を求めた。入学させて複数年度経過した保護者に改めて教育内容や方針を伝えることで、学校と保護者が相互協力の下、子どもを育てる体制づくりに繋がった。</li> <li>✓ 本校教育目標を念頭に、教員一人一人が魅力のある授業づくりや児童生徒への細やかな指導・支援に日々努めている。生徒は、教育の成果を様々な場面で発表してきたが、特に3月の英語学習発表会は初の取組みであり、学年に応じた学習成果が存分に発揮され、一番のステークホルダーである保護者に成果を示すことが出来た。</li> <li>✓ 他部門との連携、地域社会との連携において、特にキャリア学習で生徒へ多様な学びの機会を提供できた。</li> <li>✓ 安定的な学校運営においては、生徒数確保が重要課題である。引き続き、本校の魅力の効果的な発信に努め、選んでもらえる学校づくりを教職員が一丸となってやっていかなければならない。その一つとして、次年度の入試制度を見直し、適性検査の導入を決めた。募集委員会を中心に、積極的な募集案をさらに展開していかなければならない。</li> </ul>
--

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 9年間を見越した本校独自の魅力ある教育課程の構築を図り、小学校との接続を意識したカリキュラムを作成し、ホームページに掲載した。また、令和6(2024)年度に向けて、カリキュラムの見直し・シラバスの作成に取り組んだ。
2	教育力の向上	✓ 研究主任を中心に年間を通じた研修に計画的に取り組んだ。また、教育組織や教職員個々の能力を高めるために、県の「よかところ推進プロジェクト」を活用し先進校視察を実施した。
3	約定返済の確実な履行	✓ 全教職員がコスト意識を高く持ち、日々の事業に取り組んでいるが、定員の充足が厳しい状況にあり、安定した財務体質の形成には至っていない。

### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 若手研修の実施により、基礎・実務知識を習得させ、教員としての資質の向上に努めた。また、小学校・中学校連携を意図した授業チームを編成し、授業公開に向けて授業内容等の研修を深める中で、教育の質の保障に努めた。
戦略Ⅱ	✓ 年間を通じた校内研修の中で、小学校・中学校連携を意識した授業チームなど目的別にチームを編成し、互いに学び合い、教育力の向上に努めた。学園内連携や外部講師を招聘し、将来広くキャリアを選択できるように本校独自のキャリア支援を行った。
戦略Ⅲ	✓ After コロナの人的交流を復活させることができ、台湾・韓国の学校と対面による交流ができた。また、引き続き佐世保市の姉妹都市等交流事業を活用し、オーストラリアとのオンラインでの交流も行い、積極的な国際交流ができた。
戦略Ⅳ	✓ ICT 環境整備における補助金の活用を模索したが、中学校単体では下限額に達せず活用することができなかった。 ✓ 5年の保証期間が終わることから、次年度以降のICT環境整備について現状の問題を洗い出し、現況に合った体制への切り替えをコスト面も考慮した上で計画した。
戦略Ⅴ	✓ 令和5(2023)年度募集と比較すると、受験者数は減少したものの、合格者に対する入学者数は増え、本校で学びたいことが明確な受験数が増えていることから、引き続き本校にしかない魅力を前面に打ち出し入学者増へつなげる。 ✓ 各学校行事においてプレスリリースを継続的に発信し続け、各新聞社およびテレビ局を通じて本校の特色発信につながっている。
戦略Ⅵ	✓ 不要な支出を抑え、活用できる補助金を活用できた。 ✓ 経常収支赤字の低減には、生徒確保とさらなる自助努力が必要である。
学園内の連携促進	✓ 三期生21人が卒業し、うち5人(23.8%)が九州文化学園高等学校に進学した。 ✓ サマースクールでは、長崎国際大学と連携し、昨年度に引き続き、英語の交流学习、薬剤師体験、茶道の校外学習を実施した。特にキャリア教育において、他部門との連携を活発に行った。
付帯計画と課題	✓ 施設拡充について、具体的な協議に至らなかったため、引き続き計画する。 ✓ 習熟度別学習が本格化するため、未使用教室を整備し、それに充てることを協議した。

## 5) 主要情報

### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

#### 【卒業生数】

区分	人数	備考
中学校	21人	
卒業生の累計	64人	

#### 【資格等の実績】

資格等名	取得・合格者	備考
実用英語技能検定(英検)	延べ54人	【2級】10人【準2級】12人【3級】17人【4級】9人【5級】6人
実用数学技能検定(数検)	延べ16人	【2級】1人【準2級1次】1名【3級】3人【4級】7人【5級】4人
日本漢字能力検定(漢検)	延べ2人	【3級】1人【4級】1人

### (2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4月7日(金)	
入学式	4月8日(土)	
運動会	5月27日(土)	
第1回オープンスクール	6月17日(土)	
第2回オープンスクール	7月8日(土)	
Summer festival	7月15日(土)	
親子で料理教室	7月29日(土)	
ものづくり教室	8月3日(木)	
第3回オープンスクール	8月5日(土)	
入試説明会	9月2日(土)	
学習発表会(SDGs)	10月29日(日)	
学祖追悼式	1月30日	
学習発表会(英語)	3月2日(土)	
卒業式	3月12日(火)	
修了式	3月22日(金)	

#### <入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
第1次適性検査	12月2日(土)	
第2次適性検査	2月3日(土)	
編入試験	なし	

## 6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
学校目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各学期末に反省を行い、達成のための改善の方策を検討し実践につなげた。</li> <li>✓ 「得意を伸ばす」「志を高く学ぶ」という点については、個別最適な学びを視点とした授業改善、自らの生き方を主体的に考える姿勢を育むキャリア教育の充実から達成を目指した。また、「人のために学び行動する」という点については、生徒会活動を自治的なものに高めることを通して達成を目指した。</li> </ul>
学年目標(全学年共通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各学期末に反省を行い、達成のための改善の方策を検討し実践につなげた。</li> <li>✓ 生徒会活動を自治的なものに高める指導、三本柱を中心に据えた各授業・領域の連携による体験的な活動を通して達成を目指した。道徳・人権教育については、九州文化学園小中学校9年間の系統を見直しながら充実を図り、自他を尊重する意識を育むことに努めた。</li> </ul>

### (2) 教育活動

取組の総括
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 英語教育については、学習したものを実践の場で表現したり、異文化について知り、違いについて考えたりすることを目的とした。また、多くのイベントが小学生と触れ合う好機になり、相手を尊重した接し方を考えるきっかけの一つになった。海外生徒と実際に触れ合うこともでき、緊張しながらも英語でやり取りをすることができた。</li> </ul>

✓ 本校での学びの3本柱を中心に据えて教科・領域の学習をつなぎ合い、生徒の学力向上を図るとともに具体的なキャリア発達を促した。	
項目名・取組名	
(1) 英語教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 公益財団法人 日本英語検定協会が主催する「実用英語技能検定 令和4年度 成績優秀者・優秀団体表彰式」において、英検の取得率が最も高かった団体に贈られる「ブリティッシュ・カウンシル駐日代表賞(2022年度)」を8月28日に受賞</li> <li>✓ 校内行事の実施(Summer Festival, Halloween, Christmas, Immersion Day, English Learning Recital)</li> <li>✓ 韓国と台湾の中学生訪問受入(台湾は教師間交流も実施)</li> <li>✓ オンライン交流(オーストラリア)</li> </ul>
(2) ICT教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 毎週1時間(年間各学年30時間)のICT教育を実施。生成AIや大学入試を見据えたテキストベースのプログラミングの授業など最新の授業を行った。</li> <li>✓ 創造性に富んだ特色ある教育の実践に顕著な業績を上げたことを評価され、第38回時事通信社教育奨励賞(努力賞)を私立学校としては本校のみ受賞</li> </ul>
(3) 日本文化教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学年に応じて茶道の礼法・作法を体得し、10月の学習発表会では鎮信流のおもてなし「3年間の学び」として発表した。また、中学3年生においては観月の茶会を実施し、保護者に対してお点前を披露した。</li> <li>✓ 中学3年生は、修学旅行においても京都二年坂 和(なごみ)にて茶道体験を実施した。</li> </ul>
(4) 探求学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 放課後90分間の探求学習実施(週4回、5教科中心)</li> <li>✓ 英検・数検対策、希望進路実現へ向けて各教科の取り組みを行った。</li> </ul>

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 該当なし	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題

### (4) 研究活動

取組の総括	
✓ 「教育課程に関する研修」「ICTに関する研修」について、年間に26コマの研修時間を位置づけ計画的に研究活動を行った。九州文化学園小中学校の完成年度を見越し、9年間の学びを再構築することをねらい、様々な内容で研修を行った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 授業公開	✓ 9月22日、教育関係者を対象とした授業公開を行った。教科チームを組み、授業検討を重ねることや参観者からの意見により、本校職員のよい授業改善研修となった。
(2) 共同研究	✓ 総務省の調査事業に参画し、TOPPAN株式会社と共同事業を行い、データの利活用についての知見が高まった。また、AIドリル Navimaについても年間4回推進委員会を開き、学校とTOPPAN株式会社・株式会社学映システム、保護者とともに意見交換を行い、教育効果を確認した。
(3) 研究発表	✓ 9月22日、教育関係者を対象とした研究発表を行った。参観者やアドバイザーからの意見は、その後の研究活動の深まりの一助となった。

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 実用英語技能検定、実用数学技能検定の取得に向け、計画的に指導を行った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 検定試験対策	✓ 探求の時間、昼休みを用いて計画的に対策を行った。
(2) 相談員の配備の検討	✓ 学校法人九州文化学園の相談役 荒川氏に定期的に訪問・巡回してもらい、また生徒指導案件等の相談もすることができ、各案件解決につながった。

### (6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 佐世保市からの依頼を受け、昨年度に続きコフスハーバー(オーストラリア)の学生とオンライン交流を実施した。それぞれの文化を紹介する機会を1回、またペア同士で自由に英会話をするという機会を1回、計2回の交流を行った。韓国と台湾の学生による訪問は、本校の校内ツアーやコラージュ作成、またパフォーマンス披露なども実施した。</li> <li>✓ インターンシップとして2人の大学生が日常の学校生活において、授業サポートや休み時間の英会話など、本校生</li> </ul>	

徒と積極的に関わった。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 海外学生との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 韓国と台湾の中学生訪問受入(台湾は教師間交流も実施)</li> <li>✓ オンライン交流(オーストラリア)</li> </ul>
(2) イングリッシュサマーフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 児童と生徒がペアを組み、「夏」をテーマに英語を用いて交流することを通してコミュニケーションへの意欲を高めた。</li> </ul>
(3) 海外インターンシップ生の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ カナダ・アメリカから2人のインターンシップ生を受け入れた。</li> </ul>

## (7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 定員充足を達成するために、オープンスクール、入試説明会、個別相談会、小学校、塾などへの定期訪問に加え、SNS(特に Instagram、公式 LINE)を活用し、総合学園として独自の魅力的な教育内容を受験対象者に発信し、私立小中学校の教育環境を PR することができた。</li> <li>✓ オープンスクールでは、英語授業体験やプログラミング体験としてドローン体験、茶道体験や国語科でのプレゼン授業体験など本校独自の授業が分かる体験を実施した。夏休みには近隣小学生 5～6 年生を対象に ICT を活用したうちわ作りや理科でのロウソクづくり体験などを行い、大変好評であった。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) オープンスクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 校内見学・教育内容説明(6月・7月・8月に実施)</li> <li>✓ 英語学習・プログラミング・茶道体験・プレゼン学習体験・授業体験やものづくり体験を行った。</li> </ul>
(2) 入試説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入試スケジュール・入試内容の説明(9月実施)</li> </ul>
(3) 個別相談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 校内見学・教育内容説明</li> </ul>
(4) 小学校、塾定期訪問	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本校児童生徒募集イベント前に訪問</li> </ul>
(5) SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Instagram、公式 LINE での本校教育内容の発信</li> </ul>

## (8) 教職員の人材開発

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教師に求められる資質能力【①教職に必要な素養 ②学習指導 ③生徒指導 ④特別な配慮や支援を要する子どもへの対応 ⑤ICT や情報・教育データの利用活用】を網羅した研修を、年間を通じて研究主任を中心に実施した。今年度も文部科学省の学校 DX 戦略アドバイザーでもある福田 孝義氏の講義や指導助言を受け、職員の資質向上につなげることができた。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 経験年数別研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 若手、中堅、ベテラン、初任者などに分かれての研修を実施した。</li> </ul>
(2) GC 研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ GC(Global Communication)研修では、グローバル教育を実践する意識付けと、そのノウハウを共有し、実践に生かした。</li> </ul>

## (9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中学 1・2 年生を対象に放課後探求学習の時間を使用して佐世保工業高等専門学校物質工学科と共同事業を行い、より専門的な学びを通して、理科に対する学習意欲の向上につながった。</li> <li>✓ 中学 2 年生を対象に「キャリア・スタディ」を実施し、外部講師から職業選択や働くことの意義について講話をいただき、生徒自身の生き方を考える良い機会となった。</li> <li>✓ 日本新聞協会の NIE 実践指定校 2 年目となり、11 月 21 日に新聞を使った教育活動(NIE)を紹介する「第 13 回県 NIE フェア」が本校にて開催され、「学力向上における児童生徒の課題改善にむけて～情報活用能力の向上を目指して～」をテーマに、中学 1 年生の社会と小学 5 年生の国語の公開授業を行った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 自治体主催交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎県ソウル事務所からの提案により、韓国釜山の善花(ソンファ)女子中学校との交流会を実施した。英語でコミュニケーションを取りながら、お互いの学校紹介やグループに分かれてのコラージュ作品作りに取り組んだ。</li> </ul>
(2) 佐世保高等専門学校との共同事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 放課後探求の時間に月 1 回共同でオンライン対応型教材の開発に取り組んだ。12 月には代表生徒 2 人が東京で開かれた発表会に参加した。</li> </ul>
(3) 看護出前講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 公益社団法人長崎県看護協会より派遣された助産師より、看護の仕事や生命の誕生について講話をしていただいた。</li> </ul>
(4) 弁護士講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法テラス福岡法律事務所の平田 実穂子氏を講師に招き、弁護士の 1 日の仕事の内容や、実際の経験について講話をいただいた。</li> </ul>
(5) JAL ふるさと応援隊講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ JAL ふるさと応援隊九州・沖縄地区担当の神原 史氏を招き、CA の仕事内容やはたらく上で大切にしていることを講話いただいた。</li> </ul>

(6) ハウステンボス社長講話	✓ ハウステンボス株式会社代表取締役社長執行役員の高村 耕太郎氏を招き、前職でのご経験や、働く上で大切にしていること等について講話いただいた。
(7) 介護のしごと魅力伝道師講話	✓ 長崎県が認定している魅力伝道師の山崎 耕平氏と眞弓 愛加氏を招き、介護の仕事をする上での苦労や、やりがいについて講話いただいた。
(8) 第13回県NIEフェア	✓ 県NIE推進協議会が主催し、県内の教育、新聞関係者約80人が参加した。

## (10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 接続機関である九州文化学園高等学校より英語科のレシテーションコンテストの審査員として参加していただくことができた。サマースクールやキャリア教育において、長崎国際大学だけでなく九州文化学園高等学校とも連携を行うことができた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 接続カリキュラムの検討	✓ 中高の連結した教育カリキュラムの構築に向けて、本校校長と九州文化学園高等学校副校長との会議を実施した。
(2) SDGsに関する連絡協議会	✓ 教員・事務職員から各1人ずつ担当者を選出し、九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベントに向けて計画的に準備を行った。
(3) 他部門との合同研修	✓ 英語科のレシテーションコンテストの審査員として九州文化学園高等学校英語科・長崎短期大学・長崎国際大学の先生方に参加していただき、本校の英語教育について肌で感じていただく機会を設けることができた。
(4) キャリア教育	✓ 中学2・3年生を対象に長崎国際大学の薬剤師体験などを実施することができた。また、今年度は、九州文化学園高等学校の進路指導担当の先生からの講義を含め、九州文化学園高等学校・長崎短期大学の見学も実施した。

## (11) SDGsの推進

取組の総括	
✓ 生徒会活動(専門委員会活動)にSDGs目標を設定し、持続可能な社会を構築する一員であることの自覚を促すとともに、達成のための具体的な実践を考え、全校を挙げて取り組んだ。また、その成果について本校学習発表会や市内連合生徒会において広く発信した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) ESDに基づいた授業	✓ 各教科、領域においてSDGs目標との関連事項を明確にして授業を展開することを通して、SDGs目標達成に向け主体的に学ぶ姿勢を育んだ。
(2) 行事にSDGs目標を掲げる	✓ 行事において生徒会(専門委員会)活動との関連を明確にし、日常の活動につなげることでさらに意識を高めた。
(3) 資源の節約	✓ 生徒会(専門委員会)活動において、教室環境における数値目標を掲げ、全校で資源節約に取り組んだ。

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 4月に学校教育説明会を開催し、本校教育方針や取組みについて保護者へ説明し、理解と協力を求めた。</li> <li>✓ 法人事務局および教学・管理業務の円滑な業務遂行のため調整に努めた。</li> <li>✓ 無駄を省き、適正な予算執行に努めてきたが、生徒充足率が低く、授業料収入が十分に確保できない中、生徒募集は最重要課題である。令和6(2024)年度入学者も定員の5割を下回った。その状況下、募集活動を振り返り、時期入試制度の見直しを図ることとした。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 中期計画・事業計画の説明	✓ 運営委員会・職員会議で全教職員へ説明し、共通理解に努めた。
(2) 予算執行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 無駄を省き、適正な予算執行に努めている。生徒数を確保し、収入増が最重要課題</li> <li>✓ 物価等の高騰を受け、スクールバス料金の値上げについて検討を重ね、令和6(2024)年4月料金改定を実施することとした。</li> </ul>
(3) 定員充足	✓ 令和6(2024)年度入学者数17人となり、定員充足には至らなかった。

## (13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 施設が老朽化しているため、常に修繕が必要な状況であった。職員同士が知恵を出し合い、自ら修繕を行った。毎月の安全点検の結果を元に、課題を把握し、修繕すべき不具合箇所を優先的に対応できた。</li> <li>✓ 習熟度別授業の際の教室数の問題について、法人事務局に報告し、相談を行った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 安全点検の実施	✓ 毎月の安全点検を確実に実施し、その結果をもとに施設維持に努めた。
(2) 教室数の確保	✓ 施設キャパシティ問題を法人事務局に報告し、相談した。



**(14) 点検評価**

取組の総括	
✓ 保護者との更なる連携の強化を目指し、アンケート調査を実施した。また、結果を運営委員会・職員会議で共有し、次年度の教育活動に生かすための手立てを検討した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学校評価	✓ 学校評価では、中学校の総合評価は3.5で令和4(2022)年度より0.2ポイント上昇した。 ✓ 特に、「子どもを本校に入学させてよかった」の項目に関しては、1年生では3.8と高い評価を得ることができた。

**(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)**

取組の総括	
✓ 該当なし	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題

## 5.九州文化学園小学校

### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する
経営目標	英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する

### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保護者対象の学校教育説明会を初開催し、新年度の教育方針や取組等を年度初めに説明し、理解を求めた。入学させて複数年度経過した保護者に改めて教育内容や方針を伝えることで、学校と保護者が相互協力の下、子どもを育てる体制づくりに繋がった。</li> <li>✓ 本校教育目標を念頭に、教員一人一人が魅力のある授業づくりや児童生徒への細やかな指導・支援に日々努めている。児童は、教育の成果を様々な場面で発表してきたが、特に3月の英語学習発表会は初の取組みであり、学年に応じた学習成果が存分に発揮され、一番のステークホルダーである保護者に成果を示すことが出来た。</li> <li>✓ 他部門との連携、地域社会との連携において、特に小学5年生では、大塚食品株式会社とタイアップし、大豆ミートを使用したオリジナル弁当の制作を行い、実際、県内の株式会社エレナで販売された。長崎スタジアムシティ見学や株式会社ファーストリテイリングとの「服のカプロジェクト」など多様で魅力的な学習機会の提供が出来た。</li> <li>✓ 安定的な学校運営においては、児童数確保が重要課題である。引き続き、本校の魅力の効果的な発信に努め、選んでもらえる学校づくりを教職員が丸となってやっていかなければならない。</li> </ul>
---

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 9年間を見越した本校独自の魅力ある教育課程の構築を図り、中学校との接続を意識したカリキュラムを作成し、ホームページに掲載した。また、令和6(2024)年度に向けて、カリキュラムの見直し・シラバスの作成に取り組んだ。
2	教育力の向上	✓ 研究主任を中心に年間を通じた研修に計画的に取り組んだ。また、教育組織や教職員個々の能力を高めるために、県の「よかところ推進プロジェクト」活用し先進校視察を実施した。
3	約定返済の確実な履行	✓ 全教職員がコスト意識を高く持ち、日々の事業に取り組んでいるが、定員の充足が厳しい状況にあり、安定した財務体質の形成には至っていない。

### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 若手研修の実施により、基礎・実務知識を習得させ、教員としての資質の向上に努めた。また、小学校・中学校連携を意図した授業チームを編成し、授業公開に向けて授業内容等の研修を深める中で、教育の質の保障に努めた。
戦略Ⅱ	✓ 年間を通じた校内研修の中で、小学校・中学校連携を意識した授業チームなど目的別にチームを編成し、互いに学び合い、教育力の向上に努めた。学園内連携や外部講師を招聘し、将来広くキャリアを選択できるように本校独自のキャリア支援を行った。
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短期大学の留学生と小学4年生が交流活動を実施した。クイズで留学生の出身国を学び、ランチ交流をした。</li> <li>✓ 体験入学児童をカナダ1人、アメリカ1人、シンガポール2人受け入れた。シンガポールから受け入れた児童が通学する学校と、その後、メッセージ交換交流を実施した。</li> </ul>
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ICT環境整備における補助金の活用を模索したが、小学校は完成年度を迎えていないため活用することができなかった。</li> <li>✓ 5年の保証期間が終わることから、次年度以降のICT環境整備について現状の問題を洗い出し、現況に合った体制への切り替えをコスト面も考慮した上で計画した。</li> </ul>
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オープンスクールや親子参加型のイベント・クリスマスフェスティバルに加え、メリッタキッズ佐世保でのパンフレット配布やプログラミング体験、九文マルシェ等、新たな試みを実施し、幅広い層にPRできたことにより受検者数の増加につながった。</li> <li>✓ 各学校行事においてプレスリリースを継続的に発信し続け、各新聞社およびテレビ局を通じて本校の特色発信につながっている。</li> </ul>
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 不要な支出を抑え、活用できる補助金を活用できた。</li> <li>✓ 経常収支赤字の低減には、生徒確保とさらなる自助努力が必要である。</li> </ul>
学園内の連携促進	✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園とハロウィンやクリスマスレッスンを実施し、長崎短期大学とはクリスマスケーキデコレーションを実施した。また、長崎国際大学や長崎短期大学と授業だけでなく、英語科のレシテーションコンテストの審査員として招き、連携を積極的に行った。
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 施設拡充について、具体的な協議に至らなかったため、引き続き計画する。</li> <li>✓ 習熟度別学習が本格化するため、未使用教室を整備し、それに充てることを協議した。</li> </ul>

## 5) 主要情報

### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

#### 【卒業生数】

区分	人数	備考
小学校	—	学年進行中のため卒業生なし

#### 【資格等の実績】

資格等名	取得・合格者	備考
英検 Jr.	延べ30人	【ゴールド】4人【シルバー】12人【ブロンズ】14人
実用英語技能検定(英検)	延べ32人	【2級】1人【準2級】2人【3級】5人【4級】11人【5級】13人
実用数学技能検定(数検)	延べ70人	【準2級】1人【6級】3人【7級】4人【8級】9人【9級】13人【10級】23人【11級】17人
日本漢字能力検定(漢検)	延べ65人	【5級】1人【6級】5人【7級】3人【8級】12人【9級】20人【10級】24人
ジュニア・プログラミング検定 Scratch 部門	2人	【ブロンズ】2人

### (2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4月7日(金)	
入学式	4月8日(土)	
運動会	5月27日(土)	
第1回オープンスクール	6月17日(土)	
第2回オープンスクール	7月8日(土)	
Summer festival	7月15日(土)	
第3回オープンスクール	8月5日(土)	
入試説明会	9月2日(土)	
学習発表会(SDGs)	10月29日(日)	
クリスマスフェスティバル	12月16日(土)	
学祖追悼式	1月30日	
学習発表会(英語)	3月2日(土)	
卒業式	3月12日(火)	
エキノワマーケット	3月16日(土)	エキマチ1丁目佐世保にてブース出店 デジタル水族館を実施
修了式	3月22日(金)	

#### <入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
第1次適性検査	11月4日(土)	
第2次適性検査	1月20日(土)	
編入試験	1月20日(土)	

## 6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
学校目標	<p>✓ 目標「得意を伸ばす、志を高く学ぶ、人のために学び行動する」に基づき、教育活動を展開した。各学年で得意分野の発展や基礎学力の向上に努め、高学年では児童自らが学習内容を深め、将来のキャリアに向けての意識も高めた。しかし、低学年では集団生活の基本ルールに苦戦する場面が多く、高学年ではリーダーシップの発揮が一部の児童に偏る問題も見受けられた。これらの課題を踏まえ、令和6(2024)年度は教職員が継続的な研修を受けることで教育の質をさらに高め、児童一人一人が自立し互いに支え合える環境を整えることを目指す。</p>
低学年	<p>✓ 低学年の生徒は基本的な生活習慣と学習習慣の定着に努めた。多くの児童が時間を守る、物の整理整頓を行うといった日常のルールを学び、守れるようになった。また、集団生活でのルールを守ることも強化し、授業や休憩時間において友達と協力する姿が見られるようになった。しかし、まだ指示に従うことが難しい場面</p>

	もあり、今後も継続的な指導が必要である。令和6(2024)年度は、これらの習慣が自然と身につくようさらに支援していきたい。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中学年では、得意分野を伸ばしながら基礎学力の定着にも注力した。算数や国語などの基本的な科目での理解を深めると共に、各自の興味に合わせた活動を通じて得意分野をさらに伸ばす機会を設けた。友達との触れ合いを通じてソーシャルスキルを育てる試みも行い、グループ活動を多く取り入れたが、場合によっては意見の衝突も見られた。今後は、対話や協働のスキルをさらに育てるプログラムを充実させたい。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高学年では、学習内容をさらに深めると同時にリーダーシップを発揮する機会に挑戦した。理科や社会の探求活動において、児童たちが自ら課題を見つけ解決策を考案する姿は、教育の成果を示している。リーダーとしての活動では、クラスや学年全体のイベントを計画する際に意見をまとめ上げる重要性を理解し、それを実行に移す力が身についた。ただし、全ての生徒が自信を持って前に出るわけではないため、引き続き支援が必要である。令和6(2024)年度は、完成年度のため、活動の幅が広がる。さらに多くの児童がリーダーシップを発揮できるように支援を行っていく予定である。</li> </ul>

## (2) 教育活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学習機会と学力の保証を根底に、グローバル人材の育成の実現のため本校の教育の3本の柱である英語、IT、日本文化教育を随所に取り入れ、教科の横断・連携、また、小中一貫教育を意図した学習活動を実施した。</li> <li>✓ IT教育によって児童生徒の情報活用能力をよりブラッシュアップし、これまでの伝統的教育手法と今日的ICT効果教育のBest Mixを図りながら、児童生徒の一人一人の学力向上につなげた。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 英語教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 公益財団法人 日本英語検定協会が主催する「実用英語技能検定 令和4年度 成績優秀者・優秀団体表彰式」において、英検の取得率が最も高かった団体に贈られる「ブリティッシュ・カウンシル駐日代表賞(2022年度)」を8月28日に受賞</li> <li>✓ 小学1・2・3年生は週4時間、4・5・6年生は週5時間の英語の授業を実施した。高学年では習熟度クラスを設け、個に応じた指導を行った。</li> </ul>
(2) ICT教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 授業だけに限らず、課題の提出や自宅学習でAIドリルを活用することでスキルを習得できた。</li> <li>✓ 創造性に富んだ特色ある教育の実践に顕著な業績を上げたことを評価され、第38回時事通信社教育奨励賞(努力賞)を私立学校としては本校のみ受賞。</li> </ul>
(3) 日本文化教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学年に応じて茶道の礼法・作法を体得した。授業参観において礼法を披露する等、実践の場を設けた。</li> </ul>
(4) 探求学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 小学5年児童の放課後学習を実施し、教科指導だけでなく、ビジョントレーニングや右脳トレーニングなど多岐にわたる学びを提供した。</li> </ul>

## (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 該当なし</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題

## (4) 研究活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「教育課程に関する研修」「ICTに関する研修」について、年間に26コマの研修時間を位置づけ計画的に研究活動を行った。九州文化学園小中学校の完成年度を見越し、9年間の学びを再構築することをねらい、様々な内容で研修を行った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 授業公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 9月22日、教育関係者を対象とした授業公開を行った。教科チームを組み、授業検討を重ねることや参観者からの意見により、本校職員のよい授業改善研修となった。</li> </ul>
(2) 共同研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 総務省の調査事業に参画し、TOPPAN株式会社と共同事業を行い、データの利活用についての知見が高まった。また、AIドリルNavimaについても年間4回推進委員会を開き、学校とTOPPAN株式会社・株式会社学映システム、保護者とともに意見交換を行い、教育効果を確認した。</li> <li>✓ 授業だけに限らず、課題の提出や自宅学習でAIドリルを活用することでスキルを</li> </ul>

	習得できた。
(3) 研究発表	✓ 9月22日、教育関係者を対象とした研究発表を行った。参観者やアドバイザーからの意見は、その後の研究活動の深まりの一助となった。

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安心安全な学校生活を送るうえで、必要な組織を立ち上げ活動を支援した。初めての高学年の活動として、児童会(SDGs Student Council 通称SSC)を発足し、自主的な活動に取り組んだ。</li> <li>✓ 児童の学力向上・意欲の向上を図るうえで必要な検定試験の対策を行った。学校にて試験を実施しているため、それに向けて検定ごとに支援をした。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 児童会の発足	✓ 5つの委員会を作り、活動をした。また、その活動は九州文化学園中学校の生徒会と連動しており、小学校・中学校連携を図りながら動くことができた。
(2) 検定試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 英検：過去問と語彙力を増やすための練習問題をし、2次試験対策も実施した。</li> <li>✓ 漢検：過去問を通して苦手なところの強化を図った。</li> <li>✓ 算検：本番を意識して解答の仕方など練習をした。</li> <li>✓ 全体：図書室に各検定試験対策の問題集を準備しているため児童はそれを利用して各自で学習することが出来た。</li> </ul>

### (6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 様々な行事を通して海外の文化を学んだ。各学年の発達段階に応じた活動を通して、英語への理解がより深まった。また、インターンシップ生や今まで関わったインターンシップ生も児童に積極的に関わったため、海外への興味が深まった。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) サマーフェスティバル・ハロウィン・クリスマス	✓ 小中一貫教育の強みを生かし、小中縦割りで学校を散策しながら英語の問題を解く活動を行った。英語の指示を理解して活動することが出来た。
(2) 海外インターンシップ生の受入れ	✓ カナダからのインターンシップ生を迎え、授業でのアクティビティのフォローや海外について話していただき児童と積極的にコミュニケーションをとった。
(3) 短期海外留学生の受け入れ【体験入学プログラム】	✓ 海外の小学校に通う児童が夏休みを利用して本校に体験入学をした。児童は知っている英語を駆使しながらコミュニケーションを図り、留学生は日本の学校生活を体験することが出来た。

### (7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 定員充足を達成するために、オープンスクール、入試説明会、個別相談会、幼稚園・保育園等の定期訪問に加え、SNS(特にInstagram、公式LINE)を活用とメリッタキッズ佐世保とサイネージ契約半年間契約を結び就学前の家庭に本校をアピールした。総合学園として独自の魅力的な教育内容を受験対象者に発信し、私立小中学校の教育環境をPRすることができた。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) オープンスクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 校内見学・教育内容説明7月・8月に実施</li> <li>✓ 英語とIT、学校見学ツアーを実施した。参加人数が多く活発な活動ができた。また、児童が参加したオープンスクールでは流暢な英語で司会進行をし、英語の授業でのサポートもすることができた。</li> </ul>
(2) 入試説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入試スケジュール・入試内容の説明9月実施</li> <li>✓ 開催時期を早めたこと、児童生徒の授業日に設定することで、本校児童生徒の授業見学を同時に実施でき、募集につながられた。</li> </ul>
(3) 個別相談会	✓ 校内見学・教育内容説明9月実施
(4) 幼稚園・保育園、塾定期訪問	✓ 本校児童生徒募集イベント前に訪問
(5) SNS	✓ Instagram、公式LINEでの本校教育内容の発信
(6) メリッタ Kid's SASEBO	✓ 半年間本校 PR 動画再生・月2回、メリッタ Kid's SASEBOでのパンフレット配布を実施した。

### (8) 教職員の人材開発

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教師に求められる資質能力【①教職に必要な素養 ②学習指導 ③生徒指導 ④特別な配慮や支援を要する子どもへの対応 ⑤ICTや情報・教育データの活用】を網羅した研修を、年間を通じて研究主任を中心に実施した。今年度も文科省の「学校DX戦略アドバイザー」でもある福田孝義氏の講義や指導助言を受け、職員の資質向上に</li> </ul>	

つなげることができた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 経験年数別	✓ 若手、中堅、ベテラン、初任者などに分かれての研修を実施した。
(2) GC 研修	✓ GC(Global Communication)研修では、グローバル教育を実践する意識付けと、そのノウハウを共有し、実践に生かした。
(3) ICT 研修	✓ ICT 研修では、生成 AI 等の最新のアプリの活用研修を実施し、各教科の授業実践につなげた。

## (9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
<p>✓ 小学5年生は九州文化学園小学校が開校して最初の高学年ということで、様々なことを取り組ませることが出来た。SDGsの取組を基本とし、いろいろな企業の方の協力も得て、お弁当作り・古着の回収などに取り組んだ。また、これからのモチベーションを保つ目的で、長崎のバスケットチームの教室開催や、地元企業の地域活性化への取組を見る目的での長崎スタジアムシティ見学など、企業と連携しながら取り組むことができた。</p> <p>✓ 日本新聞協会のNIE実践指定校2年目となり、11月21日に新聞を使った教育活動(NIE)を紹介する「第13回県NIEフェア」が本校にて開催され、「学力向上における児童生徒の課題改善にむけて～情報活用能力の向上を目指して～」をテーマに、中学1年生の社会と小学5年生の国語の公開授業を行った。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) コラボレーション企画	<p>✓ 小学5年生を対象に、大塚食品株式会社とプラントベースフードである「大豆ミート」を使ったメニューの開発を行った。大豆の栄養やフードロス、商品が提案から商品化される課程や商品開発に必要な3つの要素等を学び、各グループに分かれ、本校栄養教諭の指導のもと、味のバランスや栄養素の改善を施し、プレゼンテーションを経て、株式会社エレナで販売した。</p> <p>✓ ファーストリテイリンググループが実施している「服のチカラプロジェクト」に参加し、古着を集め、難民や避難民など世界中で服を必要としている子供たちに送ることが出来た。</p>
(2) 幼稚園での出前授業	✓ 英語の授業を幼稚園で実施した。行事のときだけでなく、実際に低学年で実施する授業を展開したため、小学校の英語に興味を示した園児が多かった。
(3) 第13回県NIEフェア	✓ 県NIE推進協議会が主催し、県内の教育、新聞関係者約80人が参加した。

## (10) 学園内の連携促進

取組の総括	
<p>✓ 接続機関である認定こども園九州文化学園幼稚園とは、ハロウィンレッスン・クリスマスレッスンなど積極的な連携を行った。また、長崎国際大学や長崎短期大学とは、連携授業だけでなく、英語科のレシテーションコンテストの審査員として参加してもらうことができた。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 連携授業	✓ 長崎国際大学薬学部・人間社会学部からの出前授業や長崎短期大学での留学生との国際交流・クリスマスケーキデコレーションを実施した。また、本校英語科のレシテーションコンテストでの審査員として来校いただき、より専門性の高い学びの機会をもち、多様な学びを提供することができた。
(2) SDGsに関する連絡協議会	✓ 教員・事務職員から各1人ずつ担当者を選出し、九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベントに向けて計画的に準備を行った。

## (11) SDGsの推進

取組の総括	
<p>✓ 常にすべてのことにSDGsの意識を持った取り組みを実施すべく、ESDに基づいた授業づくりや各種行事にSDGs目標を掲げ、自らが持続可能な社会を構築する一員であることの自覚を促した。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) ESDに基づいた授業	✓ 問題解決的な学習を適切に位置付け、探求的な学習過程を重視し、児童を中心とした主体的な学びの機会を充実させ、体験や活動を取り入れた。また、知識・理解に留まらず、学びを活かし、様々な問題を自分の問題として捉えさせ、自らが持続可能な社会を構築する一員であることを自覚できるように授業を実施した。
(2) 行事にSDGs目標を掲げる	<p>✓ 10月の学習集発表会では、テーマを「SDGsの取組」にして1年間の各学年の取り組みを保護者に向けて発表することができた。そのことにより児童のSDGsへの意識が高まり、保護者への良い啓発活動となった。</p> <p>✓ 2月の児童会・生徒会の取組においていじめ反対の意思表示としてピンクシャツ運動を実施した。「KBG Pink Shirt Week」として、1週間ピンクのシャツの着用やピンク色の物を身に付け、いじめ反対の意識を高めた。</p>
(3) 資源の節約	✓ 節電、節水、ペーパー削減に努めた。

(4) フードロスに対する取り組み	✓ 給食の調理の際に出た野菜の皮や子供たちが食べたみかんの皮を肥料にした。また、「ごちそうさまカレンダー」を作成し、給食の残飯を無くす活動も実施した。
-------------------	---

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 4月に学校教育説明会を開催し、本校教育方針や取組みについて保護者へ説明し、理解と協力を求めた。</li> <li>✓ 法人事務局および教学・管理業務の円滑な業務遂行のため調整に努めた。</li> <li>✓ 無駄を省き、適正な予算執行に努めてきたが、定員充足には至らず、授業料収入が十分に確保できない中、生徒募集は最重要課題である。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 中期計画・事業計画の説明	✓ 運営委員会・職員会議で全教職員へ説明し、共通理解に努めた。
(2) 予算執行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 無駄を省き、適正な予算執行に努めている。生徒数を確保し、収入増が最重要課題</li> <li>✓ 物価等の高騰を受け、スクールバス料金の値上げについて検討を重ね、令和6(2024)年4月料金改定実施することとした。</li> </ul>
(3) 定員充足	✓ 令和6(2024)年度入学者数31人と過去2番目に多い入学者数となったが、定員充足には至らなかった。

## (13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 施設が老朽化しているため、常に修繕が必要な状況であった、職員同士が知恵を出し合い、自ら修繕を行った。毎月の安全点検の結果を元に、課題を把握し、修繕すべき不具合箇所の優先的に対応できた。</li> <li>✓ 習熟度別授業の際の教室数の問題について、法人事務局に報告し、相談を行った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 安全点検の実施	✓ 毎月の安全点検を確実に実施し、その結果をもとに施設維持に努めた。
(2) 教室数の確保	✓ 施設キャパシティ問題を法人事務局に報告し、相談した。

## (14) 点検評価

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保護者との更なる連携の強化を目指し、アンケート調査を実施した。また、結果を運営委員会・職員会議で共有し、次年度の教育活動に生かすための手立てを検討した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学校評価では、小学校の総合評価は3.4で令和4(2022)年度より0.2ポイント上昇した。</li> <li>✓ 特に、「子どもを本校に入学させてよかった」の項目に関しては、1年生では4.0と高い評価を得ることができた。</li> </ul>

## (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
✓ 該当なし	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題

## 6.認定こども園九州文化学園幼稚園

### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	園児ひとりひとりを大切に、質の高い保育・教育を行う。
経営目標	強い身体と豊かな心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続ける。

### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 昨年度より園児数が約30人減となり、園経営においては園児数の安定確保が1つ目の重点課題であった。新入園児数の減少に加えて、転勤等による退園児が例年より多かったことが要因であった。</li> <li>✓ 退職等によって職員募集が恒常化し、人手不足から求人に対する反応が極めて鈍く、職員組織が安定しないことが2つ目の重点課題であった。</li> <li>✓ 2つの課題を解決するには、経営目標の通り、保護者および職員から選ばれる園であり続ける努力と工夫が必要であることを全職員で共通化して令和5(2023)年度をスタートさせた。その方法は経営理念の通り、質の高い保育・教育を実践することである。「元気に登園、笑顔で降園」を全職員の合言葉とし日々、子どもたちの人権、人格を尊重した「いい保育・いい教育」を積み重ねてきた。</li> </ul>
---

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 成長力の確保のためには、教職員の資質向上が不可欠である。求められている保育・教育と、本園の現状を客観的に分析する資料の1つとして園評価を活用した。職員および保護者の意見や考えを整理し、課題と解決に向けた具体方策を提案することができた。必要に応じた改善や改革を主体的に進めることができるリーダーを育成することが急務であり、全職員に対して、当事者意識をもち、園経営に参画する必要性について発信を続けている。</li> </ul>
2	教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教職員個々の能力を向上させるためには研修が不可欠であるが、現状では研修に参加しやすいシステムが整理されていない。その要因が人手不足であり、職員を派遣できる体力が十分ではない。集合研修によらない方法で、職員個々の経験や役割等に応じた内容を主体的に学ぶことができる現実的なシステム構築が必要であるが、一定期間における動画視聴(オンデマンド)や資料のメール配信など、臨場感に欠ける内容であり、その場の興味関心や疑問への対応が難しく、研修参加の意欲を高めにくい。研修が不可欠でありながら、個々の努力に依存する現状であり、実行性が高く現実的な講師派遣について模索している段階である。</li> </ul>
3	約定返済の確実な履行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 少子化と園児募集への反応を分析し、園児数に応じた職員組織の最適化を図るよう努めた。退職等によって職員組織が安定せず求人が恒常化しているが、求人に対する反応は極めて鈍い。子育て支援におけるスクールバス送迎は利用者の減少、燃料費の高騰、給食についても同様に食材や燃料費の高騰により、予算を圧迫している。行政から補助金の支援もあるが十分ではない。校納金の値上げも含めて効率化について具体的に検討する必要がある。</li> </ul>

### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 職員連絡会や職員会議・面談等の機会を利用し、職種や正規・パートの違いを超えて互いを尊重し、協力して専念する意識を高めた。</li> <li>✓ 毎週、連絡会の時間を設け、伝達事項の漏れがないよう努めるとともに、毎学期・行事後には振り返りの時間を設け、園児・保護者に対してよりよい保育・教育を提供できるよう努めた。</li> <li>✓ 九州文化学園高等学校、長崎短期大学からの教育実習やインターンシップの受け入れを行った。実習生やインターンシップ生に対して、全職員が後輩を育てるという視点を持ち、保育者自身にとっても自己研鑽の機会と捉え自らの資質の向上に努めさせた。</li> </ul>
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園として、0歳児から小学校就学前までの一貫保育・教育を展開するため、新指導要領に示された小学校就学までに育てたい10の姿勢を基本とした保育・教育の連続性のあるカリキュラムの編成に取り組むこととし、年間カリキュラムの中に茶道・英語活動・運動遊びの位置づけを図り、情操教育、英語教育、体育・健康教育の推進を図った。</li> <li>✓ 年長児については小学校入学に向け次のステップを知る機会と捉え、九州文化学園小学校教員による英語のレッスンを実施し、慣れ親しむ機会を設けた。</li> <li>✓ 専門講師による体育指導や外遊びを奨励し、体育・健康教育の推進を図った。</li> </ul>
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 園外保育の推進を図るため、地域を知ること、マナー・モラル・安全教育の充実を図った。子どもたちの安心・安全を最大限に考慮し、園児が地域行事に参加することにより広く市民に対して園の広報活動を行った。老人ホーム訪問はできていないが、手紙を送ることで交流を図ることができた。</li> <li>✓ 英語教育の推進として、専門講師による英語遊びや交流活動を行った。講師派遣や活動内容は民間会</li> </ul>



	社に委託しているが、園の特色を特化し、九州文化学園小学校との連携を強化するため、小学校との繋がりを意識した英語教育について検討する必要がある。
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 従前の広報内容および方法について検討し、行事や日頃の活動の様子をホームページ等で保護者や地域に広報した。さらに、園児の活動の様子をホームページを通して発信したが、さらに気軽にアクセスできるよう、SNS等による効果的な発信について具体的に検討しなければならない。</li> </ul>
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 広報内容および広報方法について検討し、園行事や日頃の活動をホームページにて周知を行い、内容の充実を図り、一定数の閲覧があった。</li> <li>✓ 学園内の各種学校との連携・活動状況を広報することにより、幼稚園から大学まで有する総合学園であることの周知を図った。</li> <li>✓ 適宜、各学年の様子をホームページに掲載した。</li> <li>✓ 年度当初にテレビ佐世保に向けて1年間の行事予定を添付した報道依頼を行った。</li> </ul>
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 11月1日にスタートする園児募集を控えた10月に行う「1日入園説明会」を園児募集の最大の機会と捉え、園の魅力を発信することにより入園希望者を確保するよう努力した。園児の受け皿が拡大し、待機児童がほとんどいない状況から、競って1日入園説明会に参加するのではなく、各家庭の都合で個別の相談をする家庭が増加傾向であるため、1日入園説明の在り方や内容について検討していく必要がある。</li> <li>✓ 2・3号の定員増加を生かすために、0歳児、1歳児の枠を空けるシステムを機能させた。</li> <li>✓ 九州文化学園幼稚園の強みを分析し、その結果を全職員が理解した上で日々の業務遂行に努力した。</li> <li>✓ 在園時の保護者に信頼される園となるため、日々「いい保育・いい教育」を実践し、積み重ねるとともに、社会人として接遇の改善を図った。</li> </ul>
学園内の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短期大学・長崎国際大学教員による本園職員への研修、保護者向けの講演会の開催について検討し、未就園児親子教室において講演会を実施した。さらに、幼児部園児に対する食育も計画することができた。</li> <li>✓ 九州文化学園高校・長崎短期大学・長崎国際大学からの実習生の受け入れ、九州文化学園歯科衛生士学院などの学生を受け入れることで、園児のみならず学生にとっての学びの場とできるよう連携促進を推進した。</li> <li>✓ 九州文化学園小学校と年長児・年中児の交流を進め異年齢児との交流を深めた。園の英語レッスンを九州文化学園小学校職員に依頼し、校種を超えた職員交流を図った。幼稚園または小学校におけるそれらの交流の様子を園保護者にも公開することで、学内進学に対する興味・関心を高めた。</li> <li>✓ 養成機関としての長崎短期大学と密接に連携し、職員の資質向上を図った。(令和3(2021)年度に始まった長崎短期大学との連絡協議会を継続し、双方向にとってメリットとなる連携の在り方について研究・協議を行った。)</li> <li>✓ 幼児部の保護者を集めた行事や懇談会等で、九州文化学園小学校職員による学校紹介・入学説明会の時間を確保する。</li> </ul>
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 園の経営上、早朝勤務や居残り勤務など時間的制約を有することから、正規職員ならびにパート職員の確保方法について検討した。</li> <li>✓ 求人採用した職員が定着するように、その職務内容を整理しわかりやすく伝達すると共に、働き甲斐があり、働きやすく、長く働ける職場環境づくりに全職員が当事者意識をもって勤務できるよう働きかけた。</li> </ul>

## 5) 主要情報

### (1) 卒園者数

#### 【卒園者数】

区分	人数	
1年課程修了	0人	
2年課程修了	2人	
3年課程修了	7人	
4年課程修了	11人	
5年課程修了	8人	
6年課程修了	9人	
総計	37人	
卒園者の累計	6,272人	

### (2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
入園式	4月12日(水)	
歓迎遠足	4月20日(木)	石岳動植物園森きらら 幼児部全体で実施

幼児部ファミリーのつどい	6月10日(土)	
乳児部こっそり参観 WEEK	7月10日(月)～14日(金)	
年中お泊り保育	8月25日(金)～26日(土)	園内
年長お泊りキャンプ	9月1日(金)～2日(土)	長崎県立佐世保青少年の天地
幼児部キッズフェスティバル	9月9日(土)	
乳児部運動会	9月16日(土)	
幼児部運動会	10月8日(日)	雨天のため九文小中学校体育館で実施
一日入園(入園募集)	10月19日(木)	38世帯、41人が参加
YOSAKOI させぼ祭り参加	10月20日(金)	年中、年長児が参加
ふれあいコンサート	12月10日(日)	アルカス SASEBO 観客制限なし
乳児部お遊戯会	12月16日(土)	
幼児部お遊戯会	2月4日(日)	
一日体験入園	2月15日(木)	入園説明会および体験入園
乳児部親子お楽しみ会	2月17日(土)	
卒園式	3月15日(金)	第75回卒園式 37人卒園
SDGs 推進宣言の日記念イベント	3月15日(金)	長崎国際大学

## 6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
乳児部	✓ 情緒を安定させて心身の調和的な発達を図るため、個々に応じた養護の環境づくりを優先させた。さらに、健康安全などの日常生活に必要な基本的な生活習慣や態度を発達段階に応じて養い、大きな怪我や感染症等の流行を防ぐことができた。
幼児部	✓ 行事等によって課題の活動の比重が大きくなりがちであることから、短い時間でも自由遊びを取り入れるよう各担任が意識した。指導計画のもと豊かな体験を通して生きる力となる資質・能力を一体的に育むよう努力した。卒園時期における年長組園児の生活態度や態度からも、十分考慮されたと判断できる。

### (2) 教育活動

取組の総括	
<p>✓ 乳幼児期の教育および保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。園児一人一人を大切に教育・保育の内容や展開を常に工夫することが基本であり、加えて多様性に配慮する必要性が年々高まる傾向にあるため、個に応じたきめ細かな教育・保育を強く意識した。チームによる組織的な教育や支援が必要ではあるが、職員数に限りがあるため優先順位をつけながら対応した。</p> <p>✓ 保護者参観を伴う子どもたちの努力や成長を披露する機会を計画通りに開催し、できるだけ参加者の制限を設けなかった。全保護者を対象とした園評価において、教育活動に対する評価は高く、本園の教育力を理解していただくことができた。教育・保育にかかわる環境づくりにおいては、施設・設備の経年劣化や教材の破損等に対する対応の必要性が年々高まっている。玩具についてはSDGsの観点から再利用を試みた。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 一人一人を大切に教育・保育	✓ 個に応じたきめ細かな保育・教育の実践が保育施設にとって大前提であり、個々のケースにおいて確かな成長があり、幼稚園生活による確かな成果と言える。しかし、支援を必要とする園児数の増加と、困り感の深刻度が増すことによって、効果的な支援策の開発や実践に時間を要することが課題である。関係機関とは積極的に連携してきたが、専門機関からの指導や支援を定期的に受けられるシステムや新たな連携が必要である。
(2) 特色の明確化	✓ 外部評価等の活用によって、本園の特色を明確にする計画の通り、園評価を職員、保護者、評価委員による3段階で実施した。回答、集計の効率化のため、Googleフォームを利用し、保護者評価においてはこれまで、父母の役員に限定していた対象を全家庭に広げた。さらに、職員、保護者については無記名とし、率直な意見を期待した。保護者評価では回答者数が1.7倍となり、全体的に厳しい評価となった。職員評価においては、園評価を受けて、よりよくする方法について意見を募り本園の課題を掘り下げることができた。現状および課題と、具体方策についての提案を集約、整理し、令和6(2024)年度の園経営案に反映することができた。
(3) 一貫教育の連続性強化	✓ 教育理念等をもとに、カリキュラム等の系統性・関連性・整合性を見直し、幼児部においては自由遊びと課題の活動をバランスよく取り入れたカリキュラム編成するよう計画した。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、各活動が従前に近い規模となり、参観者の制限を設けないことから、幼児部においては「課題の活動」

	の比重が大きくなる傾向があり、自由遊びの時間の確保や内容の工夫については十分ではなかった。
(4) 施設・設備の改修	✓ 平成18(2006)年に現在地に移転してから17年経過し、大規模、中規模、小規模改修が必要となっているが、空調設備の故障など対処的な対応における予算執行によって改修や備品購入についての年次計画が不十分であった。子どもたちの安全と健康を優先するため、空調設備改修終了にあと2~3年有するため、大・中規模改修についてはその後の改修計画となる。

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保育室の増設に伴い、利用定員総数は変更せず、1号認定の利用定員を減じ、2号、3号認定定員の増員を次のようにした。(定員270人、1号認定125人→85人、2号認定85人→95人、3号認定60人→90人。)</li> <li>✓ 3月末の段階で充足率は全体80.7%、1号認定59%、2号認定116%、3号認定60%である。昨年度の1号認定の充足率は57%であったので、利用定員減がなければ40%であった。就労家庭の増加に伴い、特に2号認定者の増が予測を上回っているため、2号認定定員増員についての検討が今後必要である。受け皿の増加や保育の無償化により、就労しやすい環境が整備されている。これからも保護者のニーズにあった募集活動の検討が必要である。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 保育室の増設	✓ 2歳児用として増設した保育室は、園児数の増員が期待値に届かなかったため、予備的な保育室として活用した。早期に就園する傾向が強くなり、市全体でも未就園児が減少傾向(2歳児で全体の2割が未就園児)にあるため、園児数の安定確保のため、2歳児を含めた乳児部の増員が不可欠である。
(2) 年齢による進級	✓ 定員を0歳児12人、1歳児を35人としている。特に0歳児の定員が少ないので入園を断るケースが多々ある。そこで、乳児部においては満年齢に応じて進級させ、入園枠を設けて入園希望に対応してきた。

### (4) 研究活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 経営理念の達成のためには、質の高い保育・教育が不可欠であり、経営目標の達成のためには保育者のスキルアップを持続させ、保護者から選ばれる園であり続ける必要がある。研修は保護者ならびに地域社会において求められる認定こども園であるために、今日的課題についての研究と、質の高い保育・教育を提供するために、職員が段階的に成長できるキャリア・アップにかかわる研修内容およびプログラムの整理を行った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 教育・保育の基本方針についての理解	✓ 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に立ち返り、教育・保育の基本方針をこれまでの教育実践をもとに読み返すことで、基本方針についての理解を深めた。
(2) 各種ガイドライン解説についての理解	✓ 保育に関する基本的なガイドライン解説に関する研修を行い、自らの保育・教育を振り返り、解釈や理解の相違について気づき、改善する機会を設けた。
(3) これからの保育についての理解	✓ こども家庭庁の創設や、少子化対策など、新たな保育の方向性や、保育施設にもとめられている姿や役割の理解を図った。
(4) 配慮を必要とする子どもと保護者の支援についての理解	✓ 特別な支援を必要とする子どもや保護者への対応方法についての理解を深める機会を資料提供等によって設けるとともに、関係機関との情報交換によって理解を深めた。

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 外部講師による専門性の高い指導(英語、体操、水泳)と幼児部の預かり保育の時間帯に希望者に対して幼児の可能性を伸ばす教室(ピアノ、クラシックバレエ、英語、運動、ことばと数遊び)を開催し、専門家の指導を受ける機会を設けた。</li> <li>✓ 九州文化学園小学校への学内進学を推進するため、九州文化学園小学校との連携を深め、ふれあい交流の機会をそれぞれの施設で行い、保護者を招くことによって九州文化学園小学校の教育内容や施設に触れる機会を設定した。10月の幼児部運動において、雨天のため九州文化学園小学校体育館を会場として借用したことで、所在地については幼児部保護者に周知する結果となった。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 幼児文化センター	✓ 専門家講師による教室(ピアノ、クラシックバレエ、英語、体操教室、ことばと数遊び)を希望者に対して有料で開催。幼児部において預かり保育希望家庭がさらに増加傾向にある。基本的には園内で実施し、保護者の引率を必要としないため子育て支援としての役割は大きい。
(2) 九文小学校への内部進学	✓ 内部進学を目的とした連携が深まり、幼稚園における広報活動が定着し、小学校進学時の選択肢として話題に上がる割合が上がっている。九州文化学園小学校を会場とした園児と小学生の交流活動に対して保護者が参加できる機会も設定し、一定数

	の参加者があった。幼児部担任が保護者との懇談時に質問に答えられるよう、内部進学にかかわる資料が九州文化学園小学校より提供された。結果として13人の内部進学者があった。
--	---

## (6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>米軍居住地区に隣接しているため、外国籍園児の入園希望や相談は多い。外国籍園児の受け入れは、これまでの経験を生かし連絡等の徹底を図るため、通訳者の契約、日本の携帯電話契約、G.I.BILL.PAY SERVICES INC.との契約およびベース関係者においてはコマンドの申告を課した上で契約している。外国籍保護者を通じた紹介や転勤で退園した園児が再度入園するケースもあり、米軍関係者の園選択において選択肢の1つとして定着している。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 外国籍園児の受け入れ	✓ 複数年在籍する可能性が高い園児を優先させながら外国籍園児を受け入れている。

## (7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>10月に実施している1日体験入園への参加者は、令和4(2022)年度が47世帯、51人、令和5(2023)年度が38世帯、41人で2割減となった。</li> <li>定員270人に対する充足率は令和6(2024)年度4月において81%であり、定員を下回っている状況が継続している。年間を通じた募集活動によって随時増員を図っているが、転勤等による退園児数によっても園児数は変動している。</li> <li>募集・広報活動において焦点を絞った効率的な発信が難しい状況である。在園児の兄弟・姉妹や親戚、知人に対しては、在園児の保護者に対する案内が有効であり在園児保護者との情報交換によって予測も立てやすい。1日体験入園者に対する来園のきっかけに対するアンケートの結果、園からの案内、園ホームページが有効であり、初めて来園する家庭が半数を超える結果であった。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 報道依頼	✓ 年度初めに、テレビ佐世保に対して園の年間行事予定表を添付して取材依頼を行い、幼児部運動会、幼児部お遊戯会などで取材を受け入れた。6月に実施した幼児に対する環境教室(海上保安庁主催)においては、海上保安庁から報道機関に対する案内があり、テレビ局や新聞社など複数の取材があった。
(2) 1日入園体験の内容充実	✓ 園の施設や保育・教育環境を実際に知る機会として、見学者に本園の特色や魅力について理解を促すため、園長によるプレゼン、主幹教諭による園生活の説明、マーチングとYOSAKOI 踊りの披露、各教室での在園児との交流活動を行った。参加家庭が減少傾向にあるため、1日入園体験における内容と、広報についてさらに工夫する必要がある。
(3) 未就園児体験教室・園庭解放・教育相談の充実とPR	✓ 未就園児体験教室(子どもの城)を木曜日の午前中に年間28回開催し、参加親子は延べ人数として148組で、季節感を取り入れた親子での活動や講演会を実施した。この教室をきっかけとして5家庭が1日体験入園に参加している。子育て相談は教室実施時、随時2人の職員が相談等に応じて、専門的な立場から親身になった対応を行った。園庭解放についてはその実績値は高くないが、依頼があった場合は積極的に受け入れている。
(4) 園ホームページおよび園便り等による園活動の広報と園児募集の周知	✓ 入園を検討する家庭に対しても必要な情報が効果的に伝わるよう、園ホームページに入園までの流れや必要な手続き、認定にかかわる市からの説明などの資料を掲載し、園への相談や見学に繋がった。
(5) 地域等への広報活動	✓ YOSAKOI 佐世保祭りにおいて年長マーチング、年中YOSAKOI 踊りを披露した。さらに、市物産展「かつちえてアイラブフェア」で年長児がマーチング、県主催「水産加工祭りイン佐世保」で年中児がYOSAKOI 踊りを多くの来場者に披露した。
(6) 募集活動の推進	✓ 11月1日からの佐世保市による入園調整受付スタートに合わせて市内施設が10月頃から本格的に募集活動を行い、この時期に保護者への案内、園児募集ポスター掲示依頼、園ホームページの改訂を行った。年間を通じた広報活動として幼稚園バスの運行を行っている。また、園児募集にかかわる案内は随時掲示し、年間を通して募集活動を行っていることを案内している。

## (8) 教職員の人材開発

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>選ばれる魅力的な園であるための基盤である、保育、教育の質を向上させるための研修は不可欠である。保育・教育に携わる者として専門性と資質、人間性の向上に努めさせる。さらに、経験年数やその役割等キャリアに応じた研修に取り組みさせた。保育施設の特徴として集合研修が難しい勤務形態であるため、リモート、資料、オンデマンドによる研修の機会を活用させた。園外研修への参加職員は延べ人数で22人、園内研修への参加職員は66人であった。</li> </ul>	

項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 園内研修の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 乳児部、幼児部それぞれにおいて、指導の研究および公開研究保育を行い指導方法の研究を深めた。さらに、教育実習においては対象の生徒、学生に対して、実践的、具体的な指導や助言を与える立場として自己研鑽に努めさせた。</li> <li>✓ 他園における不適切保育の報道資料を配付し、その原因について考えさせながら、本園ではあってはならない事として強く意識させる機会とした。</li> </ul>
(2) 園外研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 市幼稚園協会主催の保育・教育に関わる研修や、市幼児教育センター主催の保幼小連携に関わる研修の機会を活用し、外部から本園を捉えたり、他園、他校種と比較したりすることにより、保育、教育における視野を広げるとともに、研究を深めさせた。</li> </ul>
(3) 個人研修の推奨	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キャリアや役割に応じて必要とする研修に主体的に取り組ませた。また、人権擁護セルフチェックなど、教職員として求められる道徳性や人間性など資質向上を図った。さらに今日的課題に対して敏感に反応し、関連する資料を読んだり、調べたりするなど学び続ける教職員としての姿勢を具現化するよう働きかけた。</li> </ul>
(4) 茶道への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建学の精神を体現する茶道文化について、その理念や意義を十分に理解して尊重し、関連する行事・活動へ積極的に参加させた。</li> </ul>

### (9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域の催し物に積極的に参加し、子どもたちの成長や活躍を披露する機会とした。保幼小連携活動においては九州文化学園小学校・佐世保市立大久保小学校と連携し、異年齢交流を深めるとともに、進学に対する不安を払拭し、小学校生活への期待を増大させることができた。</li> <li>✓ 父母の会との連携強化によって、行事への協力など園活動への理解と支援を深めることで、園経営を活性化することができた。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 地域行事への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 清水地区公民館祭りでの作品掲示や YOSAKOI 佐世保祭り等への参加によって、子どもたちの成長や活躍を披露し、園活動を広報する機会とした。</li> </ul>
(2) 保幼小連携活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園小学校および佐世保市立大久保小学校との保幼小連携活動によって、異年齢交流を深めるとともに、小学校の生活環境や活動などを知ることによって、進学の不安を払拭し、入学への期待を増大させることができた。さらに気軽に情報交換できる関係性を構築する機会とした。</li> </ul>
(3) 父母の会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 父母の会との連携を強化することで、園活動に対する理解と支援を深め、保育・教育活動の充実を図ることで、園経営を活性化することができた。</li> </ul>

### (10) 学園内の連携促進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園内との部門間連携の強化を図ることで、本園の行事や活動を充実させ、保育、教育の質を向上させる本園の特色として位置付けている。それは大きく分けて他校種の教育力の活用と、教育実習における園職員の意識向上にある。長崎国際大学や長崎短期大学より派遣頂いた講師より、専門性の高い知識や情報を得ることができた。さらに、園児への指導や支援においてもその高い教育実技を観察することで、職員の資質を高める機会とすることができた。</li> <li>✓ 長崎短期大学および九州文化学園高校の学生・生徒の実習施設として活用いただき、本園職員が指導の機会があることで、自分自身の保育・教育を見直す機会となり範を示す強い動機付けとなっている。さらに、異校種間での交流が、視野を広げ刺激を得る機会となっている。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 長崎国際大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 関西学院大学の浦達也先生の研究(投運動)協力にかかわり、中山忠彦教授による園児向けの運動プログラムを並行して幼児部、全学級で実施。</li> <li>✓ 松尾嘉代子先生の研究(食育)へ、年中、年少家庭で協力。</li> <li>✓ YOSAKOI 佐世保祭りへの参加に伴い、学生ボランティアを派遣いただく。</li> </ul>
(2) 長崎短期大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 幼児部の活動「お茶ごっこ」に対して、講師を派遣頂き、茶道を楽しく体験し、最後の活動では長崎短期大学の茶室において実施。年長組は保護者が参観。</li> <li>✓ 年度当初に本園の教育活動を紹介する機会とボランティア募集の時間を設定頂いた。宿泊を伴う活動や運動会などの主要な行事に対して、学生ボランティアを募り派遣協力を頂いた。県主催の保育の仕事合同面談会において本園のブース訪問を推奨頂き、多くの学生と面談することができた。さらに、長崎短期大学保育学科における研究成果発表を園児が見学することができた。</li> </ul>
(3) 歯科衛生士学院との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 6月に幼児部園児に対して、学院から全学生を派遣頂き、歯磨き教室を実施。</li> </ul>
(4) 九州文化学園高校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本園において、保育福祉科保育コース 3年生の全生徒が幼稚園実習を行う。さらに、衛生看護科生徒も施設における研修の一貫として本園で実習。</li> </ul>

(5)九州文化学園小中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 保幼小連携活動における連携校として年長児が訪問し、小学校児童と小学校生活をテーマに交流する他、年中児も英語教育および異年齢児とのふれあい交流活動を実施。保護者参観を可とした。</li> </ul>
(6)長崎短期大学保育学科との連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 連絡協議会の実施によって、双方向の情報交換がより密になる関係性が構築され、活動の目的を共有し、成果と課題を明確にすることで、協議内容が焦点化されている。長崎短期大学保育学科との連携深化は、ボランティア派遣による行事等の活性化と充実だけでなく、新規採用職員獲得に向けた手立てやアプローチ改善に不可欠である。</li> <li>✓ 特に、就職活動における学生の希望や動向等についての具体的な情報を募集活動に生かすことができた。</li> </ul>
(7)学園内募集担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園小学校と内部進学者増員を目的とした連携活動を強化し、九州文化学園小学校において、保護者が参観できる活動も盛り込むことができた。また、幼稚園における幼児部保護者において、説明や資料配付など具体的な手立てが実践され、13人の内部進学者があった。</li> <li>✓ 総合学園としての強みや魅力発信が募集活動において有効であることが共通理解なされ、協力体制強化の必要性が確認できた。</li> </ul>
(8)SDGsに関する連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「九州文化学園と言えばSDGs」との認知度を高めるため、これまでの実践を含めた学校間の情報交換を通して取組の内容を高めることができた。特に九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベント2024(令和6(2024)年3月15日開催)を通して情報交換が密になり、内容がより充実した結果となった。集客数増加を図るため開催期日や場所は今後の課題である。</li> </ul>

## (11) SDGsの推進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園としての構想をもとにしながら、乳児、幼児に対しても感覚的に理解することが可能で、保護者と連携しながら日常的に無理なく取り組めるSDGsを推進するよう心掛けた。</li> <li>✓ 新型コロナウイルス感染症の5類移行によって、行事における保護者との連携が従前通り実施できるようになった。SDGsへのこれまでの取組や反省点などを生かし、今年度から新しい取り組みとして「ペーパーレス化」「玩具のリユース」を実施した。また、毎年継続して取り組むことが出来る内容を考え、SDGsが掲げる持続可能な世界を念頭に内容を工夫した。さらに、園生活の中で日常的に取り組むことができる「節水・節電」を子どもたちに呼びかけることで意識づけを行った。食育活動として毎年行っている芋ほり遠足を題材とした繋がりを再確認した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1)乳児、幼児にも取り組めるSDGs	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「園全体におけるペーパーレス化」は保護者から賛同を得た上で添付ファイルなどデータとして送付することで紙での配布物を極力減らした。職員間の連絡や会議においても資料をデータ化することで紙の使用を削減した。</li> <li>✓ 「玩具のリユース」では家庭で不要となった絵本や玩具を園に寄付して頂き、安全、衛生面を確認し幼稚園で活用した。</li> <li>✓ 「ペットボトルを集めてワクチンに」ではペットボトルキャップの回収を行い、定期的に改修施設へ寄付を継続した。回収箱に集められる様子を見ることで子どもたちも活動を視覚的に実感していた。</li> <li>✓ 「節水・節電」は各クラスで「もったいないばあさん」の絵本を読み聞かせし、節水・節電に取り組んだ。</li> <li>✓ 「食育(芋ほり遠足)」では掘った芋を自分たちで調理することで、食材に触れその形や固さを実感していた。</li> </ul>

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 強い身体と豊かな心をもつ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続けるため、教育理念や教育目標および、具現化の道筋を明確に示しながら、共通理解、共通実践を心がけた。そのためには振り返りと見通しが重要であり、初めの会・納めの会において、課題や成果について整理し、資料として全職員に配付している。その内容も平易な表現やイメージを共有しやすいフレーズも織り交ぜ、理解浸透を図った。</li> <li>✓ 職員にとって心に響き印象深く残るのは他者による認知であり、園評価のコメントはその1つである。主体的な改善に向けた変容は他者からの働きかけよりも、自身の自覚や気づきが重要となる。そこで、年間を通して自分で考え、自分で気づけるような発信を続けてきた。各職員に対して、一人一人が園経営の当事者であり、参画意識をもることが重要であることを繰り返し伝えている。また、離職率が高く職員組織の構成が不安定である課題を理解させ、働きやすく働き甲斐のある職場環境の醸成が必要である。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1)PDCA推進計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 園評価の分析結果によって課題を明確化し、実践的な視点で効果的な課題解決の駆</li> </ul>

	体方策を策定し、具現化の道筋を示しながら徹底を図るよう心掛けた。第3者評価結果を保護者に公表し、園経営、園運営において説明責任を果たすとともに、子どもたちの健やかな成長のため連携を強化する共同体として、理解、協力を得ている。
(2) 関係機関等との連携	✓ 園経営にかかわる法令等を順守し、行政監査など関係機関からの指導や支援を経営に生かすため、日頃より情報交換を密に行うことができる関係性を構築するよう努力してきた。
(3) 健全な財務基盤の構築	✓ 法人本部と連携しながら計画的・効率的な経費執行による支出管理を遂行してきた。
(4) 労務管理の改善	✓ 働き甲斐があり、働きやすい職場環境にするため、職員による自己評価の結果を分析し、職場環境にかかわる課題を整理し、計画的に改善の手立てを実践する。各自が組織の一員として園経営に参画できるよう個々に呼びかけ、意見や考えを集めるとともに、実践可能な案を生かしていった。

### (13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 施設設備の経年劣化や不具合が目立ち始め、高寿命化対策としても外壁やデッキなどの改修が必要である。改修に向けた年次計画の策定が必要であるが、緊急的な空調設備改修など対処的な対応に迫られた。</li> <li>✓ 安全な園生活のために、送迎バスへ安全装置を設置し、降車確認を補完するとともに、送迎バスの安全な運行にかかわるマニュアルの改訂を図った。さらに、ドライブレコーダーとバックモニターを全バスに設置し、運転手に対する安全に対する意識を高め、安全運転を支援できるようにした。</li> <li>✓ 安全管理マニュアルについては、上記以外に不審者対策、園外活動、水遊びについても見直しを図り、職員と共有した。</li> <li>✓ 職員の業務を支援する ICT システムの基盤構築としてネット環境を整備した。今後、データ管理ができる環境を整え、セキュリティ対策の強化を図る計画である。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 施設設備の経年劣化対応	✓ 外壁やデッキについては長寿命化対策としても改修が必要であり、大きな予算を伴うため、年次計画の策定が必要である。
(2) 送迎バスの安全	✓ 降車確認にかかわる安全装置の設置が終了した。あくまでも安全確認を補完する装置として認識し、担当者による安全確認を励行するよう共通理解した。
(3) 安全にかかわる研修	✓ 送迎バス、水遊びに関しては行政作成の動画を活用し、安全にかかわる研修を実施した。さらに、安全管理マニュアルを改訂した際には、全職員に資料を配付、共通理解を図ることができた。
(4) ICT システム導入検討	✓ ICT システム導入の基盤となる、ネット環境整備が終わった。今後、職員の業務を支援するシステム導入について検討する必要がある。

### (14) 点検評価

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 園評価(職員による自己評価、保護者による評価、園関係者による関係者評価)を継続し、経年による評価結果の比較を行った。令和5(2023)年度より、Google フォームによる無記名の回答とし、集計も含めて効率化を図った。そのためこれまでは父母の会役員に限定していた保護者評価を全家庭に広げた。職員の自己評価においては課題を出すだけでなく、その原因や課題解決の具体方策を合わせて考えさせることにより、当事者意識を高め、園経営に参画させるようにしている。これらの評価を総合的に分析し、次年度の園経営における重点課題として整理し共通理解を図っている。容易に実践できる改善から取り組み、成功体験を実感させることで、PDCA サイクルによる取り組みの意義やよさを全職員に理解させている。評価結果については保護者へ周知し、園の活動について理解と協力を得るよう努めている。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 自己評価	✓ これまでの同じ項目について、Google フォームを活用して無記名で実施したことで課題に即した意見を集約することができ、振り返りの材料となった。さらに、よりよくする具体方策について意見を募り、前向きに考えを集めることができた。それらの意見を整理し、令和6(2024)年度の園経営に生かすことで、職員の当事者意識や園経営参画意識を高めた。
(2) 保護者評価	✓ Google フォームを活用し、対象を全家庭とすることで、昨年度より7割増加した50家庭の評価への参加があり、幅広い層から意見を募ることができた。さらに多くの視点から園の保育・教育についての課題と成果を浮き彫りにすることができた。
(3) 学校関係者評価	✓ 新たに元園長、長崎短期大学教授のお2人に第3者評価委員を依頼し、三川内保育園長であるもうお一人の委員と3人で、専門的なお立場から自己評価、保護者評価の結果と、結果を受けた改善策について評価いただいた。また、その結果を保護者へ周知することができた。

(15) その他（中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組）

取組の総括	
<p>✓ 1号認定園児の減少に伴い、送迎バス利用者が減少している。さらに預かり保育の増加によって降園のバス利用園児はさらに減少傾向にある。この現状から将来的なバス運行の在り方について、運営費の増加と、利用者の利便性を考慮しながら、方向性を整理する必要がある。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) バス運行の在り方検討	<p>✓ バス利用者減少にともなうバス運行のスリム化および、バス送迎をしないことも含めたバス運行の在り方について、数年後を見据えた方向性について整理する必要がある。</p>



## 7.九州文化学園調理師専門学校

### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	高度な調理技術の習得と社会に貢献できる調理師の育成
経営目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主・自律を重んじ、積極的で意欲のある学生の育成</li> <li>● 地域・社会に貢献できる専門性の高い調理師の育成</li> </ul>

### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度は「変革と前進」というテーマで以下の4つを柱に学校経営を行った。第1は「建学の精神をベースとした教育活動の展開」、第2は「自主自立を重んじ積極的で意欲のある人材の育成」、第3は、「地域連携と積極的な情報発信による募集定員の確保」、第4は「留学生受入れ」の4つである。</li> <li>✓ 新しい取組では、高校生料理コンテストの開催、クッキングコンテストへの参加、まちなか文化祭への参加、日本料理(握りずし)の実技講習会をかねた1年生ウェルカムパーティーなどを実施した。学生だけでなく職員も成長できる機会となった。今後も企画して継続および発展させていきたい。</li> <li>✓ 学生募集に関しては、19人の志願者があった。留学生は長崎短期大学製菓コース卒業の1人であった。今年度の特徴として、大村市・諫早市から5人の志願者があったことと九州文化学園高校から4人の志願者があったことがあげられる。</li> <li>✓ 今年度は本校教務主任が、調理師法施行65周年記念全国大会大会会長賞および全国調理職業訓練協会全国表彰の2つの全国表彰を受賞した。学生や他の教職員に良い刺激を与えることが出来た。</li> </ul>
--

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インターンシップ(2年生15日間、1年生7日間)実施</li> <li>✓ 学生レストラン年間7回実施(年間300人の来場者)</li> <li>✓ 集団給食実習年間10回実施(年間469食)</li> </ul>
2	教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教職員の研修参加(イタリア料理技術講習会など)</li> <li>✓ 調理師法施行65周年記念全国大会大会会長賞受賞</li> <li>✓ 全国調理職業訓練協会全国表彰受賞</li> </ul>
3	約定返済の確実な履行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入試に関する減免制度の見直しをはかり、支出の減少を行った</li> <li>✓ 留学生募集の周知として留学生ガイドブックの更新および日本語学校等でのガイダンスを実施した</li> <li>✓ 電気料金等の見える化を実施し、業者の変更を行った</li> <li>✓ 情報発信(ホームページ30回、Instagram193回)</li> </ul>

### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実習講師等の人材発掘をしている</li> <li>✓ 学校全体で礼儀作法が身についた即戦力となる人材の育成に努めている</li> </ul>
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インターンシップ先を長崎市や諫早市まで開拓した</li> <li>✓ 学生レストランに対する学生の意識も向上している</li> </ul>
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高校生料理コンテストと小学生料理教室の開催</li> <li>✓ 地域の行事やクッキングコンテストへの参加</li> <li>✓ 社会福祉協議会主催の料理教室や高校への民間講師派遣事業に協力</li> </ul>
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 給湯器と製菓室コールドテーブル取替工事</li> <li>✓ 安全点検と点検表記入の徹底</li> </ul>
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ HP・Instagram等の積極的な情報発信</li> <li>✓ 路線バスのアナウンス広告</li> <li>✓ 長崎日本語学院との情報共有と留学生ガイド作成</li> </ul>
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入試の形態による減免制度の見直しによる支出減少</li> <li>✓ 修学支援制度と学生サポートの適切な処理</li> </ul>
学園内の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 他部門からの講師派遣による充実したカリキュラム</li> <li>✓ 他部門の行事や調査への積極的な協力</li> <li>✓ 内部進学が5人(九州文化学園高校4人、長崎短期大学留学生1人)は大変ありがたい</li> </ul>
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画を反映した事業計画の作成</li> <li>✓ 学校関係者評価や始めの会納の会等での意見を取り入れた学校経営を実施</li> <li>✓ 太陽光発電設置の検討</li> </ul>

## 5) 主要情報

### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

#### 【卒業生数】

課程名	人数	備考
衛生関係専門課程	11人	
総計	11人	
卒業生の累計	1,996人	※ 専修学校時代も含む

#### 【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
調理師	11人	2年生 11人修了(100%)
介護食士3級	12人	1年生 12人受検(100%)
色彩コーディネーター3級	4人	1・2年生 13人受検(31%)
ラッピングコーディネーター	12人	1年生 12人受検(100%)
サービス技能検定3級	10人	2年生 12人受検(83%)
サービス技能検定2級	5人	2年生 12人受検(42%)
カフェクリエーター	11人	2年生 11人受検(100%)
食品技術管理専門士	11人	2年生 11人受検(100%)

### (2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4月6日(木)	
入学式	4月7日(金)	
オリエンテーション	4月7日(金)	理事長講話(入学式終了後)
オリエンテーション	4月10日(月)	校長講話等
学生レストラン「メランジェ」①	4月22日(土)	33人
学生レストラン「メランジェ」②	5月20日(土)	34人
第1回オープンキャンパス	6月18日(日)	10人参加(高校生5人・保護者5人)
学生レストラン「メランジェ」③	6月24日(土)	41人
第2回オープンキャンパス	7月9日(日)	9人参加(高校生7人・保護者2人)
学生レストラン「メランジェ」④	7月15日(土)	44人
第3回オープンキャンパス	7月30日(日)	13人参加(高校生9人・保護者4人)
第1回高校生料理コンテスト	8月5日(土)	9人参加
第4回オープンキャンパス	8月20日(日)	21人参加(高校生12人・保護者9人)
夏休み小学生料理教室	8月23日(水)	10人参加(小学生9人・保護者1人)
研修旅行(関西方面)	9月4日(月)～7日(木)	2年生 11人参加
第5回オープンキャンパス	9月16日(土)	9人参加(高校生6人・保護者3人)
まちなかこども文化祭2023	9月17日(日)	アーケードで弁当販売出店
学園祭	10月8日(日)	レストランおよびアウト弁当・スイーツ
第6回オープンキャンパス	10月21日(土)	8人参加(高校生4人・保護者4人)
南地区コミセン祭	11月12日(日)	弁当・焼き菓子販売
学生レストラン「メランジェ」⑤	11月18日(土)	40人
学生レストラン「メランジェ」⑥	12月9日(土)	40人
創立記念講話	12月15日(金)	
第7回オープンキャンパス	12月16日(土)	13人参加(高校生6人・保護者7人)
黒田五寸人參クッキングコンテスト	12月17日(日)	2チーム参加(優勝・準優勝受賞)
第8回オープンキャンパス	1月20日(土)	12人参加(高校生5人・保護者7人)
学生レストラン「メランジェ」⑦	1月27日(土)	70人
学祖追悼式	1月31日(水)	朝のホームルーム
卒業記念食事会	2月17日(土)	保護者16人参加
卒業式	3月6日(水)	
SDGs宣言の日記念イベント	3月15日(金)	最優秀ブース賞受賞
修了式・離任式	3月19日(火)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
推薦入試	11月1日(水)	14人受験(指定校8人・公募2人・学内4人)
一般(1期)入試	11月1日(水)	受験者なし
一般(2期)入試	12月1日(金)	2人受験
一般(3期)入試	2月1日(木)	1人受験
一般(随時)入試	2月21日(水)	2人受験(社会人1人・留学生1人)

6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学年の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針の達成状況
1 学年	出席率は、96.8% 資格取得については、5)の(1)の通りで色彩検定以外は100%取得できた。 学校・地域行事へ積極的に参加できた。
2 学年	出席率は、93.8% 資格取得については、5)の(1)の通りでサービス技能検定以外は100%取得できた。 学校・地域行事への積極的に参加できた。

(2) 教育活動

取組の総括	
<p>✓ 建学の精神と理念に基づき、社会に貢献しうる調理師の育成を目指し、カリキュラムの充実と学生レストランを年間7回開催するなど調理師としての総合実践力を育成した。調理師免許以外に介護食士3級・色彩コーディネーター・ラッピングコーディネーター・カフェクリエーターなど資格取得が出来るカリキュラムを実施した。</p> <p>✓ 外部の教育資源の活用に関して、学生のためになるような情報は、積極的に取り入れ講義や実習に反映することが出来た。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 即戦力強化を意識したカリキュラムの充実	<p>✓ 講師会総会 4月3日(月)</p> <p>✓ 電気調理器具による調理講習会 5月16日(火)、10月19日(木)</p> <p>✓ ウェルカムパーティー(眞崎洋文さんによる実技講習会) 4月13日(木)</p> <p>✓ 金融リテラシー教育 SMBC コンシューマーファイナンス 6月28日(水)</p> <p>✓ 2年生研修旅行(関西) 9月4日(月)～9月7日(木)</p> <p>✓ 佐世保南地区コミセン祭り 弁当販売 11月12日(日)</p> <p>✓ 4ヶ町70周年記念「まちなかこども文化祭2023」弁当販売 9月17日(日)</p> <p>✓ 卒業記念食事会 2月17日(土)</p> <p>✓ 黒田五寸人参キャロットフェス クッキングコンテスト 12月17日(日) 1年生2組4人出場 グランプリ・準グランプリ受賞</p> <p>✓ 調理1年 年金セミナー 10月23日(月)</p> <p>✓ 調理2年 サービス接客検定2級 11月4日(土)</p> <p>✓ 調理1年 色彩検定 11月12日(日)</p> <p>✓ 調理1・2年 卓袱料理研修(花月) 12月1日(金)</p> <p>✓ 1年ラッピングテスト 2月16日(金)</p>
(2) インターンシップの実施	<p>✓ 2年インターンシップ壮行式 8月2日(水)</p> <p>✓ 2年生インターンシップ(15日間) 8月4日(金)～8月24日(木)</p> <p>✓ 1年生インターンシップ 3月11日(月)～3月18日(月)</p>
(3) 学生レストラン メランジェの実施	<p>✓ 学生レストラン「メランジェ」</p> <p>① 4月22日(土) 34人 (春だより御膳24人・春香るランチ10人)</p> <p>② 5月20日(土) 31人 (初夏の味わい御膳22人・新緑ただよう中華ランチ9人)</p> <p>③ 6月24日(土) 41人 (梅雨だより御膳19人・爽やか向夏ランチ22人)</p> <p>④ 7月15日(土) 44人 (夏の光彩御膳28人・メコマン(ピリ辛)ランチ16人)</p> <p>⑤ 11月18日(土)40人 (実りの秋御膳20人・秋麗中華ランチ20人)</p> <p>⑥ 12月9日(土)40人 (クリスマス御膳23人、Happy Holiday Lunch17人)</p> <p>⑦ 1月27日(土)70人</p>

	(冬の贅沢御膳 48人・韓国節分ランチ 22人) ✓ 学園祭 レストラン (秋の味覚御膳) テイクアウトアジア丼(飲茶カップ・ビビンバカップ) テイクアウトスイーツ(ガトーショコラ・マドレーヌ・クッキー・パウンドケーキ) 10月8日(日)
(4) 集団給食実習の実施	✓ 集団給食実習 ① 4月28日(金) 58食      ② 5月26日(金) 44食 ③ 6月16日(金) 56食      ④ 7月12日(水) 61食 ⑤ 9月27日(水) 48食      ⑥ 10月20日(金) 33食 ⑦ 11月22日(水) 56食      ⑧ 12月5日(火) 50食 ⑨ 1月17日(水) 33食      ⑩ 2月14日(水) 30食

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 該当なし	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題

### (4) 研究活動

取組の総括	
✓ 学園内の研究者から研究に関するアンケートや調査の依頼に関して協力	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 研究活動への協力	✓ 長崎国際大学薬学部セルフメディケーションアンケートへの協力

### (5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 教育に関する支援は、2) 教育活動の取組で、経済的な支援活動は、修学支援新制度と本校独自の学生サポート制度の周知と適切な対応に努めた。さらに就職や学校生活での支援など各関係機関や家庭と連携を取りながら、充実した学生生活を送ることが出来るようにサポートした。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 修学支援新制度	✓ 学生および保護者への周知と適切な対応 ✓ その他の奨学金についても学生保護者に周知している ✓ マルゼン食みらい創造財団給付型奨学金採用決定 1年生 1人
(2) 学生サポート制度	✓ 学生および保護者への周知と適切な対応 令和5(2023)年度の利用者は 1年生(通学費補助1人・住宅費補助4人・駐車場代補助2人) 2年生(通学費補助1人・住宅費補助0人・駐車場代補助0人)
(3) 就職支援	✓ 求人票など情報提供を確実にする ✓ 面接指導および就職試験報告書の作成と有効活用 ✓ 調理1・2年 自衛隊より調理関係職員の説明会 12月8日(金)
(4) スクールカウンセラー	✓ 毎週月曜日午後にカウンセラーの来校、秘密の遵守 ✓ 生活相談に関しては、随時、生活相談員と連携した早めの対応 ✓ 1年生個人面談週間 5月8日(月)～5月12日(金) ✓ スクールカウンセラー向先生の紹介と説明・アンケート 5月8日(月) ✓ 学生健康診断 4月27日(木)
(5) 留学生対応	✓ 卒業生との情報交換 ✓ 日本の食文化海外普及人材育成事業 終了 8月31日(木) (研修期間) 平成30(2018)年9月1日～令和5(2023)年8月31日(5年間) (終了報告) 農林水産省食料産業局長へ「特定調理活動終了報告書」を提出
(6) 家庭との連携	✓ 学生レストランへ保護者を招待 ✓ 調理1年保護者会 16人参加 7月1日(土) ✓ 卒業記念食事会 2月17日(土) ✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有 ✓ 必要に応じて保護者面談を実施

### (6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 学園内の国際交流・留学生支援活動の依頼に対して協力	

項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 国際交流・留学生支援への協力	✓ 特になし

## (7) 学生募集・広報活動

取組の総括													
<p>✓ 魅力的で効果的な情報を積極的に発信に努めた。今後は、学生による情報発信も取り入れるなど、高校生のニーズに合わせた情報を発信したい。</p> <p>✓ 留学生の募集に関してガイドブックやホームページを改訂した。留学生用のオープンキャンパス参加を呼びかけ、3人の参加があった。長崎日本語学院などとの情報交換もできた。</p>													
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題												
(1) 情報発信	<p>✓ 進路ガイダンスへの参加と内容の見直しは随時実施している</p> <p>✓ 学校案内パンフレットの見直しは今年度変更なし</p> <p>✓ 進学情報誌および新聞広告の見直しをした</p> <p>✓ ホームページの更新 30回</p> <p>✓ Instagramの更新 193回(フォロワー数 235→302)</p> <p>✓ 路線バス(西肥バス)でのバス停前での車内アナウンス</p> <p>✓ バス停名を「藤原橋」→「藤原橋・九文専門学校前」</p> <p>✓ 県内の新聞社・テレビ局への取材要請</p> <p>✓ 留学生用ガイドブックと関連ホームページの改訂</p>												
(2) オープンキャンパス	<p>✓ 年間8回実施(内容を変えて実施)</p> <p>✓ 高校生参加者の目標数は年間108人(高校3年生は83人)以上とされていたが年間54人(高校3年生は39人)の参加となった</p> <p>✓ 案内用ポスターおよびチラシ作製・配布</p> <p>✓ HPから参加申込できる</p> <p>✓ 今年度は送迎バスの利用はなしとした</p> <p>✓ 留学生は、オープンキャンパスに3人参加した</p>												
(3) 体験入学	<p>✓ 体験入学6校</p> <table border="0"> <tr> <td>① 佐世保東翔高校1年生(13人)</td> <td>6月21日(水)</td> </tr> <tr> <td>② 清峰高校1年生(6人)</td> <td>6月13日(火)</td> </tr> <tr> <td>③ 九州文化学園中学校2年生(16人)</td> <td>9月29日(金)</td> </tr> <tr> <td>④ 北松農業高校1年生(25人)</td> <td>10月18日(水)</td> </tr> <tr> <td>⑤ 大村城南高校1年生(8人)</td> <td>10月18日(水)</td> </tr> <tr> <td>⑥ 九州文化学園高校1年(50人)</td> <td>3月13日(水)</td> </tr> </table>	① 佐世保東翔高校1年生(13人)	6月21日(水)	② 清峰高校1年生(6人)	6月13日(火)	③ 九州文化学園中学校2年生(16人)	9月29日(金)	④ 北松農業高校1年生(25人)	10月18日(水)	⑤ 大村城南高校1年生(8人)	10月18日(水)	⑥ 九州文化学園高校1年(50人)	3月13日(水)
① 佐世保東翔高校1年生(13人)	6月21日(水)												
② 清峰高校1年生(6人)	6月13日(火)												
③ 九州文化学園中学校2年生(16人)	9月29日(金)												
④ 北松農業高校1年生(25人)	10月18日(水)												
⑤ 大村城南高校1年生(8人)	10月18日(水)												
⑥ 九州文化学園高校1年(50人)	3月13日(水)												
(4) 高校生料理コンテスト	<p>✓ 第1回高校生料理コンテスト 8月5日(土)</p> <p>「フィッシュマスターチャレンジ inSASEBO」高校生9人参加</p>												
(5) ガイダンス	<p>✓ 参加するガイダンスの見直しをした</p> <p>✓ 九州文化学園高校オープンスクール保護者説明会 7月25日(火)、7月26日(水)、8月23日(水)</p> <p>✓ 長崎県各種学校専修学校主催進学ガイダンス 9校参加 10月27日(金)</p> <p>✓ 留学生用ガイダンス等</p> <table border="0"> <tr> <td>① 長崎日本語学院進学説明会</td> <td>6月27日(火)</td> </tr> <tr> <td>② こころ医療福祉専門学校佐世保校日本語科訪問</td> <td>7月4日(火)</td> </tr> <tr> <td>③ 長崎短期大学製菓コース 平田教授と留学生1人来校</td> <td>8月3日(木)</td> </tr> <tr> <td>④ 第4回オープンキャンパスに日本語学院留学生3人参加</td> <td>8月20日(日)</td> </tr> </table>	① 長崎日本語学院進学説明会	6月27日(火)	② こころ医療福祉専門学校佐世保校日本語科訪問	7月4日(火)	③ 長崎短期大学製菓コース 平田教授と留学生1人来校	8月3日(木)	④ 第4回オープンキャンパスに日本語学院留学生3人参加	8月20日(日)				
① 長崎日本語学院進学説明会	6月27日(火)												
② こころ医療福祉専門学校佐世保校日本語科訪問	7月4日(火)												
③ 長崎短期大学製菓コース 平田教授と留学生1人来校	8月3日(木)												
④ 第4回オープンキャンパスに日本語学院留学生3人参加	8月20日(日)												
(6) 高校訪問	<p>✓ 高校訪問(長崎県47校・佐賀県5校) 5月22日～6月14日</p> <p>内容：新年度挨拶、入学お礼、本校就職状況、オープンキャンパス案内、学生サポート制度、募集要項、在校生ポスター、学費比較、指定校推薦通知書 等</p> <p>✓ 県内の離島高校へ郵送 13校へ6月16日・20日に郵送</p> <p>✓ 高校訪問 9月19日(火)10月4日～6日 11月8日(水)9日(木)</p>												
(7) 指定校推薦制度	✓ 指定する高校の見直し												
(8) 募集要項	✓ 募集要項の見直しおよび減免額の見直し												
(9) 民間講師派遣事業	<p>✓ 民間講師派遣事業</p> <table border="0"> <tr> <td>① 北松農業高校3年5人</td> <td>5月31日(水)</td> </tr> <tr> <td>② 川棚高校生活総合学科3年14人</td> <td>6月8日(木)</td> </tr> <tr> <td>③ 大村高校家政科3年23人</td> <td>6月20日(火)</td> </tr> <tr> <td>④ 波佐見町社会福祉協議会主催食事サービス講習会</td> <td>8月31日(木)</td> </tr> </table>	① 北松農業高校3年5人	5月31日(水)	② 川棚高校生活総合学科3年14人	6月8日(木)	③ 大村高校家政科3年23人	6月20日(火)	④ 波佐見町社会福祉協議会主催食事サービス講習会	8月31日(木)				
① 北松農業高校3年5人	5月31日(水)												
② 川棚高校生活総合学科3年14人	6月8日(木)												
③ 大村高校家政科3年23人	6月20日(火)												
④ 波佐見町社会福祉協議会主催食事サービス講習会	8月31日(木)												

	「大量に調理する際のコツについて」波佐見町農村環境改善センター ⑤ 食事サービス講習会(波佐見町社会福祉協議会) 2月1日(木)
--	---

## (8) 教職員の人材開発

取組の総括	
<p>✓ 建学の精神をベースとした教育活動の展開をするために、九州文化学園基本スタンスを実践に結び付ける意識と日々の研鑽が必要である。そのため、職員は年2回以上の研修会や講習会等に参加し、そこで得た知識や情報を全職員で情報を共有できるように心がけた。また、法人本部総務・人事課など学園内の他部門とも人事に関する情報の共有を図った。</p> <p>✓ 今年度は本校教務主任が、調理師法施行65周年記念全国大会大会会長賞および全国調理職業訓練協会全国表彰の2つの全国表彰を受賞した。学生や他の教職員に良い刺激を与えることが出来た。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 指導力向上のための研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ イタリア料理技術講習会受講(中村調理製菓専門学校) (野口・當房・笠原) 8月30日(水)</li> <li>✓ 出入国管理局との情報交換会 Zoom (校長) 11月17日(金)</li> <li>✓ 長崎短期大学講演会 田代健一氏(株式会社帝国ホテル勤務)(校長) 11月16日(木)</li> <li>✓ SDGs 講演会ホテルオークラ(鴨川) 10月31日(火)</li> <li>✓ 調理師法施行65周年記念全国大会大会会長賞表彰 12月20日(水)</li> <li>✓ 全国調理職業訓練協会 全国表彰受賞(鴨川) 3月25日(月)</li> </ul>
(2) 学校運営に関する研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 講師会総会 4月1日(土)</li> <li>✓ 高等学校教員向け進路ガイダンス(県専各連) Zoom 10月27日(金)</li> <li>✓ 長崎県専各連理事会・総会(長崎) 6月27日(火)</li> <li>✓ 専門学校教職員の研修等推進のためのオンラインセミナーZoom 2月2日(金)</li> <li>✓ 全国調理師養成施設協会九州地区協議会Zoom 2月20日(火)</li> </ul>
(3) 研修会の情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食に関する企業との情報共有および相互協力体制の強化</li> <li>✓ 学園内の連携による研修会の開催および研修会の情報共有</li> <li>✓ 全国調理師養成施設協会、全国調理職業訓練協会との連携</li> <li>✓ 他の教育機関および学園内での連携</li> </ul>
(4) 学園内での研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 合理的配慮に関する研修会(長崎国際大学) 8月25日(金)</li> <li>✓ 茶道の指導に関する研修会(長崎国際大学) 8月7日(月)</li> <li>✓ 茶道お点前稽古(長崎国際大学) 9月12日、13日、15日</li> <li>✓ 茶道ご宗家によるお点前ご指導 10月28日(土)</li> </ul>
(5) 法人本部総務・人事課との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法人本部総務・人事課との人事に関する情報の共有</li> </ul>

## (9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
<p>✓ 地域の行事への積極的に参加することや地域や関連団体および保護者に参加していただく学校行事を企画し開催することで本校を理解していただくようになり、より一層連携強化することが出来ている。今後も以下の取組を継続し、進化させていく。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 保護者等家庭との関係性強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1年保護者会の実施 7月1日(土)</li> <li>✓ 学生レストランへの招待</li> <li>✓ 卒業記念食事会への招待 2月17日(土)</li> <li>✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有</li> </ul>
(2) 全日本司厨士協会等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全国司厨士協会との連携</li> <li>✓ 長崎県司厨士協会に学校行事の協力依頼</li> <li>✓ 全国調理師養成施設協会との連携</li> <li>✓ 全国調理職業訓練協会との連携</li> </ul>
(3) 同窓会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 設備の補充および新設への協力依頼</li> </ul>
(4) 地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 木風小学校2年生 町中探検隊2班10人+4人来校 6月20日(火)</li> <li>✓ 食品衛生責任者講習会(アルカス佐世保(鴨川)) 7月5日(水)</li> <li>✓ 佐世保市食育推進会議(佐世保市役所(鴨川)) 7月27日(木)</li> <li>✓ 夏休み子ども料理教室 8月23日(水)</li> <li style="text-align: center;">「クッキングキッズアカデミー」 スパゲティナポリタンとフルーツ白玉</li> </ul>

	<p>参加者 11人(2年生～6年生 9人・保護者 2人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園祭チラシ回覧板依頼(藤原町 1組・2組・3組班長へ) 8月28日(月)</li> <li>✓ 第1回高校生料理教室 8月5日(土) 「フィッシュマスターチャレンジ in SASEBO」高校生9人参加</li> <li>✓ 佐世保南地区コミセン祭り 弁当販売 11月12日(日)</li> <li>✓ させぼ4ヶ町70周年記念行事「まちなかこども文化祭2023」 アーケードでの弁当販売 9月17日(日)</li> <li>✓ 黒田五寸人参キャロットフェス キッキングコンテスト 1年生2組4人出場 グランプリ・準グランプリ受賞 12月17日(日)</li> <li>✓ 民間講師派遣事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 北松農業高校3年5人(鴨川・梶山) 5月31日(水)</li> <li>② 川棚高校生活総合学科3年14人(鴨川・梶山) 6月8日(木)</li> <li>③ 大村高校家政科3年23人(鴨川・梶山) 6月20日(火)</li> <li>④ 波佐見町社会福祉協議会主催食事サービス講習会 「大量に調理する際のコツについて」 波佐見町農村環境改善センター(鴨川) 8月31日(木)</li> <li>⑤ 食事サービス講習会(波佐見町社会福祉協議会)(鴨川・當房) 2月1日(木)</li> </ul> </li> </ul>
(5) 地域関連企業との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州電力や電気調理器具の会社の協力による電気調理器具を使用した調理実習</li> <li>✓ ハウステンボスやホテル、県内の調理関係の企業でのインターンシップならびにテーブルセッティングやテーブルマナーの講義の実施</li> <li>✓ 高校生料理コンテストや小学生料理教室などの学校行事の協賛の依頼</li> </ul>

### (10) 学園内の連携促進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園内の他部門等から案内のあった行事には、積極的に参加する姿勢でのぞんでいる。参加していない職員に対しても情報共有を図った。</li> <li>✓ 本校の行事に関しても情報を発信し、他部門から協力をさせていただいた。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 食物分野に関する連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食物分野連携会議 Zoom(鴨川) 6月22日(木)</li> </ul>
(2) 学園責任者連絡会等 学校法人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学校法人九州文化学園辞令交付式(法人本部) 4月1日(土)</li> <li>✓ 会計監査(法人本部) 4月3日(月)</li> <li>✓ 学園責任者連絡会 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月24日(月) 法人本部</li> <li>② 7月3日(月) 九州文化学園小中学校</li> <li>③ 9月4日(月) 長崎短期大学</li> <li>④ 11月6日(月) 長崎国際大学</li> <li>⑤ 1月5日(金) 長崎短期大学</li> <li>⑥ 3月4日(月) 法人本部</li> </ul> </li> <li>✓ 学校法人九州文化学園 評議員会(長崎国際大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 5月26日(金) ② 9月29日(金) ③ 12月1日(金) ④ 3月29日(金)</li> </ul> </li> </ul>
(3) 学園募集担当者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 募集担当者会(長崎短期大学) 4月28日(金)</li> </ul>
(4) SDGs 連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園 SDGs 担当者会議 Zoomで4回実施</li> <li>✓ 九州文化学園 SDGs 推進イベント(長崎国際大学) 3月15日(金)</li> </ul>
(5) 茶道大会等	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短期大学 白蝶祭お茶席 10月22日(日)</li> <li>✓ 長崎国際大学開国祭 自明堂 11月4日(土)</li> <li>✓ 長崎短期大学茶道大会 12月10日(日)</li> <li>✓ 茶道ご宗家お点前ご指導(鴨川) 10月29日(日)</li> </ul>
(6) 九州文化学園高校進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園高校体験入学 3月13日(水)</li> <li>✓ 九州文化学園高校オープンスクール保護者説明会での本校紹介 7月25日(火) 7月26日(水) 8月23日(水)</li> </ul>
(7) 他部門の行事・調査研究等	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新任者対象九文キャンパス・ツアー来校 4月8日(土)</li> <li>✓ 学園納涼会 7月28日(金)</li> <li>✓ IT・DX推進 ヒアリング 7月10日(月)</li> <li>✓ 長崎短期大学講演会 田代健一氏(株式会社帝国ホテル勤務) 11月16日(木)</li> </ul>

(8) 歯科衛生士学院との連携	✓ 学園祭の共同開催	10月8日(日)
	✓ 歯科1年 調理実習	9月26日(火) 2月8日(木)
	✓ 歯科2年 調理実習	2月8日(木)
	✓ 防災訓練の共同実施	
	✓ 集団給食実習への食事注文協力依頼	
	✓ 歯科衛生士学院の行事に関する弁当・菓子の注文依頼	

## (11) SDGs の推進

取組の総括		
<p>✓ 職員と学生が地域と連携した SDGs 推進活動を意識し、学生自治会を中心に年間の活動計画を立てて実行し、さらに改善して実行することが出来た。</p> <p>✓ 地域の行事へ積極的に参加したり、地域の方々が来校される学校行事を企画し実行するなど、SDGs 推進にも主体的に取組む体制をつくることができた。</p> <p>✓ 学園 SDGs 推進宣言の日記念イベントにおいて、法人本部との共同企画が、最優秀ブース賞を受賞した。</p>		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
(1) SDGs 推進の周知と学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オリエンテーション 校長講話(SDGs 説明等)</li> <li>✓ 3月15日の学園 SDGs 宣言の日記念イベントへの参加</li> </ul>	4月10日(月)
(2) 食物ロス減少活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実習時に残った食材を利用したレシピの開発</li> </ul>	
(3) 地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地元元食品を利用した調理実習</li> </ul>	
(4) 小学生料理教室開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 夏休み子ども料理教室 「クッキングキッズアカデミー」 スパゲティナポリタンとフルーツ白玉 参加者 11人 (小学2年生2人・4年生1人・5年生3人・6年生3人・保護者2人)</li> </ul>	8月23日(水)
(5) 高校生料理コンテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第1回高校生料理教室 「フィッシュマスターチャレンジ in SASEBO」 高校生9人参加</li> </ul>	8月5日(土)
(6) 地域行事への参加・地域清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 佐世保南地区コミセン祭り 弁当販売</li> </ul>	11月12日(日)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ させぼ4ヶ町70周年記念行事「まちなかこども文化祭2023」 アーケードでの弁当販売</li> </ul>	9月17日(日)
(7) ペットボトルキャップ回収	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生自治会を通してペットボトルを回収してワクチンに交換</li> </ul>	
(8) 高校生体験入学	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 体験入学6校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐世保東翔高校1年生(13人)</li> <li>・清峰高校1年生(6人)</li> <li>・九州文化学園中学校2年生(16人)</li> <li>・北松農業高校1年生(25人)</li> <li>・大村城南高校1年生(8人)</li> <li>・九州文化学園高校1年(50人)</li> </ul> </li> </ul>	6月21日(水) 6月13日(火) 9月29日(金) 10月18日(水) 10月18日(水) 3月13日(水)
(9) 学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園 SDGs 推進宣言の日記念イベントにおいて最優秀ブース賞を受賞した。 法人本部との協同で合同企画「もったいないをおいしいに！ もったいないからきれいに」を実施し、高評価を得て受賞することができた。</li> </ul>	

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括		
<p>✓ 令和6(2024)年度は、入試に関する減免制度の見直しを図り支出を減少させた。修学支援新制度の適切な対応に心がけた。また、次年度にかけて本校独自の学生サポート制度も検証を行い今後の在り方を検討していく。</p> <p>✓ 電気料金やガス料金の値上げが続いているので、毎月の料金の見える化を行い省エネについて職員に浸透させた。</p> <p>✓ ウィルス感染予防対策に関してもこれまでと同様に関係機関と連携しながら対応した。</p>		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
(1) 予算の適切な執行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画に則した予算編成と適正な執行に努めた</li> <li>✓ 内部監査</li> <li>✓ 内部監査で指摘された事項は年度内に修正した。</li> </ul>	12月12日(火)
(2) 修学支援新制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 修学支援新制度の適切な対応に心がけた</li> </ul>	
(3) 学生サポート制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和3(2021)年度から導入している。次年度見直しを検討する。</li> </ul>	
(4) 減免制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入試に関する減免制度の見直しを図ることで支出を抑えた</li> </ul>	
(5) エコキャンパス事業など検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 太陽光発電システムを検討したが、今年度は見送りとなった。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 電気料金の見直しを行い、業者を変更した。</li> </ul>	
(6) 規則・規程の適切な管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年度当初に規則・規程や文書の適切な管理と運用体制の確認を行い、夏季休業中に</li> </ul>	



と運用体制の確認	見直しおよび整備を行った。 ✓ 現状に合った学校危機管路マニュアルを作成し周知を図った。 ✓ 防災避難訓練	5月10日(水)
(7) 情報セキュリティマネジメント	✓ 情報資産管理台帳の見直しと整理 ✓ 情報セキュリティポリシーの周知徹底	
(8) 学内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	✓ 学内メール便の有効活用に努めた ✓ 学内 Gmail での適切な情報データの共有 ✓ 共有フォルダの見直しと整理	
(9) ウィルス感染予防対策	✓ 関係機関との連携強化 ✓ 新型コロナウイルス感染予防の徹底 ✓ 正しい情報の収集と適切な判断・対応 ✓ 学生の授業実習に支障が出ないように対応した ✓ インフルエンザワクチン接種(校内) ✓ コロナワクチン接種の案内	11月10日(金)

### (13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括		
✓ 安全第一主義で施設設備の点検を実施した。異常または不安な箇所が出た場合は、専門業者と連絡をとり早めの対応に心がけた。また急を要しない場合には中長期的に修繕・修理・更新等の計画を立て実行した。		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
(1) 施設設備の定期点検実施	✓ 毎日の清掃時間における点検の実施 ✓ 校舎周り緊急点検 ✓ 消防署立ち入り検査 ✓ 貯水槽清掃 ✓ 消防設備点検	6月9日(金) 6月9日(金) 8月6日(火) 8月21日(月)
(2) 実習設備・器具の点検と整理整頓	✓ 実習の準備と後片付け時における点検と整理 ✓ チェックシートへの記入と報告の徹底 ✓ 製菓室 コールドテーブルの冷蔵庫1台修理 ✓ 製菓実習室コールドテーブル2台取替工事	12月25日(月) 1月24日(水)
(3) 給湯器取替工事	✓ 2階給湯器2台取替工事	12月27日(水)
(4) 環境美化	✓ 校舎周りの樹木剪定と清掃に心がけた ✓ 四季の草花を楽しめる環境づくりに取り組んだ	
(5) LED 照明器具取替	✓ LED 取替工事(調理実習室2本故障)	9月22日(金)
(6) 施設管財会議	✓ 実施していない	

### (14) 点検評価

取組の総括		
✓ 令和5(2023)年度事業計画に基づき教育活動および学校運営を展開していく中で、テーマや行事ごとに現状と課題を把握し整理して次の取組までに改善するように努めた。具体的には「いつまで、だれが、どこまで取り組むのか」実施する時期や組織体制を明確にして実行した。学生や職員の自己評価および学校関係者評価委員の評価項目の内容も現状に合ったものであるか検証し、見直して実施した。		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
(1) 学校関係者評価委員会	✓ 第1回学校関係者評価委員会 ✓ 第2回学校関係者評価委員会	8月25日(金) 2月2日(金)
(2) 学生自己評価	✓ 自己評価(学生)実施 24人	12月12日(火)
(3) 職員自己評価	✓ 自己評価(職員)実施 6人	1月10日(水)
(4) 学事振興課への報告	✓ 令和5(2023)年度学校評価報告書を3月上旬に提出	
(5) ホームページ掲載	✓ 令和5(2023)年度学校評価結果を3月下旬に本校ホームページに掲載し公表	
(6) 事業報告と事業計画の作成	✓ 令和6(2024)年度事業計画書は3月初旬に作成 ✓ 令和5(2023)年度事業報告書は4月下旬に作成	

### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括		
✓ 該当なし		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	

## 8.九州文化学園歯科衛生士学院

### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	資格取得のための知識と高い技術を養い、社会に貢献する人間教育を目指す
経営目標	歯科衛生教育に関連する施設・行政等と連携し、有能な歯科衛生士育成教育を行うため、研修・研究を重ね学生指導に努める

### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度は「変革と前進」というテーマで以下の3つを柱に学校経営を行った。第1は「建学の精神をベースとした教育活動の展開」、第2は「歯科医療の向上に寄与できる人材の育成」、第3は「地域連携と積極的な情報発信による募集定員の確保」である。</li> <li>✓ 3年生の国家試験全員合格に向けて全職員で取り組んだ。結果は25人受験して24人合格であった。合格率は全国平均92.4%に対して本校の合格率は96%であった。今後も合格率100%を目指して取り組んでいく。</li> <li>✓ 学力向上と学習習慣の強化にも様々な取り組みをした。その結果、今年度は成績不振を理由に退学する学生は出なかった。即戦力強化と人間力向上のために、数多くの外部講師による講義や実習を企画実現することが出来た。次年度も職員だけでなく講師の協力も得ながらしっかりと取り組みたい。</li> <li>✓ 学生募集に関しては、今年度の志願者は29人で、昨年度の39人から10人減少した。情報収集を行い検証していく。歯科医師会や学園グループ、県内の高校とも連携をより強化して、募集定員の確保を目指す。</li> </ul>
---

### 3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コロナ禍で中断していた病院実習等の再開をした</li> <li>✓ 実習先および実習内容の見直しと新たな実習先の開拓にあたった</li> <li>✓ 教職員・講師に対して講師会総会をはじめ機会あるたびに「建学の精神をベースにした教育活動の展開」の共通理解を図り、魅力ある授業に繋げた</li> </ul>
2	教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 基礎学力および生活・学習習慣診断テストを実施し、学生の個別指導を充実させ成績不振者対策に役立てた</li> <li>✓ 個人面談を積極的に実施した。他学年との懇談会を実施した</li> <li>✓ 教職員の研修について1人2回以上は参加し指導力の向上に努めた。</li> </ul>
3	約定返済の確実な履行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度より男子学生受入可の周知を行った</li> <li>✓ 電気料金見える化を実施し、業者の変更を行った</li> <li>✓ 情報発信(ホームページ17回、Instagram30回)</li> </ul>

### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生自治活動も少しずつ充実してきている</li> <li>✓ 職員の研修会や講習会への参加は、1人2回以上の参加はできている</li> </ul>
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 個人面談・保護者面談・他学年との懇談会など積極的に実施し効果が出ている</li> <li>✓ 家庭学習の定着と成績不振者へのサポートを職員全体で取り組んでいる</li> </ul>
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 佐世保市歯科医師会との連携も年々強化できている</li> <li>✓ 臨床実習の受け入れ先を広げることが出来た</li> </ul>
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 必要に応じてZoomでの授業を実施している</li> <li>✓ デジタル教科書やiPad導入に向けて他校とも情報を共有している</li> </ul>
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ HP・Instagram等の積極的な情報発信</li> <li>✓ 路線バスのアナウンス広告</li> </ul>
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 修学支援新制度と学生サポートの適切な処理</li> </ul>
学園内の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 他部門からの講師派遣による充実したカリキュラム</li> <li>✓ 他部門の行事や調査への積極的な協力</li> </ul>
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画を反映した事業計画の作成</li> <li>✓ 学校関係者評価や始めの会納の会等での意見を取り入れた学校経営を実施</li> <li>✓ 太陽光発電設置の検討</li> </ul>

### 5) 主要情報

#### (1) 卒業生数、資格等に関する実績

##### 【卒業生数】

課程名	人数	備考
医療関係専門課程	25人	
総計	25人	
卒業生の累計	1,336人	※2年課程時代を含む。

## 【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
歯科衛生士	24人	25人受験(96%：全国平均 92.4%)

## (2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4月4日(火)	
入学式	4月5日(水)	39人入学
オリエンテーション	4月6日(木)	
第1回オープンキャンパス	6月18日(日)	14人参加(高校生9人・保護者5人)
第2回オープンキャンパス	7月9日(日)	8人参加(高校生6人・保護者2人)
第3回オープンキャンパス	7月30日(日)	18人参加(高校生14人・保護者4人)
第4回オープンキャンパス	8月20日(日)	15人参加(高校生9人・保護者6人)
第5回オープンキャンパス	9月16日(土)	3人参加(高校生3人・保護者0人)
学園祭	10月8日(日)	
研修旅行(関東)	10月10日(火)～13日(金)	2年生
第6回オープンキャンパス	10月21日(土)	12人参加(高校生7人・保護者5人)
第7回オープンキャンパス	12月16日(土)	2人参加(高校生1人・保護者1人)
戴帽式	12月20日(水)	
第8回オープンキャンパス	1月20日(土)	7人参加(高校生5人・保護者2人)
第33回歯科衛生士国家試験	3月3日(日)	25人受験 場所(九州産業大学)
卒業式	3月8日(金)	25人卒業
合格者登校日	3月22日(金)	入学予定者29人
歯科衛生士国家試験合格発表	3月26日(火)	24人合格(25人受験)96%

## <入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
指定校推薦入試	書類選考	11人受験
公募推薦・学内推薦入試	11月2日(木)	13人受験(公募6人・学内7人)
一般(1期)入試	12月4日(月)	3人受験
一般(2期)入試	2月5日(月)	1人受験
一般(3期)入試	3月6日(水)	1人受験

## 6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 学年等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針の達成状況
1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出席率 96.5%、退学 2人(成績不振による退学者はいない)</li> <li>✓ 学校・地域行事へ積極的に参加できた</li> <li>✓ 家庭学習の定着は7割の学生ができていた</li> </ul>
2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出席率 97.5%、退学者なし</li> <li>✓ 国家試験対策として模擬試験を2回実施</li> </ul>
3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出席率 95.9%、退学者なし</li> <li>✓ 国家試験合格 96%(目標 100%) 全国平均 92.4%</li> <li>✓ 県内就職 63%(目標 70%以上)</li> </ul>

### (2) 教育活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 3年生の国家試験全員合格に向けて下記の内容を全職員で取り組んだ。結果は25人受験して24人合格であった。合格率は全国平均 92.4%に対して本校の合格率は96%であった。今後も合格率100%を目指して取り組んでいく。</li> <li>✓ 学力向上と学習習慣の強化にも以下のような様々な取り組みをした。その結果、今年度は成績不振を理由に退学する学生は出なかった。次年度も職員だけでなく講師の協力も得ながらしっかりと取り組みたい。</li> <li>✓ 即戦力強化と人間力向上のために、数多くの外部講師による講義や実習を企画実現することが出来た。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 国家試験合格 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 早期取組(2年生6月から模擬試験実施)開始</li> <li>✓ 模擬試験 14回実施</li> <li>✓ 冬季補習の実施</li> <li>✓ 担当制指導により個別にきめ細かく指導</li> <li>✓ 全職員による模擬試験点数分析会議の実施</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 進研アドテストを実施(1・2年生) 5月15日(月)</li> <li>✓ 学院長講話 10月18日(水)</li> <li>✓ DHS講座3年生(DVD) 8月3日(木)、11月14日(火)</li> <li>✓ DHS講座2・3年生(DVD) 1月9日(火)</li> <li>✓ 国家試験日 会場：九州産業大学 3月3日(日)</li> <li>✓ 国家試験合格発表 3月26日(火)</li> <li>✓ 国家試験合格率 96% (全国平均92.4%)</li> </ul>
(2) 先進の歯科医療技術の修得と歯科保健活動の実践的修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高齢者・障がい者施設、リハビリ・大学病院、急性期医療施設における多職種連携による口腔ケア・先進の歯科医療技術の修得</li> <li>✓ 臨床実習(2年生 30日間、3年生 90日間)の実施</li> <li>✓ 佐世保市中央保健福祉センターにおける臨地実習(令和5(2023)年度は希望者なし)</li> <li>✓ 長崎大学医学部解剖見学(1年生)は中止</li> <li>✓ 矯正歯科見学(2年生) 3月6日(水)</li> <li>✓ 戴帽式(2年生) 12月20日(水)</li> <li>✓ 3年生患者実習(保護者) 6回実施</li> <li>✓ 世知原グリーンホームでの実習 7月5日(水)から8回</li> <li>✓ 長崎リハビリテーション病院実習 8月1日(火)</li> <li>✓ 障害者施設「にじいろ」見学 8月29日・30日</li> <li>✓ 障害者施設「にじいろ」実習 9月6日から6回</li> <li>✓ 佐世保共済病院など臨床実習では、コロナの影響で中止</li> <li>✓ 2年生研修旅行(関東) (榊ジーシーでの見学・講義) 10月10日(火)～13日(金)</li> </ul>
(3) 学力向上と学習習慣の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 基礎学力診断テストおよび生活学習習慣診断テストの実施</li> <li>✓ 入学前プログラムの全員参加</li> <li>✓ 卒業生による体験講話またはアドバイス卒業生2人(39期生・40期生)による講話 9月28日(木)</li> <li>✓ 保護者との情報共有 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話連絡およびプリント配布による情報共有</li> <li>・保護者面談の実施 1年(7/3～8/5),2年(7/3～7/29),3年(8/1～8/28)</li> </ul> </li> <li>✓ 在校生の先輩との座談会 <ul style="list-style-type: none"> <li>1・3年生交流会 4月6日(木)</li> <li>1・2年生交流会 4月27日(木)</li> <li>2・3年生座談会 10月30日(月)</li> <li>1・2年生座談会 11月1日(水)</li> </ul> </li> </ul>
(4) 即戦力強化と人間力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 理事長講話(1年生) 4月5日(水)</li> <li>✓ 学生による学園祭 10月8日(日)</li> <li>✓ 学生自治会による「南地区コミセン祭り」 11月12日(日) 内容：歯科衛生士体験コーナー、紙芝居、塗り絵、ヨーヨー釣り</li> <li>✓ 学生によるクリスマス会開催 12月22日(金)</li> <li>✓ 医療事務管理士技能認定試験(歯科) 3月21日(金)</li> <li>✓ 救急救命法講習会(2年生) 5月12日(金)</li> <li>✓ 金融リテラシー教育 5月25日(木)、6月28日(水)</li> <li>✓ 学生健康診断 4月27日(木)</li> <li>✓ 防災避難訓練 5月10日(水)</li> <li>✓ 調理実習(2年生) 5月23日(火)・2月8日(木)</li> <li>✓ 調理実習(1年生) 9月26日(火)・2月8日(木)</li> <li>✓ 防犯講話 7月31日(月)</li> <li>✓ 労働法セミナー 9月14日(木)</li> <li>✓ 卒業生2人(39期生・40期生)による講話 9月28日(木)</li> <li>✓ 佐世保市歯科医師会による就職講話 9月28日(木)</li> <li>✓ 接遇マナー検定試験(3級) 11月4日(土)</li> <li>✓ 年金セミナー(1年生) 2月2日(金)</li> </ul>
(5) ICT教育の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全衛協九州地区大会でiPad等の利用状況を確認したが、24校中1校のみ全員購入し使用していた。WiFi環境整備などに多くの経費が掛かったようである。</li> <li>✓ iPad全員購入は、経済的に大変厳しい状況である。</li> </ul>

### (3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 学則変更により共学化(令和5(2023)年4月1日から施行)	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 共学の体制準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 施設設備の準備、制服および規則等の見直し</li> <li>✓ 男子学生受入れ可の周知</li> <li>✓ オープンキャンパス、ガイダンスを通して男子学生受入れの周知を行った。</li> </ul>

### (4) 研究活動

取組の総括	
✓ 学園内の研究者からの研究に関するアンケートや調査の依頼に関して協力した	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 研究活動への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究活動のアンケートや調査等の依頼に確実に実施して協力した</li> <li>✓ 大学の薬学部からの調査研究は、全職員と全学生で協力した</li> </ul>

### (5) 学生の支援活動

取組の総括	
✓ 教育に関する支援は、2)教育活動の取組で、経済的な支援活動は、修学支援新制度・専門実践教育給付金制度と本学院独自の学生サポート制度の周知と適切な対応に努めた。さらに就職や学校生活での支援など各関係機関や家庭と連携を取りながら、充実した学生生活を送ることが出来るようにサポートした。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 修学支援新制度	✓ 学生および保護者への周知と適切な対応
(2) 専門実践教育訓練給付金	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 専門実践教育訓練給付金指定講座認定(令和5(2023)年4月から令和8(2026)年3月)次回は令和8(2026)年度に申請予定</li> <li>✓ 令和5(2023)年度は1年生1人と2年生2人が利用している</li> <li>✓ 令和5(2023)年度以降も更新申請中(3年ごとの更新)</li> <li>✓ 教育訓練給付金制度の申請条件に、入学者数に対する就職率が80%以上という条件がある。この制度の再指定および新規で申請する際に重要な事項であるため、退学者を減らすことと就職率100%が大事である</li> </ul>
(3) 学生サポート制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生および保護者への周知と適切な対応</li> <li>✓ 令和5(2023)年度の利用者は 1年生(通学費補助9人・住宅費補助0人・駐車場代補助1人) 2年生(通学費補助6人・住宅費補助1人・駐車場代補助0人) 3年生(通学費補助3人・住宅費補助1人・駐車場代補助1人)</li> </ul>
(4) 就職支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 求人票など情報提供を確実にする</li> <li>✓ 佐世保市歯科医師会との連携(院内見学会・合同就職説明会・就職に関する講話)</li> <li>✓ 佐世保市歯科医師会(福地先生)就職講話 9月28日(木)</li> <li>✓ 佐世保市歯科医師会「合同就職説明会」 10月22日(日)</li> <li>✓ 佐世保市歯科医師会との協議会 12月8日(金)</li> <li>✓ 院内見学会(3年生) 11月～随時</li> <li>✓ 卒業生2人(39期生・40期生)による講話 9月28日(木)</li> <li>✓ 面接指導および就職試験報告書の作成と有効活用</li> <li>✓ 就職に関しては、市内就職者を増加させるために次年度は2年生も参加させる</li> </ul>
(5) スクールカウンセラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 毎週月曜日午後1時にカウンセラーの来校、秘密の遵守</li> <li>✓ 生活相談に関しては、随時、生活相談員と連携した早めの対応</li> <li>✓ 新入生個人面談期間 4月20日(木)～5月2日(火)</li> <li>✓ スクールカウンセラー紹介と説明および相談アンケート実施 5月9日(火)</li> <li>✓ 2年生学生面談 6月中</li> <li>✓ 学生健康診断 4月27日(木)</li> <li>✓ 生活指導相談役に学校外(通学中)での不安や困りごとにも対応して頂いており助かっている</li> <li>✓ スクールカウンセラーは、学生や職員にとって大変心強い存在です。今後も継続して頂きたい</li> </ul>
(6) 学生自治活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生主体行事の企画運営および自治会活動の活性化(学園祭、レクリエーション、クリスマス会、地域行事、地域清掃等への取組)</li> <li>✓ 新入生歓迎会 4月6日(木)</li> <li>✓ 1・3年生交流会 4月6日(木)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1・2年生交流会 4月27日(木)</li> <li>✓ 2・3年生座談会 10月30日(月)</li> <li>✓ 1・2年生座談会 11月1日(水)</li> </ul>
(7) 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有</li> <li>✓ 保護者面談の実施 1年(7/3～8/5),2年(7/3～7/29),3年(8/1～8/28)</li> </ul>

## (6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 学園内の国際交流・留学生支援活動の依頼に対して協力	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 国際交流・留学生支援への協力	✓ 特になし

## (7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 魅力的で効果的な情報を積極的に発信した。今後は、学生による情報発信も取り入れるなど、高校生や保護者のニーズに合わせた情報を発信する。全ての取組において外部の情報を収集しながら見直しと改善を図る。</li> <li>✓ 地域行事への参加やブラッシング指導等で広報活動が出来た。今後は近隣の高校でのブラッシング指導を計画する。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 進路ガイダンスへの参加と内容の見直しは随時実施している</li> <li>✓ 学校案内パンフレットの見直しは今年度変更なし</li> <li>✓ 進学情報誌および新聞広告の見直しをした</li> <li>✓ 同窓会への情報発信(LINEの利用)</li> <li>✓ ホームページの更新 18回</li> <li>✓ Instagramの更新 31回(フォロワー数 396→465)</li> <li>✓ 路線バス(西肥バス)でのバス停前での車内アナウンス</li> <li>✓ バス停名を「藤原橋」→「藤原橋・九文専門学校前」</li> <li>✓ 県内の新聞社・テレビ局への取材要請</li> <li>✓ テレビ佐世保:入学式、戴帽式(スポットインサセボ放映)</li> </ul>
(2) オープンキャンパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年間8回実施(内容を変えて実施)</li> <li>✓ 高校生参加者の目標数は年間80人(高校3年生は60人)以上としていたが年間54人(高校3年生は42人)の参加となった</li> <li>✓ 案内用ポスターおよびチラシ作製・配布</li> <li>✓ HPから参加申込ができるようにしている</li> <li>✓ 今年度は送迎バスの準備は、していない</li> </ul>
(3) 体験入学	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 体験入学5校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐世保東翔高校1年生(16人) 6月21日(水)</li> <li>・清峰高校1年生(5人) 6月13日(火)</li> <li>・九州文化学園中学校2年生(16人) 9月29日(金)</li> <li>・北松農業高校1年生(6人) 10月18日(水)</li> <li>・九州文化学園高校1年(44人) 3月13日(水)</li> </ul> </li> </ul>
(4) ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 参加するガイダンスを見直した</li> <li>✓ 長崎県各種学校専修学校主催 進学ガイダンス 10月27日(金)</li> </ul>
(5) 高校訪問	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高校訪問 52校(長崎県47校・佐賀県5校) 5月22日～6月14日 内容:新年度挨拶、入学お礼、本校就職状況、オープンキャンパス案内、学生サポート制度、募集要項、在校生ポスター、学費比較、指定校推薦通知書等</li> <li>✓ 県内の離島高校へ郵送 13校へ6月16日・20日に郵送 内容:学生サポート制度、本校就職状況、オープンキャンパス案内、募集要項、ポスター</li> <li>✓ 九州文化学園高校オープンスクール保護者説明会での本校説明 7月25日(火) 7月26日(水) 8月23日(水)</li> <li>✓ 高校訪問 9月19日(火) 10月4日～6日 内容:10/27高校教員との意見交換会案内</li> <li>✓ 高校訪問 11月8日(水)9日(木) 内容:合格通知および情報交換</li> </ul>
(6) 歯科医師会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ オープンキャンパス案内ポスターを各医院に貼付のお願い</li> <li>✓ テレビ佐世保:歯磨きのポイント、オープンキャンパス案内(学生出演、8020推進隊)</li> </ul>

(7) 指定校推薦制度	✓ 指定する高校の見直しを実施した
-------------	-------------------

## (8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 建学の精神をベースとした教育活動の展開をするために、九州文化学園基本スタンスを実践に結び付ける意識と日々の研鑽が必要である。そのため、職員は年2回以上の研修会や講習会等に参加し、そこで得た知識や情報を全職員で情報を共有できるようにした。また、法人本部総務・人事課など学園内の他部門とも人事に関する情報の共有を図った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 指導力向上のための研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 講師会総会 講師12人参加、理事長、教職員 4月1日(土)</li> <li>✓ 全衛協九州地区会(宮崎) 9月9日(土)</li> <li>✓ 専門学校教職員の研修等推進のためのオンラインセミナー Zoom 2月2日(金)</li> </ul>
(2) 学校運営に関する研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 県専各連研修会参加・高校教員との意見交換会参加</li> <li>✓ 教育に関する企業の研修会等の開催</li> <li>✓ 講師会総会 4月1日(土)</li> <li>✓ 高等学校教員向け進路ガイダンス(県専各連)Zoom 10月27日(金)</li> <li>✓ 長崎県専各連理事会・総会(長崎) 6月27日(火)</li> </ul>
(3) 研修会の情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全国歯科衛生士教育協議会との連携</li> <li>✓ 他の教育機関および学園内での連携</li> <li>✓ 学園内の連携による研修会の開催および研修会の情報共有</li> </ul>
(4) 学園内での研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 合理的配慮に関する研修会(長崎国際大学) 8月25日(金)</li> <li>✓ 茶道の指導に関する研修会(長崎国際大学) 8月7日(月)</li> <li>✓ 茶道お点前稽古(長崎国際大学) 9月12日、13日、15日</li> <li>✓ 茶道ご宗家によるお点前ご指導 10月28日(土)</li> </ul>
(5) 法人本部総務・人事課との情報共有	✓ 法人本部総務・人事課との人事に関する情報の共有を図った

## (9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 佐世保市歯科医師会との連携では、市内就職率向上が最重要課題であるため、担当者連絡協議会を年3回開催し、市内就職のための講話や就職説明会・院内見学会などを実施した。またブラッシング指導も歯科医師会の協力を得て、市内の小中学校で実施することで歯科衛生士の職業理解と将来の学生募集に繋げた。</li> <li>✓ 各歯科医院での募集に関するポスターの貼付や、同窓会の連絡網を利用し学生募集についての案内などの情報発信を行った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 保護者等家庭との関係性強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1・2年生保護者面談 7月3日(月)～8月5日(土)</li> <li>✓ 3年生保護者面談 8月1日(火)～8月28日(月)</li> <li>✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有</li> <li>✓ 保護者面談と別に、成績や学校生活で気になる学生には各担任から保護者へ密に連絡を取り情報共有を行っている。</li> </ul>
(2) 佐世保歯科医師会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ デンタルフェスティバルでの補助活動 学生22人、職員3人 6月4日(日)</li> <li>✓ 8020運動の推進 8020推進隊 TV撮影 6月16日(金) 放映 6月23日</li> <li>✓ 歯科医院でのポスター貼付</li> <li>✓ 佐世保市歯科医師会(福地先生)就職講話 9月28日(木)</li> <li>✓ デンタルフェスティバル関係団体合同会)</li> <li>✓ 品川光春先生旭日双光章受賞祝賀会 10月15日(日)</li> <li>✓ 佐世保市歯科医師会「合同就職説明会」 10月22日(日)</li> <li>✓ 佐世保市歯科医師会との協議会 12月8日(金)</li> <li>✓ 院内見学会(3年生) 11月～随時</li> </ul>
(3) 同窓会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 同窓会連絡網の整備</li> <li>✓ LINEを利用した学生募集などの情報発信</li> <li>✓ 一華会役員会(役員3人+職員3人) 9月23日(土)</li> <li>✓ 卒業生2人(39期生・40期生)による講話 9月28日(木)</li> <li>✓ 同窓会役員会を2回実施した。今年度は同窓会よりAEDを寄贈して頂いた</li> </ul>
(4) 地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 南地区自治協議会および藤原町2組との連携</li> <li>✓ 地域清掃ボランティア活動</li> <li>✓ 南地区コミセン祭り 11月12日(日)</li> <li>内容：歯科衛生士体験コーナー、紙芝居、塗り絵、ヨーヨー釣り</li> </ul>

(5) 地域の小中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園歯磨き教室 6月6日(火)</li> <li>✓ 木風小学校2年生 町中探検隊10人+4人来校 6月20日(火)</li> <li>✓ 九州文化学園小学校ブラッシング指導 6月29日(木)</li> <li>✓ 三川内保育園歯磨き教室 8月23日(水)</li> <li>✓ 九州文化学園中学校2年生体験入学 9月29日(金)</li> <li>✓ 福石小学校ブラッシング指導 10月20日(金)</li> <li>✓ 祇園小学校5年生 職業体験授業 11月14日(火)</li> <li>✓ 祇園中学校ブラッシング指導 11月21日(火)</li> <li>✓ 平戸高校ブラッシング指導 11月24日(金)</li> </ul>
(6) 佐世保市教育委員会学校保健課との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ デンタルフェスティバルでの補助活動</li> <li>✓ 「歯と口の健康週間」図画・ポスター展の後援および表彰式への協力</li> </ul>

## (10) 学園内の連携促進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本校の行事および情報等も学園内に発信し、理解と協力を得ることができた。</li> <li>✓ 茶道大会は4年ぶりに学生(1年生)と職員も参加した。</li> <li>✓ SDGsは、学生を中心に計画し、歯科に関する内容で参加させてもらっている。今後も継続する。</li> <li>✓ 法人本部および学園内の他部門の行事・会議・研究活動へ積極的に参加および協力をした。行事ごとに担当責任者を決め全職員で情報を共有し対応する組織の体制を作った。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学園責任者連絡会等 学校法人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学校法人九州文化学園辞令交付式(法人本部) 4月1日(土)</li> <li>✓ 会計監査(法人本部) 4月3日(月)</li> <li>✓ 学園責任者連絡会 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月24日(月) 法人本部</li> <li>② 7月3日(月) 九州文化学園小中学校</li> <li>③ 9月4日(月) 長崎短期大学</li> <li>④ 11月6日(月) 長崎国際大学</li> <li>⑤ 1月5日(金) 長崎短期大学</li> <li>⑥ 3月4日(月) 法人本部</li> </ul> </li> <li>✓ 学校法人九州文化学園 評議員会(長崎国際大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 5月26日(金) ② 9月29日(金) ③ 12月1日(金) ④ 3月29日(金)</li> </ul> </li> </ul>
(2) 学園募集担当者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 会議の内容を全職員で共有(議事録等の回覧)</li> <li>✓ 本校の現状と今後の計画を他部門に発信し、理解と協力を得た</li> <li>✓ 他部門との相互協力体制を図った</li> <li>✓ 募集担当者会(長崎短期大学) 4月28日(金)</li> </ul>
(3) SDGs 連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 会議の内容を全職員で共有する(議事録等の回覧)</li> <li>✓ 年間の行事計画の設定と学生・職員への周知</li> <li>✓ 学園 SDGs 担当者会議 Zoom で4回実施</li> <li>✓ 九州文化学園 SDGs 推進イベント(長崎国際大学) 3月15日(金)</li> </ul>
(4) 茶道大会等	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ハイスクール茶会(ハウステンボス) 職員4人参加 5月20日(土)</li> <li>✓ 波佐見茶会(3人参加) 6月24日(土)</li> <li>✓ 長崎短期大学 白蝶祭お茶席(2人参加) 10月22日(日)</li> <li>✓ 長崎国際大学開国祭 自明堂(2人参加) 11月4日(土)</li> <li>✓ 長崎短期大学茶道大会(職員4人、1年生38人参加) 12月10日(日)</li> </ul>
(5) ブラッシング指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園歯磨き教室 6月6日(火)</li> <li>✓ 九文小ブラッシング指導 6月29日(木)</li> </ul>
(6) 九州文化学園高校進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 九州文化学園中学校2年生(16人) 9月29日(金)</li> <li>✓ 九州文化学園高校体験入学 3月13日(水)</li> <li>✓ 九州文化学園高校オープンスクール保護者説明会での本校紹介 7月25日(火) 7月26日(水) 8月23日(水)</li> </ul>
(7) 他部門の行事・調査研究等	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新任者対象九文キャンパス・ツアー来校 4月8日(土)</li> <li>✓ 学園納涼会 7月28日(金)</li> <li>✓ 長崎国際大学の薬学部からの調査研究は、全職員と全学生で協力している</li> </ul>

## (11) SDGs の推進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 職員と学生が地域と連携した SDGs 推進活動を意識し、学生自治会を中心に年間の活動計画を立てて実行し、さらに改善して実行するように心がけた。</li> <li>✓ 地域に出かけて、様々なイベントに参加し、SDGs 推進にも主体的に取組む体制をつくることができた。特にブラッ</li> </ul>	



シング指導に関しては、学生が主体となり実行できている。今後も継続することで本校のアピールにつながると思う。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) SDGs 推進の周知と学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年度初めに SDGs 推進の周知。ホームルームで資料等配布</li> <li>✓ 3月15日のSDGs推進行事への参加</li> <li>✓ SDGs イベントのポスター配布(学生・保護者・地域)</li> <li>✓ SDGs については常に意識を持たせるよう校舎内にも掲示をしている。</li> </ul>
(2) ブラッシング指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園歯磨き教室 6月6日(火)</li> <li>✓ 九州文化学園小学校ブラッシング指導 6月29日(木)</li> <li>✓ 三川内保育園歯磨き教室 8月23日(水)</li> <li>✓ 九州文化学園中学校2年生体験入学 9月29日(金)</li> <li>✓ 福石小学校ブラッシング指導 10月20日(金)</li> <li>✓ 祇園小学校5年生 職業体験授業 11月14日(火)</li> <li>✓ 祇園中学校ブラッシング指導 11月21日(火)</li> <li>✓ 平戸高校ブラッシング指導 11月24日(金)</li> </ul>
(3) 8020 運動推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 佐世保市歯科医師会・テレビ佐世保と協力して実施</li> <li>✓ テレビ佐世保 8020 推進隊においては、学生が、メディアを通して歯磨きのポイントを伝達し、オープンキャンパスの案内等を行った。</li> </ul>
(4) デンタルフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 佐世保市歯科医師会・教育委員会と協力した。</li> <li>✓ デンタルフェスティバル 6月4日(日) 学生22人、職員3人(表彰式：校長)</li> <li>✓ デンタルフェスティバル打ち合わせ会議への参加</li> </ul>
(5) 地域行事への参加・地域清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 佐世保南地区コミセン祭りへの参加</li> <li>✓ 地域清掃活動を実施</li> <li>✓ 佐世保南地区自治協議会賛助会員として地区自治会への協力</li> </ul>
(6) ペットボトルキャップ回収	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生自治会を通してペットボトルキャップを回収してワクチンに交換する</li> </ul>
(7) 高校生体験入学	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 体験入学5校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐世保東翔高校1年生(16人) 6月21日(水)</li> <li>・清峰高校1年生(5人) 6月13日(火)</li> <li>・九州文化学園中学校2年生(16人) 9月29日(金)</li> <li>・北松農業高校1年生(6人) 10月18日(水)</li> <li>・九州文化学園高校1年(44人) 3月13日(水)</li> </ul> </li> </ul>

## (12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 校納金については、令和5(2023)年度入学生から値上げを実施した。修学支援新制度の適切な対応に心がけた。また、本校独自の学生サポート制度も次年度に向けて検証を行い今後の在り方を検討していく。</li> <li>✓ 電気料金やガス料金との値上げが続いているので、毎月の料金の見える化を行い省エネについて職員や学生に浸透させた。</li> <li>✓ 令和5(2023)年度から3年間、職業実践専門課程促進補助金制度が長崎県でも実施されるので、この制度を利用した実習や研修を計画し実施した。</li> <li>✓ 文書の適切な管理および情報セキュリティポリシーの徹底もしっかりと行った。</li> <li>✓ ウィルス感染予防対策に関してもこれまでと同様に関係機関と連携しながら対応した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 予算の適切な執行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画に則した予算編成と適正な執行に努めた。</li> <li>✓ 募集定員の確保</li> <li>✓ 内部監査 12月12日(火)</li> <li>✓ 内部監査で指摘された事項は年度内に修正した。</li> </ul>
(2) 修学支援新制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度の入学生から校納金が2万円上がるため、修学支援新制度の適切な対応に心がけた。</li> </ul>
(3) 学生サポート制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和3(2021)年度から導入している。次年度も継続する。</li> </ul>
(4) 職業実践専門課程促進補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度から3年間、職業実践専門課程促進補助金制度が長崎県でも実施されるので、この制度を利用した実習や研修を計画し実施した。</li> </ul>
(5) エコキャンパス事業など検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 太陽光発電システムを検討したが、今年度は見送りとした。</li> <li>✓ 電気料金の見直しを行い、業者を変更した。</li> </ul>

(6) 規則・規程の適切な管理と運用体制の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年度当初に規則・規程や文書の適切な管理と運用体制の確認を行い、年間を通して見直しおよび確実な整備を行った。</li> <li>✓ 現状に合った学校危機管理マニュアルを作成し周知を図った。</li> </ul>
(7) 情報セキュリティマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 情報資産管理台帳の見直しと整理</li> <li>✓ 情報セキュリティポリシーの周知徹底</li> </ul>
(8) 学内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学内メール便の有効活用</li> <li>✓ 学内 Gmail での適切な情報データの共有</li> <li>✓ 共有フォルダの見直しと整理</li> </ul>
(9) ウィルス感染予防対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 関係機関との連携強化</li> <li>✓ 新型コロナウイルス感染予防の徹底</li> <li>✓ 正しい情報の収集と適切な判断・対応・学生の授業実習に支障が出ないようにする</li> <li>✓ インフルエンザワクチン接種(校内) 11月10日(金)</li> <li>✓ コロナワクチン接種</li> <li>✓ ウィルス感染予防については、学内で行っているワクチン接種を積極的に受けるよう呼びかけをした。基本的な予防として校舎内の換気を心がけた。</li> </ul>

### (13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安全第一主義で施設設備の点検を実施した。異常または不安な箇所が出た場合は、専門業者と連絡をとり早めの対応に心がけた。また急を要しない場合には中長期的に修繕・修理・更新等の計画を立て実行した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 施設設備の定期点検実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 毎日の清掃時間における点検の実施</li> <li>✓ 校舎周り緊急点検 6月9日(金)</li> <li>✓ 消防署立ち入り検査 6月9日(金)</li> <li>✓ 貯水槽清掃 8月6日(火)</li> <li>✓ 消防設備点検 8月21日(月)</li> </ul>
(2) 給湯器取替工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1階茶道室 給湯器取替工事 10月26日(木)</li> </ul>
(3) ICT 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ iPad 全員購入に関して、他校の利用状況など、情報を入れながら慎重に対応する必要がある。</li> </ul>
(4) LED 照明器具取替	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年2月に校舎内の照明器具の90%をLEDに取替工事を終了した。</li> </ul>
(5) 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 校舎周りの樹木剪定と清掃</li> <li>✓ 四季の草花を楽しめる環境づくりに取り組んだ。</li> <li>✓ 日頃から校舎周りを清掃しているので気持ちが良い。</li> <li>✓ 季節の花も学生が楽しみにしている。</li> </ul>
(6) 施設管財会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実施していない</li> </ul>

### (14) 点検評価

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度事業計画に基づき教育活動および学校運営を展開していく中で、テーマや行事ごとに現状と課題を把握し整理して次の取組までに改善するように努めた。具体的には「いつまで、だれが、どこまで取り組むのか」実施する時期や組織体制を明確にして実行した。学生や職員の自己評価および学校関係者評価委員の評価項目の内容も現状に合ったものであるか検証し、見直して実施した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学校関係者評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第1回学校関係者評価委員会 8月25日(金)</li> <li>✓ 第2回学校関係者評価委員会 2月2日(金)</li> </ul>
(2) 学生自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自己評価(学生91人)実施 12月12日(火)</li> </ul>
(3) 職員自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自己評価(職員8人)実施 1月10日(水)</li> </ul>
(4) 学事振興課への報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度学校評価報告書を3月上旬に提出</li> </ul>
(5) ホームページ掲載	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度学校評価結果を3月下旬に本校ホームページに掲載</li> </ul>
(6) 事業報告と事業計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和6(2024)年度事業計画書は3月初旬に作成し報告</li> <li>✓ 令和5(2023)年度事業報告書は4月下旬に作成し報告</li> </ul>

### (15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 該当なし</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題

## 9.法人事務局

### 1) 経営理念・経営目標

経営理念	学園全体として健全な経営状態と安定した財務基盤の確立を目指す。
経営目標	学園全体として、日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標による経営状態「A2」を目指す。

### 2) 1年間の総括と評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和5(2023)年度の経常収支差額はマイナスとなり、安定した財務基盤の確立に対して厳しい結果となった。令和6(2024)年度は黒字化を必達目標とし、収支均衡を図るための当初予算を編成した。</li> <li>✓ 一方で、学園の成長に必要な人事政策、先行投資、環境整備については、限られた資源を最大限に有効かつ効率的に配分するよう努めた。</li> </ul>
---

### 3) 中期計画基本方針に対応した法人事務局の取組実績

1	成長力の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 業務効率化と特色ある教育の実現に向けてIT・DXを活用し、成長力を確保するため、各部門の現状調査を行い、課題を認識し次年度におけるインフラ整備の予算化を行った。</li> <li>✓ 学園責任者連絡会を始めとする各種連携会議を開催し、部門間の連携を強化して成長力の向上に努めた。</li> </ul>
2	教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 限られた予算の中で、各部門に必要な人員や資金を配分し、各部門の教育力向上を支援した。</li> <li>✓ 高校部門には、県立高校長の経験を有する副校長を新たに採用した。</li> </ul>
3	約定返済の確実な履行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 約定に基づき、当年度内に返済が必要な借入金元本及び利息の支払を確実に行った。</li> <li>✓ 安定した財務基盤の確立に関しては、前年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた在籍者数の未回復により、経常収支差額が落ち込み、中期計画で設定した目標を達成できなかった。</li> </ul>

### 4) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ガバナンス・コードに基づく運営を行い、年度末の年次点検の際に法人事務局部門の遵守状況を確認した。</li> <li>✓ 年度の初めに全教職員に事業計画書を共有し、学園および各部門の年度方針や取り組みを認識し理解させることで、内部質保証につながる組織の醸成を図った。また、新入教職員に対してはキャンパス・ツアーを実施し、学園が設置する各学校を訪問させることで、建学の精神の浸透を図った。さらに、法人WEBサイトに新設した採用情報セクションに「九州文化学園の求める人材像」を明記して掲載した。</li> </ul>
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各部門の教育改革を目的とする各種計画に必要な資源の確保と配分に努め、学校運営に対する支援・連携を行った。</li> <li>✓ 各部門が設定した「重点教育課題」の進捗状況について、学園責任者連絡会や事務局長会で確認し、共有を行った。</li> </ul>
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 内部進学促進や学園設置校への入学支援制度の案内などを通じて、教職員の学園に対する意識啓発を行った。</li> <li>✓ 長崎国際大学の教育研究活動環境の整備(12月理事会)、および次年度のハイスクール茶会(3月理事会)を目的とする寄付について、理事会で審議・承認し、寄付の推進を図った。</li> <li>✓ 理事長および法人本部長が佐世保ロータリー会員として例会に参加するなど、地域経済産業界との連携を推進した。</li> </ul>
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 外部の専門アドバイザーへ業務委託を行い、IT・DX化を推進するために学園および各部門の現状調査と課題確認を実施した。その結果、マスタープラン案の提示を受け、次年度のインフラ整備のための予算計上を行った。</li> <li>✓ 長崎国際大学が連携する西九州大学でDX化を推進した責任者を講師に迎え、SD(2月27日、長崎国際大学)を開催し、大学を中心に教職員の知識向上を図った。</li> </ul>
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 公式サイトに新たに設置した「採用情報コンテンツ」において、求める人材、学園の組織、スタッフインタビュー等を掲載し、働く場としての魅力発信に努めた。</li> <li>✓ 学園内募集担当者連絡会において、各部門の募集広報の実績や計画を共有した。また、WGを開催し、内部進学促進に努めた。</li> </ul>
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 過年度の影響により学園全体での学生数等が未回復であったため、年度末時点での経常収支差額は△253百万円、資金残高は928百万円と厳しい状況であった。しかし、入学者の回復基調および予算効率化の推進により、次年度の経常収支差額はプラスとなる見込みである。一方で、中期計画3年目を</li> </ul>

	<p>経過し、当初の財務目標と実績に差が生じているため、3月理事会で中期計画の改正を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 不採算事業体に対しては、法人本部長や法人事務局長が予算や人員の精査を求め、対応策の相談に乗るなど、経営改善に努めた。</li> <li>✓ 各期の仕事始めの会や仕事納めの会などの節目において、理事長や本部長等が出席し、理念や経営方針、現状、課題等について直接教職員に説明し、方針の伝達を行った。</li> </ul>
学園内の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園内で食物および福祉分野の連携会議を開催し、内部進学や小学生・中学生の興味関心を高める取り組みを実施した。</li> <li>✓ 事務局長会や会計担当国会議を開催し、財務に関する課題を共有することで、財務の円滑化に努めた。</li> </ul>
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 私立学校法改正に基づき、寄附行為改正に向けた検討を進めた。</li> <li>✓ 中期計画と年次の事業計画、事業報告を連動させて、中期計画のPDCAサイクルを実行した。</li> <li>✓ 観光分野および理系分野における新規事業の実現可能性について調査・検討を行った。</li> </ul>

## 5) 主要情報

### (1) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
辞令交付式	令和5(2023)年4月1日	
新任者キャンパス・ツアー	令和5(2023)年4月8日	
定例異動発令	令和5(2023)年6月1日	
内部監査(科研費等モニタリング)	令和5(2023)年 8月22日、25日	被監査研究者： 長崎国際大学5人
内部監査(定期監査)	令和5(2023)年9月12日	被監査部門： 法人事務局
内部監査(科研費等モニタリング)	令和5(2023)年11月17日	被監査研究者： 長崎短期大学2人
内部監査(定期監査)	令和5(2023)年12月12日	被監査部門： 調理師専門学校・歯科衛生士学院
九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント2024	令和6(2024)年3月15日	

### (2) 主な会議等の開催実績

会議等名称	開催回数	開催日
評議員会	4回	第1回(5/26)、第2回(9/29)、第3回(12/1)、第4回(3/28)
理事会	6回	第1回(5/26)、第2回(5/31)、第3回(9/29)、第4回(12/1)、第5回(1/26)、第6回(3/28)
監事会	2回	第1回(5/24)、第2回(3/28)
学園責任者連絡会	6回	第23回(4/24 法人本部)、第24回(7/3 小中学校)、第25回(9/4 大学)、第26回(11/6 大学)、第27回(1/5 短大)、第28回(3/4 法人本部)、
事務局長会	11回	第1回(4/21)、第2回(5/18)、第3回(6/15)、第4回(7/20)、第5回(9/21)、第6回(10/19)、第7回(11/16)、第8回(12/21)、第9回(1/18)、第10回(2/15)、第11回(3/21)
会計担当国会議	6回	第1回(6/23)、第2回(9/1)、第3回(10/13)、第4回(11/13)、第5回(12/26)、第6回(3/12)
学園ハラスメント防止等委員会	0回	該当事案なし
法人事務局情報セキュリティ委員会	1回	第1回(3/25)
長崎県内大学・短期大学等理事長・学長会(外部会議)	1回	第1回(1/25 長崎大学)

## 6) 年度の事業計画の進捗・達成状況

### (1) 法人部門の業務分野別の基本方針

分野名	今年度の基本方針の達成状況
(1) 総務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園経営上の課題を迅速に把握し、ガバナンス強化および私立学校法の改正に向けた対応（理事・評議員の選任等）について、中長期的な戦略を検討するため、専門家も交えて検討の機会を設けた。また、各部門間の課題解決へのサポートに努めた。</li> <li>✓ 総務・人事課が所掌する業務を改善するため、ICT化やペーパーレス化を意識し、打ち合わせ等ではデータを利用するほか、共有フォルダ内の整理など、業務効率化および経費削減に向けて取り組んだ。</li> </ul>
(2) 人事分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教員については、学園の根幹となる教育力および教育体制に関わる重大事項であるため、各部門と連携を取りながら募集活動を行った。しかし、年々厳しくなる教員不足の中、優秀な人材確保は本学園にとって重要課題となっている。</li> <li>✓ 職員については、業務多様化に伴い増員の要望もあるが、組織の見直しや業務の効率化を進めることで、円滑な業務を行える体制づくりを目指し、各部門との調整に取り組んだ。</li> <li>✓ 申請業務や年末調整などで電子申告を導入し、電子化を進めることで円滑な運用と業務の効率化を図った。</li> </ul>
(3) 財務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年の漢字は『税』ということで令和5(2023)年10月1日より「インボイス制度」（適格請求書等保存方式）開始に引き続き、令和6(2024)年1月からは、「改正電子帳簿保存法」が施行された。これらのことを受け、会計担当者会議の開催頻度を上げ、担当者間で対応につき共有化を図ってきた。その一方で前述の税制変更から間もないため、学園教職員への認知度を向上させていくことが今後とも求められることを認識している。</li> </ul>
(4) 企画分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 観光分野の改善案件について、関連部門と協同で実現可能性の調査・検討を行った。</li> <li>✓ 学校長、事務局長、分野別の連携会議を開催し、情報や課題の共有、事業の進捗管理を行った。</li> <li>✓ 令和6(2024)年度の事業計画の策定にあたり、各部門の経営課題および教育課題を明確化し、様式の改定と中期財務計画の目標値の改正を行った。</li> </ul>
(5) 監査分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 内部監査は、年2回の定期監査及び研究機関の科研費等モニタリングを通して、本学諸規程や会計ルール及び基準等に照らし、部門の業務遂行状況を検証し、客観的にその適否を評価した。</li> <li>✓ 法人の財務関連規定である「資金運用規則」、「資金運用管理基準」、「財務書類等開示規定」の検証項目を追加し、監査実施要領を整備した。</li> <li>✓ 不正・誤謬及びリスク管理の不備等の発見には至らなかった。</li> <li>✓ 内部監査の3ヶ年(3～5年度)の自己点検を実施。諸規程に基づく部門運営の適正な履行、不統一・不整合の是正、証憑及び記録の徹底を明示した。</li> <li>✓ 内部監査規定等の改廃、新規制定を図り、次年度より従来の定期監査に全部門対象の「テーマ監査」を導入し、内部監査の仕組みを再構築した。</li> </ul>

### (2) 中期計画の確実な実行と進捗状況の把握

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中期計画に基づき年度ごとに当初予算や補正予算を策定し財務数値の比較を提示、事務局長会議では従来の資金収支に加え事業活動も経営指標として取り入れ各部門の予算管理をタイムリーに提示、学園全体の財務状況を精査し日別の資金収支を分析、次年度の財務基盤の確立が課題と認識している。</li> <li>✓ 令和6(2024)年度事業計画には新たに「経営改善施策」を追加し、各部門の施策と目的を明示することとした。</li> <li>✓ 中期計画の進捗を管理し、定例議案として事務局長会で共有、四半期ごとに報告した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 中期計画に基づく適切な予算計画と執行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年度における当初予算・1次補正予算・2次補正予算策定時には、中期計画との財務数値の比較を提示することは、当初計画どおりに実施できた。</li> </ul>
(2) 経常的な収支バランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事務局長会議において、従来の資金収支を軸とした経営指標の資金面の把握・提示は残しつつ、事業活動を新たに経営指標として取り入れ、各部門の予算管理をタイムリーに提示することを行ってきた。</li> </ul>
(3) 安定した財務基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園全体の財務状況を十分に精査・把握し、バランスの取れた資金調達能力を維持すべく、日別の資金収支状況を分析してきた。特に次年度に向けた財務基盤（主に資金面）の確立は、今後の課題であると認識している。</li> </ul>
(4) 令和6(2024)年度事業計	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 様式に「経営改善(健全化)に関する施策」を追加し、各部門に「収入の増加」「支</li> </ul>

画の策定	<p>出の効率化」「人員・業務の効率化」「付加価値向上と広報強化」に関する施策を記載するようにした。</p> <p>✓ 各項目の計画の概要欄に「目的(最終的に成し遂げたい事柄)」を明示するようにした。</p>
(5) 中期計画の進捗状況管理とPDCAの実施	<p>✓ 「中期計画進捗状況管理表」により、「6つの重点戦略」、「学園内の連携促進」、「計画の進捗管理と社会変化への対応」、「5カ年の新規・特別課題」、「将来構想と長期的展開」及び「総合評価」について各部門で評価し、理由と主な実績、次年度に向けた課題を記載した。</p> <p>✓ 計画の進捗管理を各部門の事務責任者が意識するため、毎月の事務局長会において「中期計画・事業計画・事業報告」を定例議案とするとともに、四半期ごとに重点課題や基本方針の進捗状況を報告・共有した。</p>

### (3) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
<p>✓ ガバナンス強化のため、ガバナンス・コードの遵守状況を点検し公表。</p> <p>✓ 私学法改正を考慮し他校の状況を把握しながら改革を検討。</p> <p>✓ 理事会は経営専門家で構成し、理事の責務を明確化して学園の成長と安定経営を支援。理事会や評議員会で法改正状況や経営動向を共有し、監事会での研修や意見交換を実施。</p> <p>✓ 危機管理体制を再整理し、情報セキュリティ強化を図る。</p> <p>✓ 新設・改正法令に対応し、関係各所へ情報共有。</p> <p>✓ 文書保存規程に基づき文書を整理し、次年度以降の廃棄方法を検討。</p> <p>✓ IT・DX 専門アドバイザーと協働して現状調査と課題分析を行い、次年度のネットワーク再構築予算を計上。法人事務局課長打合せで情報共有を促進し、Google カレンダーで職員のスケジュールを共有した。</p>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 私立学校ガバナンス改革への適切な対応	<p>✓ ガバナンス・コードの公表に加え、遵守項目に対する取組の実施状況を年度終了後に全学的に点検し、ガバナンス強化に努めた。また、その結果を長崎国際大学・長崎短期大学のホームページ等で公表することにより、社会への説明責任を果たしている。</p> <p>✓ 私学法の改正を意識し、ガバナンス改革の検討状況を常に把握し、他校の状況も確認しながら、より良い学校運営を目指した。</p>
(2) 理事会の役割、理事の責務を明確にした管理運営	<p>✓ 理事会は、理事長、大学長、高校校長をはじめ、法人本部長、法人事務局長、そして外部理事である地元経済界代表者からなる実質的な経営専門家で構成され、意見交換を行いながら適切に運営を行った。</p> <p>✓ 理事の知識・経験・能力を活かし、教育・研究・経営面について学園の持続的な成長と中長期的な安定経営のため、適切な業務執行を推進できるよう、責務の明確化に努めた。</p>
(3) 理事・評議員・監事の研修とサポート	<p>✓ 理事会や評議員会などの機会を利用して、私学法改正の検討状況や私学の現状、経営の動向について共有し、理解を深める機会を提供した。</p>
(4) 監事会の充実	<p>✓ 監事会の場を利用して監事とのコミュニケーションを図り、より充実したサポートができるよう努めた。また、監事への情報提供(私立学校法の改正等)を密に行い、監事会の中で研修動画等を利用して意見交換や課題把握を行った。</p> <p>✓ 監事会において、年度内に実施する監査について事前通知をするよう働きかけ、より監事監査内容を明確にするよう努めた。</p> <p>✓ 内部監査室は通年、監事と対面またはメール等での打合を実施し、記録を残し、監査における方向性の確認及び情報の共有を図った。</p>
(5) 内部監査の充実	<p>✓ 不正・誤謬のリスクと統制管理マニュアルの提示はできたが、監査・被監査双方に積極的な対応はなかった。</p> <p>✓ 研究機関主導の科研費等モニタリングを合同実施。公的研究費の適正な運営・管理のための牽制を行った。</p> <p>✓ 内部監査室は監査法人の令和4(2022)年度実査・理事者報告に監事とともに参画、但し、今年度は監査法人の契約締結遅延の影響で三様監査の枠組みが取れず、監査資料の提出に留まった。</p>
(6) 危機管理体制の向上と適切な運用	<p>✓ 災害、事件事故、感染症、情報漏洩、サイバー攻撃などに対する危機管理体制の再整理・見直しを行い、組織運営体制を強化した。</p> <p>✓ 危機管理体制の一環として、本年度も情報セキュリティの強化を念頭に、サイバーリスクに関する診断レポートを活用し、業者等と連携してより良い環境を整えた。</p>

(7) 新設・改正法令等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 規則管理システム等を活用し、改正法令等に対して各部署で適切な対応ができるように、実際に操作方法を説明するなどサポートや整備を行った。</li> <li>✓ 新設・改正法令等に関する情報収集を行い、関係各所への連絡および情報共有を通じて、適切な対応ができるよう努めた。</li> </ul>
(8) 文書・規則等の適切な管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 文書保存規程等に基づき、文書の保存期限などを適切に把握し、現在保管されている文書を各部署と連携して整理した。次年度以降の課題として、その整理された文書の廃棄方法等について検討していきたい。</li> </ul>
(9) IT化・DX化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ IT・DX 専門アドバイザーに業務を委託し、学園全体および各部門の現状と課題の調査を実施。ネットワーク再構築(第1段階)に向けた次年度の予算化を行った。</li> <li>✓ DX化による業務効率化の一環として、次年度からのストレスチェックの Web 化に伴い、各部門のメールアドレス付与状況を確認し、その整備を行うなど、情報伝達基盤の整理に努めた。</li> </ul>
(10) 事務局内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法人事務局課長打合せにおいて、学園内外の事項について法人本部内での情報共有の必要性を報告。また、法人事務局の全職員に周知が必要な事項についてはメールリストを活用した。</li> <li>✓ Google カレンダーを活用し、法人事務局職員のスケジュールを共有した。</li> </ul>

#### (4) 人事戦略と人件費の適正化計画

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教員人事では、資格要件や学びのビジョンに基づく人材確保に努めたが、教員不足が課題となった。教職員の人事考課を実施し、目標設定と振り返りの機会を提供。人事異動では、各部門と協議の上、ジョブローテーションを実施。人事情報管理システムの導入を検討し、人材活用の情報提供も行った。新入教職員の研修を実施し、働き方改革にも対応した。</li> <li>✓ 人件費管理では、配置基準に基づく配置を行い、業務の分担や人件費削減を推進。総務・人事課の業務理解促進と労務業務の分担を進めた。</li> <li>✓ 採用情報コンテンツを法人 WEB ページに設置し、学園の魅力を発信した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 人事戦略と人事制度の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教員人事については、必要な人材の資格要件や、今後学園が目指す学びのビジョンを達成するための人材要件を各部門と協議し、学園の発展に寄与できる人材確保に努めたが、昨今の教員不足の状況により教員確保が大変困難な状況にある。</li> <li>✓ 教職員の人事考課について、教員は長崎国際大学および長崎短期大学において実施し、また事務職員は全部門で実施し、教職員共に自身の目標設定および振り返りの機会とした。上長や上司との面接を通して、互いの現状把握に加え、助言等を受けられる機会とした。</li> <li>✓ 職員の配置については 6 月の定例人事異動の際に、必要な人材を各部門と協議の上、ジョブローテーションも考慮し実施した。</li> </ul>
(2) 人事情報管理の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人事情報に関するシステム導入については、オンラインで説明を受けるなど情報収集に努め、今後の導入可能性を検討した。</li> <li>✓ 人材の他部門での活用可能性については、保有している資格・免許を勘案し、次年度の担当や非常勤を決める際などに情報提供を行った。</li> </ul>
(3) 員数・配置計画に基づく人件費の管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教員に関する基準や要件に基づく配置や強化事業に関する採用、事務職員の年齢構成の適正化や管理職育成、専門人材の確保に留意し、学園や設置校が中長期的に発展し、安定した人員構成となるような構成を目指し、各部門と連携を図った。</li> <li>✓ 人件費抑制においては、パート雇用も含めた採用に取り組んでいるが、同時に、教育機関である本学園においては、資格を有する教職員の採用という条件を有しているため、安心・安全、教育課程、資格取得・国家試験の合格率など、今後も選ばれ続ける教育機関であるために必要不可欠な人材確保が必要である。</li> <li>✓ 大学における部活動及び高校におけるバス運行について、一部業務委託による業務の分担や人件費削減に努めた。</li> </ul>
(4) 人材開発の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新入教職員の辞令交付式後、理事長より学園創立・沿革の概要について講話を行うことで、九州文化学園の一員であることの意識づけを行った。</li> <li>✓ 新入教職員に対してキャンパス・ツアーを実施し、建学の精神の具現化である茶道について講話を行うと共に、各部門の概要を説明することで、学園に対する理解を深めた。</li> <li>✓ 新入職員への研修並びにメンター制を導入し、各部門での状況並びに状況を把握し、情報を共有することができた。</li> <li>✓ 教職員の建学の精神の尊重と共有に係る茶道の研修については、新型コロナウイルス</li> </ul>

	スが五類移行はしたものの、感染拡大防止の観点から本年度も延期とした。
(5) 働き方改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和4(2022)年2度にわたる育児・介護休業関係法令の改正・施行に伴い、規則の整備を行い、「子の看護休暇」及び「介護休暇」の周知を図った。休暇を時間単位で取得できることにより、必要に応じた取得が可能のため、育児・介護と仕事の両立支援は教職員に活用されている。年齢や属性など多様な背景を持つ教職員にとって働きやすい環境となり、休暇取得を希望する教職員にとっても、必要な時間だけ休暇を取得して残りの時間を業務に充てられるようになったことで、突発的に発生する休暇取得希望を有効に取得できると共に、共に働く教職員の業務負担も軽減できるようになった。</li> <li>✓ 働きやすい環境下で、教育機関である本学園がSDGsの掲げる「質の高い教育を行う」機会の提供につなげることで、育児休業・介護休業ともに、仕事の進め方・働き方を見直すきっかけとなり、よりよい労働環境づくりに寄与できている。</li> </ul>
(6) 人事・労務業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 総務・人事課の課長及び係長が共済業務に関する研修会に参加し、業務の理解促進を行った。また労務業務について課内で分担を進めた。</li> <li>✓ 令和4(2022)年度年末調整に係るシステムを導入し、2年目となった今年は教職員の利用も前年度に比べスムーズとなり負担軽減となった。</li> </ul>
(7) 採用情報コンテンツ設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法人 WEB ページに採用情報コンテンツを新規設置。求める人材、学校法人の仕事、メンバー紹介、待遇・福利厚生、九文のキャリア形成を掲載することで、求職者に対する学園の魅力や特徴などを発信した。</li> </ul>

## (5) 財務戦略と経費の効率化計画

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年度は大型の先行投資案件はなかったが、次年度以降は損益分岐点を把握し借入金の約定返済を考慮して実行を吟味する。従来の資金収支に加え事業活動を経営指標に取り入れ、各部門の予算管理をタイムリーに実施し、補助金の申請手続きを財務課が支援、借入金返済と利率見直しを行い、余剰資金の運用は見送った。会計システムのクラウド化で効率化を図ったが、学園全体のネット環境の改善は未解決。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 財務戦略の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 今年度における大型の先行投資案件は、計画がなかった。次年度以降案件があれば、計画において損益分岐を把握し、後述の借入金の約定返済を考慮しつつ、実行を吟味していく。</li> </ul>
(2) 予算・資金の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 従来の資金収支を軸とした経営指標の資金面の把握・提示は残しつつ、事業活動を新たに経営指標として取り入れ、各部門の予算管理をタイムリーに行うことは実践できた。</li> </ul>
(3) 外部資金の確保・調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各部門における補助金の申請にかかる手続きを財務課にて担うところが大きいため、各部門に対し、補助金の内容、期限を明示し、申請に滞りがないように推進していった。</li> </ul>
(4) 借入金の約定返済の履行	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 向こう10年間の借入金返済、借入金利息の把握を行い、約定返済の履行を確実に実施していった。また、利率の見直し時期が到来したものに対し、利率の引き下げを図るべく、金融機関との調整を行ってきた。</li> </ul>
(5) 余剰資金の運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現在保有している債券や株式の時価を毎月把握し、経営指標として提示できた。一方、借入金返済のピークを迎えている時期(令和5(2023)年度～令和7(2025)年度)にあることから、余剰資金の運用には至らなかった。</li> </ul>
(6) 経理・会計業務の適切・円滑な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ネット回線容量が低いことから派生する会計システム関連の時間的非効率性を、一部クラウド化することで解消し、効率的に運用することができている。しかしながら、学園全体のネット環境の解消には至っていない。</li> </ul>

## (6) 学園情報の積極的公開・開示および広報

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法令や補助金の要件に基づき、財務諸表や中期計画等を法人 WEB サイトに適切に公表。事前調整でスムーズな情報公開を実現。</li> <li>✓ 新設の「採用情報コンテンツ」で学園の魅力を発信し、メディア露出情報を136件掲載。学園リーフレットもリニューアルして配布。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 適切な情報の公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法令や補助金等で公表対象となる項目として、「財務諸表」「寄附行為」「役員状況」「中期計画・事業計画」「学生等及び教職員数」「その他計画・指針等」について要件・様式等に基づき適切に法人 WEB サイトにおいて遺漏なく公表することができた。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 関係部署には事前に公表時期や公表内容を共有することにより、事前調整ができスムーズに情報公開ができた。</li> </ul>
(2) 学園のブランド向上のための情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 法人 WEB サイトの充実策として「採用情報コンテンツ」を新規に設置。職員として求める人材や若手職員のインタビュー等を掲載し、学園の事務組織や人材の特徴や魅力を発信した。</li> <li>✓ 新聞掲載・TV 放送等のメディア露出案件について、法人 WEB サイトに情報を 136 件掲載した。うち、九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベントについて 2 件のメディア露出。</li> <li>✓ 学園リーフレットをフォーマルな形式にリニューアルして作成・配布した。</li> </ul>

## (7) 長期的視点での施設・設備等の整備戦略

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 前年度に導入した管財アドバザリー制度により、各部門の管財案件の現状と課題を把握したものもとに、資金支出を抑制し平準化するため、中長期的な修繕計画の策定に向け基盤を整備。日常の保守・管理、修繕、更新、新規投資を中長期的に管理する体制作りに努めた。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 施設・設備等の現状把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和 4(2022)年度、管財に関する総合アドバザリー制度の導入により、各部門の管財案件の現状と課題の把握を行った結果を元に、各部門の状況の現状把握に努めた。</li> </ul>
(2) 中長期的な修繕計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 建物・施設・設備等の更新・改修に必要な資金支出を抑制かつ平準化するため、長寿命化や高効率化の取組や工事の時期・規模の目安と指針とすることができる中長期的な修繕計画の策定に向け、その基盤作りに努めた。</li> </ul>
(3) 施設・設備管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園及び各部門の施設・設備等について、日常の保守・管理、修繕や更新及び新規投資に関する業務を管理するため、中長期的に管理できる体制作りの基礎を整えるよう努めた。</li> </ul>

## (8) 学園内の連携促進

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園責任者連絡会を年間 6 回開催し、IT・DX 化、財務健全化、SDGs イベントなどを協議。事務局長会を年間 11 回開催し、予算管理、IT・DX 化推進、SDGs イベントなどを議論。学園内募集担当者連絡会では、入学者数の状況や広報活動を共有。SDGs に関する連絡協議会を年間 4 回開催し、イベントの調整を行った。各分野別連携会議では、教育実習や就職支援、食物や福祉分野での連携事業を協議した。</li> </ul>	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学園責任者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年間 6 回開催。部門責任者間の情報共有と共通意識の醸成を目的とし、IT・DX 化、財務健全化、SDGs 推進宣言の日記念イベント、ペーパーレス化推進、中期計画改正、予算編成、事業計画策定等について協議・報告を行った。</li> </ul>
(2) 事務局長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年間 11 回開催。本部長および各部門の事務局長・事務長、法人事務局の課長、総合企画室長などを構成員として、理事長への建議、総合的な業務計画、予算編成・予算執行、各部門で特に連絡・調整・協議が必要な事項を審議することを目的とし、予算や資金収支状況の財務、中期計画・事業計画の進捗管理、IT・DX 化の推進、電力契約の見直し、SDGs イベントの協議、学園全体で検討・協議・報告すべき事項の共有を行った。</li> </ul>
(3) 会計担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和 5(2023)年 10 月 1 日より「インボイス制度」(適格請求書等保存方式)開始に引き続き、令和 6(2024)年 1 月からは、「改正電子帳簿保存法」が施行された。これらを受け、会計担当者会議の開催頻度(例年 4 回開催→6 回開催)を上げ、担当者間で対応につき共有化を図ってきた。</li> </ul>
(4) 学園内募集担当者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全体会議を 1 回開催(4/28)。入学者数の状況、各部門の募集・広報活動の実績と計画、WEB サイトの閲覧状況の分析、部門間で連携した募集広報策の検討など、情報共有と意見交換を行った。</li> <li>✓ WG(長崎国際大学・長崎短期大学・九州文化学園高校)を 1 回開催(10/12)。内部進学を促進を企図し、進路希望状況、オープンキャンパス申し込み状況、高校との部門間連携の取り組みなどについて情報共有と意見交換を行った。</li> <li>✓ その他、認定こども園九州文化学園幼稚園と九州文化学園小学校、九州文化学園中学校と九州文化学園高校間においても内部進学促進のため、打ち合わせや情報共有を個別に実施した。</li> </ul>
(5) SDGs に関する連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年間 4 回開催(第 1 回：8/17、第 2 回：10/25、第 3 回：12/19、第 4 回：2/20)。3/15 に開催した九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベントのスケジュールや内容、</li> </ul>

	役割分担、集客広報などについて、各部門から選出された担当者により協議や調整を行った。
(6) 各分野別の連携会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「九州文化学園幼稚園と長崎短期大学保育学科との連絡協議会」を2回開催(第1回:5/23、第2回:3/29)。ボランティア・教育実習、就職・採用、教職員の相互交流などについて情報共有と意見交換を行った。また、就職・採用に関する連絡部会を1回開催(10/31)。</li> <li>✓ 「食物分野に関する連絡協議会」を1回開催(6/22)。長崎国際大学健康栄養学科、長崎短期大学食物栄養コースおよび製菓コース、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園高校食物調理科の担当者により、小学生や中学生の食物分野への関心を高めるための取り組みや連携事業などについて情報共有や協議検討を実施。合同実施事業の開催には至らなかったが、年度中に各部門が行うイベントなどにおいて共通のハッシュタグ(#九文わくわく「フード」×「サイエンス」教室)を付けることとした。</li> <li>✓ 「福祉分野に関する連絡協議会」の大学・高校WGを1回開催(7/28)。長崎国際大学社会福祉学科、九州文化学園高校保育福祉科福祉コースの担当者により、高大連携事業について協議。9/14に九州文化学園高校福祉コース1・2年生対象の大学体験(ミニOPC)を実施し、大学教員がファシリテータを務める体験型のイベント「避難所運営ゲームHUG」を開催した。</li> </ul>

## (9) SDGsの推進

取組の総括	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園責任者連絡会、事務局長会、SDGs連絡協議会で「第3回九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベント」を協議し、開催。イベントには多くの学生、教職員が参加し、SDGsの理解を深めた。学園WEBのSDGsコンテンツの充実は無達成だったが、メディアへの露出に成功。</li> <li>✓ 法人事務局は働き方改革や女性の活躍推進に努め、毎週火曜日に清掃活動を実施。記念イベントで規格外食材を使ったお惣菜販売やエコバッグ作成を行い、SDGs意識の向上を図った。</li> </ul>
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学園全体の取組推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園責任者連絡会、事務局長会及びSDGsに関する連絡協議会において協議・検討を行い、「第3回九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベント」を3/15に開催。長崎国際大学を会場に、「九州文化学園高校吹奏楽部によるオープニング演奏」「SDGs講演(九州教具グループ代表船橋修一氏)」「各部門によるブースイベント(9ブース)」「ブーススタンプラリー(賞品として平和公園千羽鶴の灰を釉薬に使った波佐見焼SDGsピンバッジ)」「作品展示」「表彰(公募作品表彰、ベストブース賞、推進部門賞)」「能登半島地震義援金募金」を実施。学園内の学生・生徒・児童及び教職員が参加。各部門の「令和6年度SDGs実績報告書」を作成・共有するなどして、SDGsの趣旨理解や認識の向上を図った。</li> <li>✓ 学園WEBサイトのSDGsコンテンツの充実や、各種取組の積極的な広報までには至らなかったが、記念イベントについては新聞社及びケーブルTVへ露出することができた。</li> </ul>
(2) 法人事務局内の取組推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園全体として、「次世代育成支援対策推進法及び女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画」の見直しを行い、特に働き方改革を意識して策定・公表を行った。また「教職員の仕事と子育ての両立を推進」のため諸制度の整備や周知を行うとともに、「女性教職員の活躍推進」に努めることで、女性管理職(教員における教授職を含む)の割合が26.3%となった。</li> <li>✓ 法人事務局としては毎週火曜日を「法人事務局周辺の清掃活動」の日として、法人本部棟前の歩道を含め清掃活動を行った。</li> <li>✓ 「第3回九州文化学園SDGs推進宣言の日記念イベント」には、九州文化学園調理師専門学校と協働し、規格外食材を活用した「お惣菜販売」と販売時に使用する「英字新聞でエコバック作成」を行った。</li> <li>✓ 法人事務局の職員にSDGsの趣旨や重要性を認識させるため、年度ごとに担当制とし、多くの職員が関わりを持ち、SDGsへの意識を向上させた。また、本年度は法人事務局として調理師専門学校と共同でブース運営を行い、部門間連携の利点を生かして、SDGsへのアイデアを共有し、意識向上に努めた。</li> </ul>

## 10. 学園全体

### (1) 学園全体に関する計画

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園全体のDX化推進については、専門アドバイザーの支援のもと現状の把握とグランドデザイン、ロードマップの基本構想化と、ネットワークの再構築に向けた次年度の予算化を実現した。一方、学園内のシステム化については候補の検討を行い、インフラ整備後に具体化することとした。</li> <li>✓ 新規案件への挑戦については、社会的ニーズを踏まえて、観光分野、理系分野に関する企画について調査・検討を進めた。</li> </ul>	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 学園全体のDX化推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ IT・DX 専門アドバイザーに業務委託を行い、各部門の現地調査、書面調査、ヒアリング調査を実施。また、関連する各ベンダーへのヒアリングも行い、学園全体および各部門の現状と課題を確認。DX グランドデザインを含む提案書およびロードマップの提案を受けた。この提案を受けて、学園全体のネットワーク再構築(第1段階)の令和6年度(2024年度)予算化を行った。</li> </ul>
(2) 決裁フローと情報伝達の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ IT ツールやシステム導入の前提となるインフラ環境の整備が十分ではないことが判明したため、決裁フローと情報伝達の効率化の実現には至らなかったが、専門アドバイザーの提案に基づき、グループウェアやワークフローシステム候補の検討を行った。</li> </ul>
(3) 学園の成長力確保に向けた新しい挑戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「新設・改組などの新規案件の調査や実現可能性の検討」に関して、海外機関または地域と連携した新分野への挑戦に向けた調査及び計画・検討を行った。</li> <li>✓ 「既存組織の教育改革」及び「経営管理体制・組織の強化」に関しては、予算及び人員に制限のある中で、具体的な改革・強化にまで着手できなかった。</li> </ul>

### (2) その他特記事項

取組の総括	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年度に80周年を迎えるため、次年度以降、具体化に向けて検討することとしている。</li> <li>✓ 改正・公布されている私立学校法の施行時期が迫る中、寄附行為の改正に向けた検討を進めている。</li> </ul>	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) 創立80周年への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 周年事業の具体的な検討には至らなかったが、今後の広報及び寄附活動を見据えて、学園リーフレットの見直しを行った。</li> <li>✓ 令和6(2024)年度中に、周年事業の実施計画や体制等を整備予定。</li> </ul>
(2) 私学法の改正への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和7(2025)年4月施行への対応に向けて、法人事務局及び法律等の専門知識を有するアドバイザーの協力の下、寄附行為の改正案の検討を進めた。</li> </ul>

## 11.法人全体の計画の進捗・達成状況

### (1) 中期計画における財務上の数値目標の達成状況

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 経常収支差額について	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園全体の経常収支はマイナス状態となり、中期計画の目標達成には至らなかった。</li> <li>✓ 主な要因はコロナ禍の中、過年度の学生募集活動等が十分にできなかった影響が継続していることが挙げられる。</li> </ul>
(2) 自己資金の確保について	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 厳しい収支状況により、自己資金の確保には至らなかった。</li> </ul>
(3) 借入金の約定返済について	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 約定返済の確実な履行を実施した。</li> </ul>
(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園全体の経営判断指標による経営状態は前年度の「A3」から「B0」と1段階下がる結果となった。</li> </ul>

### (2) 中期計画における実施計画の達成状況

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 成長力の確保について	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎国際大学において、外国人留学生の受入れ促進のため、長崎留学支援センターと留学生就職促進プログラムに着手。また、西九州大学との包括連携協定に基づく各種事業を実施した。</li> <li>✓ 九州文化学園小中学校において、小中連携を見越したカリキュラムを作成した。</li> <li>✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園において、リーダー育成と、全職員が当事者意識を持って園経営に参画できるように発信を行った。</li> <li>✓ 九州文化学園歯科衛生士学院において共学化を実施した。</li> </ul>
(2) 教育力の向上について	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長崎短期大学において、SD・FDを年間15回(学内13回、学外1回、合同1回)実施し、教育の質の向上に努めた。</li> <li>✓ 九州文化学園高校において、学園内の各部門との分野連携を進めるとともに、体系的な職員研修を計画することとした。</li> <li>✓ 九州文化学園歯科衛生士学院において、学生の個別指導を充実させ成績不振者対策を実施した。</li> </ul>
(3) 重点戦略について	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 戦略Ⅰ「建学の精神・理念に基づく人財養成と内部質保証の担保」については、全教職員への事業計画書の閲覧、新入教職員対象キャンパス・ツアーの実施、法人WEBサイトへの「九州文化学園の求める人材像」明記、刷新した学園リーフレットの配布等により、建学の精神、学園及び各部門の方針や計画、目的等の共有を行い、内部質保証に繋がる組織の醸成を行った。また認定こども園九州文化学園幼稚園では、長崎短期大学と九州文化学園高校からの実習生等の受け入れを保育者自身の自己研鑽の機会とした。</li> <li>✓ 戦略Ⅱ「成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実」については、長崎国際大学において、入学前教育や初年次・低学年時教育の改善を行い大学教育への円滑な接続に努めた。さらに社会福祉学科においては社会福祉士の高い合格率を達成できた。また長崎短期大学地域共生学科製菓コースでは、長期就業体験を導入し教育とキャリア形成の充実を行った。一方、九州文化学園中学校では、ハウステンボス株式会社の新社長を講師に招くなどキャリア教育の充実を努めた。</li> <li>✓ 戦略Ⅲ「グローバル化と社会連携の強化、ステークホルダーとの関係強化」については、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、対面での授業や学外実習、学内・校内の各種行事、地域や海外との交流事業が徐々に元に戻りつつある。九州文化学園小学校では、欧米系の体験入学児童の受入れを行うことができた。また吹奏楽に関して、長崎短期大学及び九州文化学園高校の教員及び部員が、地域において積極的な音楽活動を実施した。</li> <li>✓ 戦略Ⅳ「ICT化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上と経営の効率化」については、外部のIT・DX専門アドバイザーの支援によりIT・DXの現状把握と課題の整理、マスタープラン案の提案を受けた。また学園ネットワークの再構築の一環として、まず長崎国際大学のSINET接続を実施した。また九州文化学園高校においては新入生全員へのタブレット貸与を開始し授業への活用を推進した。</li> <li>✓ 戦略Ⅴ「認知度やブランド力の向上と入学定員・収容定員の充足」については、長崎短期大学や九州文化学園小中学校、専門学校部門でSNSを活用した広報を推進した。一方で入学者の確保については、大学・短期大学部門で外国人留学生の入学者数の増</li> </ul>

	<p>加の一方で日本人学生の減少、県立高校入試の変更の影響も受けた九州文化学園高校の入学者の減少などもあり、収容定員の充足には課題が残った。また九州文化学園調理師学校において Instagram の投稿を年間約 200 回行うなど情報発信に努めた。</p> <p>✓ 戦略VI「財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化」については、奨学金の見直し、経費節減等に努めた結果、前年度より収支は改善したものの、収支均衡には至らなかった。</p>
(4) 経営資源の配分について	<p>✓ 人的資源については、前年度に引き続き、現有の人員を最大限に活用する配置や、教育の質向上につながる新規採用や必須の後任補充を行ったが、人口減少下における労働人口の不足の影響も踏まえて、成長力や競争力を確保するために計画的な人材育成や組織の再編などが課題となっている。</p> <p>✓ 予算の配分については、収入は微増したものの、物価上昇等の影響もあり支出も増加し、収支差額は厳しい状況であったため、引き続き効率的な経費執行のため当初予算、補正予算の編成を行った。</p>

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 決算の概況

##### ① 貸借対照表の状況の経年比較

##### ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:百万円)

	令和元 (2019) 年度末	令和2 (2020) 年度末	令和3 (2021) 年度末	令和4 (2022) 年度末	令和5 (2023) 年度末
固定資産	14,301	14,338	14,575	14,482	14,316
流動資産	2,216	2,041	1,823	1,568	1,129
資産の部合計	16,517	16,379	16,398	16,050	15,445
固定負債	2,664	2,358	2,322	2,057	1,702
流動負債	1,267	1,278	1,272	1,442	1,432
負債の部合計	3,931	3,637	3,595	3,499	3,135
基本金	18,521	18,963	19,415	19,622	19,984
繰越収支差額	△5,935	△6,221	△6,612	△7,071	△7,674
純資産の部合計	12,586	12,742	12,803	12,551	12,310
負債および純資産の部合計	16,517	16,379	16,398	16,050	15,445

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

##### イ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率名	算式	令和元 (2019) 年度末	令和2 (2020) 年度末	令和3 (2021) 年度末	令和4 (2022) 年度末	令和5 (2023) 年度末
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{事業活動支出}}$	16.8	19.3	17.8	14.1	11.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	174.9	159.7	143.3	108.7	78.8
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	23.8	22.2	21.9	21.8	20.3
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	431.3	414.3	364.4	316.6	222.0
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	96.5	96.9	96.1	97.8	98.7
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	53.0	48.3	43.6	38.0	30.3

(備考)「運用資産」= 現金預金+特定資産+有価証券

「外部負債」= 借入金+学校債+未払金+手形債務

「要積立額」= 減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基本金+第3号基本金

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

収入の部	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度末	令和5 (2023) 年度末
学生生徒等納付金収入	4,012	3,945	3,804	3,802	3,873
手数料収入	66	59	59	60	54
寄付金収入	14	61	153	16	11
補助金収入	1,201	1,417	1,389	1,405	1,435
資産売却収入	0	0	0	61	1
付随事業・収益事業収入	317	351	386	334	322
受取利息・配当金収入	22	27	28	27	26
雑収入	199	183	181	188	230
借入金等収入	800	0	420	0	130
前受金収入	473	454	458	452	418
その他の収入	1,561	1,738	1,698	1,709	1,803
資金収入調整勘定	△663	△621	△588	△582	△632
前年度繰越支払資金	2,306	2,040	1,881	1,671	1,431
収入の部合計	10,309	9,654	9,870	9,142	9,103

支出の部	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度末	令和5 (2023) 年度末
人件費支出	3,150	3,226	3,270	3,292	3,351
教育研究経費支出	1,463	1,562	1,474	1,574	1,607
管理経費支出	628	642	719	760	726
借入金等利息支出	25	24	22	18	15
借入金等返済支出	332	322	472	355	276
施設関係支出	109	183	470	170	196
設備関係支出	144	216	128	228	100
資産運用支出	410	24	55	0	0
その他の支出	2,247	1,828	1,818	1,816	2,217
資金支出調整勘定	△240	△253	△229	△503	△314
翌年度繰越支払資金	2,040	1,881	1,671	1,431	928
支出の部合計	10,309	9,654	9,870	9,142	9,103

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

科目	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度末	令和5 (2023) 年度末
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	5,782	5,989	5,949	5,796	5,925
教育活動資金支出計	5,227	5,428	5,462	5,625	5,683
差引	555	561	487	171	241
調整勘定等	△18	△2	△33	40	△90
教育活動資金収支差額	537	560	453	211	151
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	23	24	23	8	2
施設整備等活動資金支出計	253	399	599	398	297
差引	△231	△375	△576	△390	△295
調整勘定等	△604	△1	3	224	△203
施設整備等活動資金収支差額	△834	△375	△573	△166	△498
小計(教育活動資金収支差額 +施設整備等活動資金収支差額)	△297	185	△120	45	△347
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,249	1,615	1,536	1,670	1,853
その他の活動資金支出計	2,212	1,950	2,111	1,959	2,014
差引	37	△335	△102	△289	△160
調整勘定等	△6	△9	12	4	4
その他の活動資金収支差額	31	△91	△91	△285	△157
支払資金の増減額(小計+その他の活動 資金収支差額)	△266	△159	△210	△240	△503
前年度繰越支払資金	2,306	2,040	1,881	1,671	1,431
翌年度繰越支払資金	2,040	1,881	1,671	1,431	928

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

ウ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率名	算式	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度末	令和5 (2023) 年度末
教育活動資金収支差額 比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	9.3	9.4	7.6	3.6	2.5



③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

イ) (単位:百万円)

科目	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度末	令和5 (2023) 年度末
<b>教育活動収支</b>	事業活動収入の部				
学生生徒等納付金	4,012	3,945	3,804	3,802	3,873
手数料	66	59	59	60	54
寄付金	14	63	154	16	12
経常費等補助金	1,179	1,393	1,366	1,398	1,434
付随事業収入	317	351	386	334	322
雑収入	194	180	180	187	230
教育活動収入計	5,782	5,991	5,950	5,797	5,925
<b>教育活動収支</b>	事業活動支出の部				
人件費	3,182	3,261	3,301	3,295	3,376
教育研究経費	1,832	1,941	1,880	1,989	2,037
管理経費	638	669	748	796	768
徴収不能額等	8	12	7	7	6
教育活動支出計	5,661	5,884	5,936	6,086	6,188
教育活動収支差額	121	107	14	△289	△263
<b>教育活動外収支</b>	事業活動収入の部				
受取利息・配当金	22	27	28	27	26
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	22	27	28	27	26
<b>教育活動外収支</b>	事業活動支出の部				
借入金等利息	25	24	22	18	15
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	25	24	22	18	15
教育活動外収支差額	△3	3	6	9	10
経常収支差額	118	110	20	△280	△253
<b>特別収支</b>	事業活動収入の部				
資産売却差額	0	0	0	11	1
その他の特別収入	45	49	42	22	13
特別収入計	45	49	42	34	14
<b>特別収支</b>	事業活動支出の部				
資産処分差額	1	0	0	4	2
その他の特別支出	19	1	1	2	0
特別支出計	20	1	1	6	2
特別収支差額	25	41	41	28	12
基本金組入前当年度収支差額	143	157	61	△252	△241
基本金組入額合計	△826	△445	△452	△214	△389
当年度収支差額	△683	△289	△392	△466	△630
前年度繰越収支差額	△5,257	△5,935	△6,221	△6,612	△7,071
基本金取崩額	5	3	0	7	27
翌年度繰越収支差額	△5,935	△6,221	△6,612	△7,071	△7,674
<b>ウ) (参考)</b>	事業活動収入計				
	5,849	6,066	6,019	5,858	5,965
<b>ウ) (参考)</b>	事業活動支出計				
	5,706	5,910	5,958	6,110	6,205

(備考) 金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

工) 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率名	算式	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度末	令和5 (2023) 年度末
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入(※)}}$	54.8	54.2	55.2	56.6	56.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入(※)}}$	31.6	32.3	31.5	34.2	34.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入(※)}}$	11.0	11.1	12.5	13.7	12.9
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	2.4	2.6	1.0	△4.3	△4.0
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入(※)}}$	69.1	65.8	63.6	65.3	65.1
経常収支差差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入(※)}}$	2.0	1.8	0.3	△4.8	△4.3

(備考)※「経常収入」 = 教育活動収入 + 教育活動外収入

## 2.その他

### ① 有価証券の状況 ＜総括表＞

(単位:百万円)

種類			
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	117	172	55
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	631	555	△76
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合計	748	727	△21
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価のない有価証券	852		
有価証券合計	1,599		

(備考)金額は種類ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

### ＜明細表＞

(単位:百万円)

種類			
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	330	303	△27
株式	112	167	55
投資信託	306	257	△49
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合計	748	727	△21
時価のない有価証券	852		
有価証券合計	1,599		

(備考)金額は種類ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

### ② 借入金の状況

(単位:百万円)

借入先	期末残高	利率	返済期限
十八親和銀行 浜田町支店	144	0.80%	令和 12(2030)年 12月 31日
〃	81	0.50%	令和 8(2026)年 9月 30日
〃	244	0.60%	令和 23(2041)年 6月 30日
〃	104	0.95%	令和 15(2033)年 3月 31日
十八親和銀行 佐世保中央支店	69	2.10%	令和 7(2025)年 12月 31日
〃	248	0.95%	令和 10(2028)年 12月 31日
〃	81	0.50%	令和 8(2026)年 9月 30日
三井住友銀行 佐賀支店	71	短プラ+0.95	令和 8(2026)年 3月 31日
合計	1,041		

### ③ 学校債の状況

✓ 該当なし

### ④ 寄付金の状況

(単位:千円)

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
研究助成金	企業・任意団体	6,584	
上記以外のその他の寄付金	校友、父母、篤志家等	4,859	
現物寄付(上記寄付金を除く)		12,284	

⑤ 補助金の状況

✓ 様々な補助金獲得に向け、各部門とも推進した結果、前年度比3%増加した。しかしその一方、国の予算減少に伴う、圧縮傾向に憂慮している。

⑥ 収益事業の状況

✓ 該当なし

⑦ 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

✓ 関連当事者は、理事1名との間で土地の賃借の賃貸契約があり、関係法人は2社あり、出向契約、施設設備の賃貸契約等を締結している。また役員の近親者と顧問契約をそれぞれ理事会の審議承認の上、締結している。

イ) 出資会社

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は次のとおりである。

(i) ザ・グローバルズ株式会社

① 事業内容	ホテル・旅館の経営、レストラン・飲食店・売店の経営、学校・病院・福祉施設及びその付帯施設の管理・清掃・警備業務、研究・教育機器及びそれらの備品・書籍・教材等の販売・リース業、他		
② 資本金	40,000,000 円 (800 株)		
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日			
平成 17(2005)年 1 月 26 日	8,500,000 円	170 株	85.00 %
平成 17(2005)年 4 月 6 日	30,000,000 円	600 株	96.25 %
平成 18(2006)年 1 月 19 日	1,500,000 円	30 株	100.00 %
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額			
イ. 事務所賃借料	2,160,000 円		
ロ. 支払手数料他	54,871,610 円		
ハ. 未払金	4,201,176 円		
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。		

(ii) ケイ・エム・サポート株式会社

① 事業内容	不動産賃貸、売買、仲介斡旋、管理業務、病院・福祉施設の経営、病院・福祉施設及びその付帯施設の管理、清掃、警備業務、医療機器・同器具及びそれらの備品の販売・リース業他		
② 資本金	100,000,000 円 (他に資本準備金 1,101,000,000 円、24,020 株)		
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日			
平成 18(2006)年 7 月 21 日	800,000,000 円	16,000 株	66.61 %
平成 28(2016)年 3 月 25 日	1,000,000 円	20 株	66.69 %
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額			
イ. 受取利息・配当金	12,000,000 円		
ロ. 備品・消耗品費他	165,000 円		
ハ. 未払金	15,000 円		
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。		

(iii) 南風崎MGレジデンス株式会社

① 事業内容	不動産賃貸、業務仲介斡旋、借上げ寮の運営、日本語学校「長崎日本語学院」の運営		
② 資本金	1円(普通株式1,600株)		
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日	令和3(2021)年3月8日	1円	1,600株 100.00%
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額			
イ. 自販機電気料	669,187	円	
ロ. 支払手数料他	146,120,794	円	
ハ. 未払金	8,901,090	円	
ニ. 未収入金	23,079	円	
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。		

⑧ 学校法人間財務取引

該当なし
------

3.経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 経営状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コロナ禍等の影響により減少を続けていた学生生徒等納付金収入が増加に転じた。</li> <li>✓ 外部資金(補助金)の獲得に努め、法人全体で増加となった。</li> <li>✓ 長崎短期大学・九州文化学園小中学校・九州文化学園調理師専門学校部門は、収支の均衡が取れていない。</li> </ul>
(2) 経営上の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 財務状況の改善に努めた結果、令和5(2023)年度は前年度より若干改善した。</li> <li>✓ しかし、法人全体の経常収支の均衡には至っていない。</li> <li>✓ その要因を分析し、次年度以降の予算執行に繋げていく。</li> </ul>
(3) 今後の方針・対応方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 令和6(2024)年度は収支の均衡化を進めている。</li> <li>✓ 健全な財務状態の事業体においても、経営の効率化を推し進め、収益力の向上に努めていく。</li> </ul>

#### IV. 令和5年度 計算書類

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 資金収支計算書     | 別紙1のとおり |
| 2. 活動区分資金収支計算書 | 別紙2のとおり |
| 3. 事業活動収支計算書   | 別紙3のとおり |
| 4. 貸借対照表       | 別紙4のとおり |
| 5. 財産目録        | 別紙5のとおり |

別紙1

1.資金収支計算書

令和5(2023)年4月1日から  
令和6(2024)年3月31日まで

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,878,963,000	3,873,230,470	5,732,530
手数料収入	59,843,000	54,125,860	5,717,140
寄付金収入	10,261,000	11,443,038	△1,182,038
補助金収入	1,410,371,000	1,434,934,681	△24,563,681
国庫補助金収入	789,375,000	812,568,240	△23,193,240
地方公共団体補助金収入	453,391,000	447,942,419	5,448,581
その他補助金収入	167,605,000	174,424,022	△6,819,022
資産売却収入	594,000	594,000	0
付随事業・収益事業収入	331,639,000	321,709,517	9,929,483
受取利息・配当金収入	25,972,000	25,905,220	66,780
雑収入	273,754,000	230,346,552	43,407,448
借入金等収入	130,000,000	130,000,000	0
前受金収入	469,658,000	417,619,945	52,038,055
その他の収入	1,724,360,273	1,803,450,295	△79,090,022
資金収入調整勘定	△589,305,100	△631,605,448	42,300,348
前年度繰越支払資金	1,431,134,226	1,431,134,226	0
収入の部合計	9,157,244,399	9,102,888,356	54,356,043
支出の部			
人件費支出	3,429,351,000	3,350,688,121	78,662,879
教育研究経費支出	1,621,768,000	1,606,922,746	14,845,254
管理経費支出	727,930,000	725,872,325	2,057,675
借入金等利息支出	15,417,000	15,416,846	154
借入金等返済支出	276,300,000	276,300,000	0
施設関係支出	198,448,000	196,251,041	2,196,959
設備関係支出	126,082,000	100,359,906	25,722,094
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	2,101,568,002	2,216,845,800	△115,277,798
〔予備費〕	10,000,000		10,000,000
資金支出調整勘定	△258,299,006	△313,670,450	55,371,444
翌年度繰越支払資金	908,679,403	927,902,021	△19,222,618
支出の部合計	9,157,244,399	9,102,888,356	54,356,043

別紙2

2.活動区分資金収支計算書

令和5(2023)年4月1日から  
令和6(2024)年3月31日まで

(単位：円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,873,230,470
		手数料収入	54,125,860
		特別寄付金収入	11,244,767
		一般寄付金収入	198,271
		経常費等補助金収入	1,433,724,681
		付随事業収入	321,709,517
		雑収入	230,346,552
		教育活動資金収入計	5,924,580,118
	支出	人件費支出	3,350,688,121
		教育研究経費支出	1,606,922,746
		管理経費支出	725,815,409
		教育活動資金支出計	5,683,426,276
		差引	241,153,842
	調整勘定等	△89,974,191	
	教育活動資金収支差額	151,179,651	
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	施設設備寄付金収入	0
		施設設備補助金収入	1,210,000
		施設設備売却収入	594,000
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	0
		施設整備等活動資金収入計	1,804,000
	支出	施設関係支出	196,251,041
		設備関係支出	100,359,906
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	0
		施設整備等活動資金支出計	296,610,947
		差引	△294,806,947
	調整勘定等	△203,098,501	
	施設整備等活動資金収支差額	△497,905,448	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			△346,725,797
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	借入金等収入	130,000,000
		有価証券売却収入	0
		第3号基本金引当特定資産取崩収入	0
		預り金受入収入	1,678,765,040
		立替金回収収入	9,852,421
		仮払金回収収入	8,614,968
		敷金回収収入	65,000
		仮受金収入	110
		小計	1,827,297,539
		受取利息・配当金収入	25,905,220
		収益事業収入	0
		過年度修正収入	0
		その他の活動資金収入計	1,853,202,759
	支出	借入金等返済支出	276,300,000
		有価証券購入支出	0
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	0
		収益事業元入金支出	0
		預り金支払支出	1,701,597,795
		立替金支払支出	11,644,585
		仮払金支払支出	8,514,968
		仮受金支出	110
		小計	1,998,057,458
借入金等利息支出		15,416,846	
過年度修正支出	56,916		
その他の活動資金支出計	2,013,531,220		
	差引	△160,328,461	
	調整勘定等	3,822,053	
	その他の活動資金収支差額	△156,506,408	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			△503,232,205
前年度繰越支払資金			1,431,134,226
翌年度繰越支払資金			927,902,021



別紙3

3.事業活動収支計算書

令和5(2023)年4月1日から  
令和6(2024)年3月31日まで

(単位：円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異	
		学生生徒等納付金	3,878,963,000	3,873,230,470	5,732,530	
		手数料	59,843,000	54,125,860	5,717,140	
		寄付金	10,495,000	11,664,301	△1,169,301	
		経常費等補助金	1,410,371,000	1,433,724,681	△23,353,681	
		国庫補助金	789,375,000	812,568,240	△23,193,240	
		地方公共団体補助金	453,391,000	446,732,419	6,658,581	
		その他補助金	167,605,000	174,424,022	△6,819,022	
		付随事業収入	331,639,000	321,709,517	9,929,483	
		雑収入	273,754,000	230,346,552	43,407,448	
	教育活動収入計	5,965,065,000	5,924,801,381	40,263,619		
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異	
		人件費	3,455,211,000	3,376,448,187	78,762,813	
		教育研究経費	2,051,758,000	2,037,134,173	14,623,827	
管理経費		770,575,000	768,374,295	2,200,705		
徴収不能額等		6,335,000	6,097,390	237,610		
教育活動支出計		6,283,879,000	6,188,054,045	95,824,955		
教育活動収支差額		△318,814,000	△263,252,664	△55,561,336		
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異	
		受取利息・配当金	25,972,000	25,905,220	66,780	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	25,972,000	25,905,220	66,780	
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異	
		借入金等利息	15,417,000	15,416,846	154	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	15,417,000	15,416,846	154	
		教育活動外収支差額		10,555,000	10,488,374	66,626
		経常収支差額		△308,259,000	△252,764,290	△55,494,710
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異	
		資産売却差額	594,000	593,999	1	
		その他の特別収入	11,450,000	13,272,943	△1,822,943	
		特別収入計	12,044,000	13,866,942	△1,822,942	
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異	
		資産処分差額	0	1,698,391	△1,698,391	
		その他の特別支出	42,000	56,916	△14,916	
		特別支出計	42,000	1,755,307	△1,713,307	
		特別収支差額		12,002,000	12,111,635	△109,635
		【予備費】		10,000,000		10,000,000
基本金組入前当年度収支差額		△306,257,000	△240,652,655	△65,604,345		
基本金組入額合計		△640,521,000	△389,361,881	△251,159,119		
当年度収支差額		△946,778,000	△630,014,536	△316,763,464		
前年度繰越収支差額		△7,070,905,231	△7,070,905,231	0		
基本金取崩額		0	26,770,072	△26,770,072		
翌年度繰越収支差額		△8,017,683,231	△7,674,149,695	△343,533,536		
(参考)						
事業活動収入計		6,003,081,000	5,964,573,543	38,507,457		
事業活動支出計		6,309,338,000	6,205,226,198	104,111,802		

別紙4

4.貸借対照表

令和6(2024)年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	( 14,316,191,278 )	( 14,481,958,096 )	( △165,766,818 )
有形固定資産	< 12,707,260,819 >	< 12,872,938,877 >	< △165,678,058 >
土地	4,352,171,857	4,352,171,857	0
建物	6,362,414,337	6,432,979,441	△70,565,104
その他の有形固定資産	1,992,674,625	2,087,787,579	△95,112,954
特定資産	< 0 >	< 0 >	< 0 >
その他の固定資産	< 1,608,930,459 >	< 1,609,019,219 >	< △88,760 >
流動資産	( 1,128,707,007 )	( 1,568,388,813 )	( △439,681,806 )
現金預金	927,902,021	1,431,134,226	△503,232,205
その他の流動資産	200,804,986	137,254,587	63,550,399
資産の部合計	15,444,898,285	16,050,346,909	△605,448,624
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	( 1,702,080,437 )	( 2,057,203,695 )	( △355,123,258 )
長期借入金	1,041,200,000	1,421,450,000	△380,250,000
その他の固定負債	660,880,437	635,753,695	25,126,742
流動負債	( 1,432,483,180 )	( 1,442,155,891 )	( △9,672,711 )
短期借入金	500,500,000	266,550,000	233,950,000
その他の流動負債	931,983,180	1,175,605,891	△243,622,711
負債の部合計	3,134,563,617	3,499,359,586	△364,795,969
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	( 19,984,484,363 )	( 19,621,892,554 )	( 362,591,809 )
第1号基本金	19,538,484,363	19,175,892,554	362,591,809
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	446,000,000	446,000,000	0
繰越収支差額	( △7,674,149,695 )	( △7,070,905,231 )	( △603,244,464 )
翌年度繰越収支差額	△7,674,149,695	△7,070,905,231	△603,244,464
純資産の部合計	12,310,334,668	12,550,987,323	△240,652,655
負債及び純資産の部合計	15,444,898,285	16,050,346,909	△605,448,624

別紙5

5.財産目録

令和6(2024)年3月31日現在

I	資産総額	15,444,898,285	円
	内 基本財産	12,713,126,059	円
	運用財産	2,731,772,226	円
II	負債総額	3,134,563,617	円
III	正味財産	12,310,334,668	円

区分	金額
資産額	
1. 基本財産	12,713,126,059 円
土地	206867.19 m <sup>2</sup> 4,352,171,857 円
建物	67592.86 m <sup>2</sup> 6,362,414,337 円
教具・校具・備品	10,682 点 967,058,722 円
図書	133,562 冊 550,924,319 円
その他	480,556,824 円
2. 運用財産	2,731,772,226 円
現金預金	927,902,021 円
その他	1,803,870,205 円
資産総額	15,444,898,285 円
負債額	
1. 固定負債	1,702,080,437 円
長期借入金	1,041,200,000 円
その他	660,880,437 円
2. 流動負債	1,432,483,180 円
短期借入金	500,500,000 円
その他	931,983,180 円
負債総額	3,134,563,617 円
正味財産(資産総額－負債総額)	12,310,334,668 円